

Parallels® Plesk Panel

Parallels Plesk Panel 10

管理者ガイド

著作権表示

Parallels IP Holdings GmbH

Vordergasse 59

CH-Schaffhausen

Switzerland

電話番号 : +41-526320-411

FAX : +41-52672-2010

Copyright © 1999-2012 Parallels IP Holdings GmbH. All rights reserved.

この製品はアメリカ合衆国著作権法および国際著作権法によって保護されています。本製品のテクノロジー、特許、および商標について詳細は、<http://www.parallels.com/jp/about/legal/> を参照してください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、Windows Vista、およびMS-DOSは、Microsoft Corporationの登録商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の登録商標です。

Mac は Apple, Inc. の登録商標です。

その他のマークおよび名称は、それぞれの権利保有者の商標です。

目次

はじめに	9
フォント規則	9
フィードバック	10
Parallels Containers 内部のオペレーション	11
Parallels Plesk Panel の新機能	13
Panel 10.3	13
Panel 10.2	13
Parallels Plesk Panel を使い始める	15
サービスプロバイダビュー：サーバ管理パネル	17
サービスプロバイダビュー：コントロールパネル	19
パワーユーザビュー	21
マイ・アカウントとウェブスペース	23
パスワードと連絡先情報を変更する	24
Panel を Customer & Business Manager と連携させている場合	25
マイ・ウェブスペースに切り替える	26
顧客へのサービス提供およびリセラーの採用	27
プランおよび契約とは	28
リソースおよびサービスの割り当て	29
契約とサービス/アドオンプランの関係	30
契約とプランを同期する：契約の状態	31
プランと契約のプロパティ	33
ホスティングプランと契約	33
リセラープランと契約	48
顧客にサービスを提供する	51
サービスプランを管理する	51
ホスティングサービスを契約する	53
顧客に提供するサービスを変更する	56
顧客を管理する	59
サービス契約を管理する	62
リセラーを採用する	65
リセラーアカウント/契約を作成する	65
リセラー契約を変更する	66
オフファリングにサービスを追加する	68

Parallels Plesk Panel の設定 70

ライセンスキーの取得およびインストール	70
トライアルライセンスキーをアップグレードする	71
Parallels Plesk Panel アドオンに追加のライセンスキーをインストールする	72
ライセンスキーをアップグレードする	73
以前使用していたライセンスキーにロールバックする	73
Parallels Plesk Panel をセキュリティ保護する	74
Parallels Plesk Panel への管理アクセスを制限する	74
SSL 暗号化によりサーバ通信を保護する	75
外観	79
インターフェースプリファレンス	79
インターフェース言語を変更する	80
インターフェース言語をセットアップする	81
カスタムボタンを追加/削除する	82
ブランディング	84
セッション設定を変更する	84
Panel で顧客が行ったアクションのログをとる	86
アクションログをセットアップする	87
アクションログをダウンロードする	88
アクションログを消去する	88

サーバを構成する 89

サーバの IP プールを構成する	89
IP アドレスについて : IPv4 と IPv6	89
IPv6 を使用するための要件	90
リセラーとホスティング顧客への割り当て : Parallels Plesk Panel での手順	90
サーバ IP プールでの作業方法	91
サーバで使用するソフトウェアコンポーネントを表示/選択する	94
DNS サービスを構成する	94
NAT を行うルータの背後で稼働するように Panel を構成する	100
ファイアウォールの背後で稼働するように Panel を構成する	102
Panel に搭載されたソフトウェアファイアウォールの使用 (Windows ホスティング)	103
パッシブ FTP モード用にポート範囲を構成する (Windows)	107
メールサービスをセットアップする	108
スパム防御をセットアップする	112
ウイルス防御をセットアップする (Linux ホスティング)	123
ウイルス防御をセットアップする (Windows)	125
ウェブメールソフトウェアを選択する	125
Mailman メーリングリストソフトウェアを構成する (Linux ホスティング)	126
顧客による大量メール送信の防止 (Linux ホスティング)	127
Web Presence Builder を構成する	127
顧客開拓シナリオを構成する	128
Web Presence Builder トライアルモードの通知をカスタマイズする	129
Web Presence Builder 初心者用デモをカスタマイズする	132
Parallels Plesk Panel のデータベースホスティング設定	133
データベースサーバを追加する	134
データベースサーバ	136
外部データベース管理システムへの接続を構成する (Windows ホスティング)	137
外部データベースへの新規接続の作成 (Windows ホスティング)	137

既存の ODBC 接続設定を変更する (Windows)	138
外部データベースへの接続を削除する (Windows)	138
Adobe ColdFusion のサポートを有効にする (Linux ホスティング)	139
Google ウェブサイト サービスとの統合を有効化する	140
Panel ユーザに Google ウェブサイト サービスへのアクセス権限を付与する	143
モバイルサイト用の UNITY Mobile サービス	145
Miva e-コマースアプリケーションのサポートを有効化する (Linux ホスティング)	146
Miva e-コマースアプリケーションのサポートを有効化する (Windows ホスティング)	147
ASP.NET を構成する (Windows)	147
IIS アプリケーションプールを構成する (Windows)	150
統計を構成する	152
メール通知を構成する	152
システム日時を調整する	156
ウェブサーバのパイプログを有効化し、ウェブサービスの中断リスクを軽減する (Linux ホスティング)	157
モジュールとアドオンを追加する (Linux)	158
単一 IP アドレスで複数の SSL サイトをホスティングする (Linux ホスティング)	160
単一の SSL 証明書によりサイトをセキュリティ保護する (Windows ホスティング)	160
安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションの使用を制限する	162
スクリプティングオプション	162
Cron タスクスケジューラ経由でのスクリプト実行 (Linux ホスティング)	164
ヘルプデスクをセットアップする	165

システムを管理する 167

アプリケーションを管理する	167
顧客に提供されるアプリケーションはどのように決まるのか	170
アプリケーションヴォルトでアプリケーションを管理する	172
統計を表示する	175
レポート生成とメール配信を自動化する	177
ウイルスおよびスパム防御の統計を表示する (Windows)	177
ヘルスマニタでサーバヘルスをトラッキングする	178
ヘルスマニタをインストールする	178
サーバヘルスをトラッキングする	178
ヘルスマニタの値の精度	180
アラーム、傾向、メール通知を構成する	180
ハードウェアの交換後にヘルスパラメータを更新する	180
システム時間とサービス	181
メールサーバメッセージキューおよびトラブルシューティングメール輻輳をモニタリングする (Linux ホスティング)	183
タスクをスケジューリングする	184
Linux ベースのサーバ上でタスクをスケジューリングする	185
Windows ベースのサーバでタスクをスケジューリングする	187
追加管理者アカウント (Windows)	189
追加の管理者アカウントを作成する	189
追加の管理者アカウントを変更する	190
追加管理者アカウントを一時停止/有効化する	190
追加管理者アカウントを削除する	191
バックアップと復元	192
グローバルバックアップを構成する	192
FTP リポジトリを使用するように Panel を構成する	193
サーバ全体をバックアップする	194

個別アカウントとサイトをバックアップする	195
バックアップをスケジュールリングする	195
バックアップアーカイブからデータを復元する	197
サーバからのバックアップファイルのダウンロード	198
バックアップファイルをサーバにアップロードする	198
サーバからバックアップファイルを削除する	199
バックアップログ	199
リモートアクセス (Windows)	200
Panel および FTP サービスへの接続をモニタリングする	202
Panel への接続をモニタリングする	202
FTP サービスへの接続をモニタリングする	203
サーバへのターミナルセッション接続をモニタリングする (Windows)	204
ファイルおよびフォルダの共有	204
ファイル共有の設定	205
ファイル共有によるファイルの共有およびファイルへのアクセス	206
他のホスティングプラットフォームからデータを移行する	214
ファイルからデータをインポートする	216
Panel のアップデートおよびアップグレード	219
アップデータ設定を変更する	221
インストールとアップグレードでの問題を報告する	222

Customer & Business Manager を使用する 223

Panel 内の Business Manager ナビゲーションメニュー	225
リンクされたオブジェクト用の Business Manager コントロール	227
契約、プラン、顧客アカウントをビジネスマネージャに追加する	229

メール一括通知 231

メッセージテンプレートを作成、編集、および削除する	232
メール通知を送信する	234

イベントトラッキングメカニズムを使用する 236

イベントハンドラを追加する (Linux)	237
イベントハンドラを追加する (Windows)	238
イベントハンドラに指定するイベントパラメータ	240
管理者情報の更新	240
サービス停止	241
サービス起動	241
サービス再起動	241
IP アドレスの作成	241
IP アドレスの更新	242
IP アドレスの削除	242
セッション設定の更新	242
顧客アカウントの作成	242
顧客アカウントの更新	243
顧客アカウントの削除	244
顧客アカウントのステータス更新	244
顧客のインターフェース設定の更新	244
顧客 GUID の更新	244
リセラーアカウントの作成	245

リセラーアカウントの更新	245
リセラーアカウントの削除	246
リセラーアカウントのステータス更新	246
リセラーのインターフェースプリフェレンスの更新	246
リセラーの IP プールの更新	247
リセラーアカウントのディスク容量上限に到達	247
リセラーアカウントのトラフィック上限に到達	247
契約のディスク容量上限に到達	247
契約のトラフィック上限に到達	248
ウェブサイトの作成	248
ウェブサイトの更新	248
ウェブサイトの削除	248
契約所有者の変更	249
ウェブサイトのステータス更新	249
ドメイン DNS ゾーンの更新	249
ウェブサイト GUID の更新	250
ダブドメインの更新	250
サブドメインの削除	251
ドメインエイリアスの作成	251
ドメインエイリアスの更新	252
ドメインエイリアスの削除	252
ドメインエイリアスの DNS ゾーンの更新	253
リセラーアカウント制限の更新	253
契約制限の更新	254
Panel ユーザのログイン	254
Panel ユーザのログアウト	255
メールアカウントの作成	255
メールアカウントの更新	255
メールアカウントの削除	256
メールリングリストの作成	256
メールリングリストの削除	256
ホスティング設定の作成	256
ホスティング設定の更新	258
ホスティング設定の削除	259
標準またはフレーム転送ホスティングの作成	259
標準またはフレーム転送ホスティングの更新	259
標準またはフレーム転送ホスティングの削除	260
ウェブユーザアカウントの作成	260
ウェブユーザアカウントの更新	260
ウェブユーザアカウントの削除	261
ウェブアプリケーションのインストール	261
ウェブアプリケーションの再構成	262
ウェブアプリケーションのアンインストール	262
ウェブアプリケーションのアップグレード	263
ライセンスキーの更新	263
ライセンスキーの期限切れ	263
データベースサーバの作成	264
データベースサーバの更新	264
データベースサーバの削除	264
データベースの作成	264
データベースの削除	265
データベースユーザアカウントの作成	265

データベースユーザアカウントの更新	265
データベースユーザアカウントの削除	266
Parallels Plesk Panel コンポーネントの更新/追加	266
リセラープランの作成	266
リセラープランの更新	266
リセラープランの削除	267
リセラーのサービスプランの作成	267
リセラーのサービスプランの更新	267
リセラーのサービスプランの作成	267
管理者のサービスプランの作成	267
管理者のサービスプランの更新	268
管理者のサービスプランの作成	268
FTP アカウントの作成	268
FTP アカウントの更新	268
FTP アカウントの削除	269
サーバヘルスステータスの変更	269
イベントハンドラを削除する	269

用語集	270
-----------	-----

はじめに

フォント規則

当ガイドをご使用いただく前に、文書内の表記上の規則をご理解くださいますようお願い致します。

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

表記	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、ユーザが選択する必要がある項目。	[システム] タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「 基本管理 」の章を参照してください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダの指定などの、重要な箇所を強調するために使用されます。	システムはいわゆる <i>ワイルドカード</i> 文字検索に対応しています。
固定幅フォント	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。	ライセンスファイルは http://docs/common/licenses ディレクトリにあります。
書式設定済みフォント	コマンドラインセッションでの画面出力、XML、C++、その他のプログラミング言語のソースコード。	<pre># ls -al /files total 14470</pre>
書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	<pre># cd /root/rpms/php</pre>
アルファベット大文字	キーボード上のキーの名前	SHIFT、CTRL、ALT
KEY+KEY	ユーザがあるキーを押しながら他のキーを押す必要があるキーの組み合わせ。	CTRL+P、ALT+F4

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@parallels.co.jp 宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしてくださいませようお願い致します。

第 1 章

Parallels Containers 内部のオペレーション

以下の処理は、Parallels Containers 内で実行している間は Panel から実行できません。

- サーバのネットワークカードに IP アドレスを追加および削除する。
- ホスト名を変更する。
- システム日時を設定する。

Parallels Virtuozzo Containers ハードウェアノードに IP アドレスを追加した後で、サーバ管理パネルの IP 再読み込み機能（[ツールとユーティリティ] > [IP アドレス]）を使用して Panel の IP プールを更新する必要があります。

Parallels Containers 内に Panel をインストールした場合、コンテナ用にオフラインサービスパラメータを設定して、コンテナの管理に使用する Parallels Plesk Panel ウェブインターフェースと Parallels Power Panel の両方にアクセス可能にする必要があります。

デフォルトでは、コンテナはオフライン管理サービスに以下のパラメータが使用可能であるように設定されています。**VZPP-plesk**（ポート 8443 上の通信のリダイレクト）と **VZPP**（ポート 4643 上の通信のリダイレクト）。**VZPP-plesk** サービスを無効にする必要があります。この作業は、Parallels Management Console ユーティリティを使用して Parallels Virtuozzo Containers for Linux および Windows で行います。

➤ *Parallels Management Console を使用してコンテナを設定するには:*

1. Parallels Management Consoleを開きます。
2. Parallels Containersハードウェアノードに接続します。
3. [Virtuozzo Containers] をクリックします。
4. コンテナを選択して右クリックし、コンテキストメニューから [プロパティ] を選択します。
5. [ネットワーク] > [オフライン管理] に移動してVZPP-pleskサービスを無効にします。

➤ *Linux ベースのハードウェアノードでコマンドラインツールを使用してコンテナを設定するには:*

1. SSH経由でハードウェアノードに接続します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
vzctl set CT_ID --offline_management yes --offline_service vzpp --save
```

➤ *Linux* ベースのハードウェアノードでコマンドラインツールを使用してコンテナを設定するには：

1. リモートデスクトップ経由でハードウェアノードに接続します。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
vzctl set CT_ID --offline_management yes --save  
vzcfgt set CT_ID offlineservices vzpp
```

コンテナを設定すると、Panel からコンテナ管理機能にアクセスできます（ [ツール] > [サーバ管理] グループの [コンテナの管理] ）。

Parallels Plesk Panel の新機能

Panel 10.3

APS 1.2 のサポート

一部のアプリケーションは、新しい APS 1.2 エンジンをサポートしています。

- アプリケーションのユーザアカウントを Panel で直接作成または削除する。
- アプリケーションのユーザアカウントを Panel のユーザアカウントと関連付ける。
- サーバ全体のアプリケーション設定をアプリケーションヴォルトで直接構成する。
- 外部サービスとリンクしているアプリケーションをインストールし、ホスティングアカウントの操作を不要にする。

APS アプリケーションの管理について詳しくは、「**アプリケーションを管理する**（167ページ）」のセクションを参照してください。

ファイル共有

Panel を使用して、貴社とそのウェブスペースユーザが互いに（あるいはインターネット上の任意のユーザと）ファイルを共有することができます。詳しくは「**ファイルおよびフォルダを共有する**（204ページ）」のセクションを参照してください。

ビューの選択

サービスプロバイダビューとパワーユーザビューを、Panel の GUI を使用していつでも切り替えられるようになりました。旧バージョンの Panel では、この操作はコマンドラインで行う必要がありました。詳しくは「**Parallels Plesk Panel を使い始める**（15ページ）」を参照してください。

Panel 10.2

IPv6 サポート

Parallels Plesk Panel が、IPv6 アドレスの処理をサポートするようになりました。管理者とリセラーは IPv4 と IPv6 でサービスプランを提供したり、デュアルスタック契約（IPv4 アドレス x1 + IPv6 アドレス x1）を作成することができます。詳しくは、「**サーバ IP プールを構成する**（89ページ）」のセクションを参照してください。

Linux ベースの Panel サーバにおける SNI (Server Name Indication) 拡張

Parallels Plesk Panel for Linux では、共用 IP アドレスでホスティングされているサイトに対して認証済み SSL 証明書を使用できます。これは、TLS (Transport Layer Security) プロトコルに対する SNI (Server Name Indication) 拡張がサポートされたことにより実現しました。詳しくは、「**単一 IP アドレスで複数の SSL サイトをホスティングする (Linux ホスティング)** (160 ページ)」のセクションを参照してください。

契約なしの顧客アカウント

顧客アカウントの新規作成時に、この顧客のウェブサイト付きで契約を作成するか否かを選択できるようになりました。現時点では顧客用にウェブサイトをセットアップする必要がなく、他の顧客アカウントから契約を移管する場合や、後で契約をセットアップしたりする場合、契約なしでアカウントを作成すると便利です。

詳しくは、「**ホスティングサービスを契約する** (53 ページ)」のセクションを参照してください。

マイ・ウェブスペース

ホスティング顧客やリセラーにサービスを提供するパネル上で、管理者が自社のホスティングアカウントを簡単に作成できるようになりました。したがって、パワーユーザビュー (管理者が自社のホスティングアカウントを作成・管理するために使用) に切り替えても、引き続きホスティングの再販を続けることができます。このビューについて詳しくは、「**マイ・ウェブスペースに切り替える** (26 ページ)」セクションと「**パワーユーザビュー** (21 ページ)」セクションを参照してください。

第 3 章

Parallels Plesk Panel を使い始める

Panel のインストールと構成が完了した後で次にやるべき作業は、使用目的に適した Panel ビューの選択です。「サービスプロバイダ」と「パワーユーザ」という2種類のビューが用意されています。どちらのビューを使用するかは、Panel の用途に応じて選択します。ビューは、**【設定】 > 【インターフェース管理】** で簡単に切り替えられます。

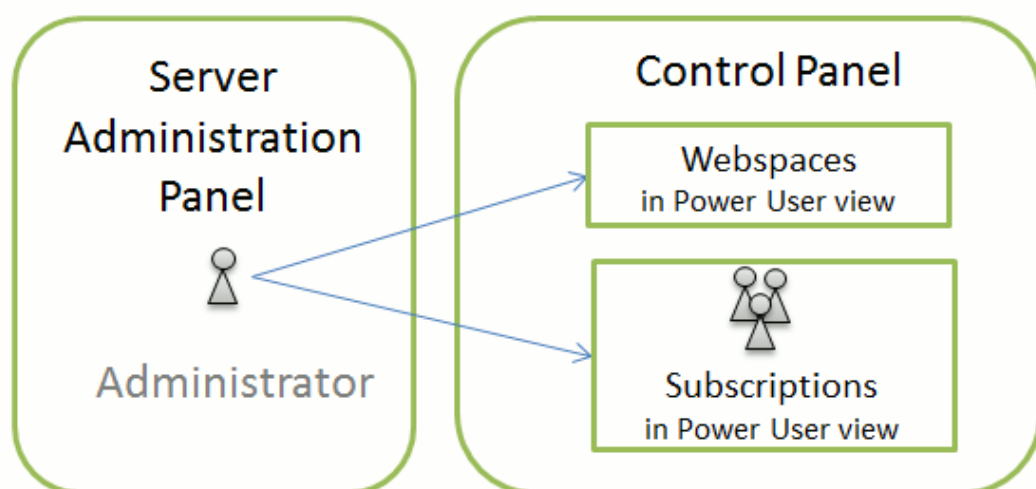
サービスプロバイダビューは、ホスティングサービスの再販に便利です。顧客アカウント、契約、サービスプランの作成と管理に必要なあらゆる機能が揃っています。このビューでは、Panel の機能は**サーバ管理パネル**（サーバの構成と管理用）と**コントロールパネル**（サーバでのホスティングサービスの管理用）という2つのパネルに分けられています。ホスティングサービスの提供について詳しくは、「**サービスプランと契約とは**（28ページ）」のセクションを参照してください。

2 番目のオプションであるパワーユーザビューは、社内ポータルやメールサーバの管理など、個人的なニーズのみに Panel を使用する場合に最適です。このビューでは、サーバ管理とホスティングサービス管理の両方をコントロールパネルで行います。このビューでは、自社以外へのサービスの再販は想定されていないため、ホスティングプラン、契約、リセラー、顧客の管理機能は用意されていません。また、このビューではコントロールパネルにサーバ管理機能が含まれているため、サーバ管理パネルはありません。

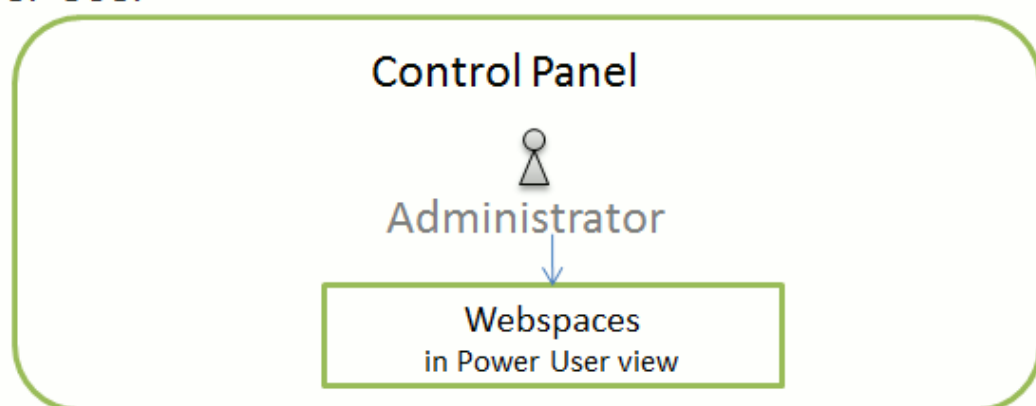
注： Panel をサービスプロバイダビューにすると、Panel 管理者は独自のホスティングアカウント（ウェブスペース）を作成したり、顧客（契約）のホスティングアカウントにアクセスすることができます。Panel はこれらすべてのアカウントをパワーユーザビューで開きます。

次の図は、2 種類のビューについてわかりやすく示しています。

Service Provider



Power User



続いて、パネルの GUI について詳しく説明します。

サービスプロバイダビュー：サーバ管理 パネル

Parallels Plesk Panel に管理者としてログインすると、割り当て済みおよび使用済みのリソース概要を示す [ホーム] ページが表示されます。

トップバナーエリアには以下のリンクがあります。

- **ログイン名のリンク**： クリックして、自分の連絡先情報を変更できます。
- **ログアウト**： Panel での作業が完了したら、これを押してセッションを終了します。

ヘルプ： 検索機能付きのコンテキストヘルプが表示されます。左側のナビゲーションペインから以下の機能にアクセスできます。

- **ホーム**： Panel での作業の起点となります。管理者が行うほとんどの作業は、このエリアから開始できます。
- **顧客**： ユーザアカウントの操作を行います。顧客とは、ホスティングサービスのエンドユーザーであり、ホスティングサービスの再販はできません。このエリアでは、以下のタスクを実行できます。
 - ユーザアカウントの作成、変更、一時停止、有効化、削除
 - トラフィック使用量レポートの表示
- **リセラー**： リセラーアカウントの操作を行います。リセラーはホスティングサービスを使用して、エンドユーザーにサービスを再販できます。他のユーザ用のリセラーアカウントを作成することはできません。このエリアでは、以下のタスクを実行できます。
 - リセラーとその顧客のユーザアカウントの作成、変更、削除。
 - トラフィック使用量レポートの表示
- **ドメイン**： ホスティング対象のウェブサイトとそのドメイン名を表示し、コントロールパネルに移動してそれらを管理することができます。
- **契約**： サービスに対する顧客契約を管理します。顧客は、契約を介して、サービスプランで提供されているサービスとリソースを利用できます。
- **サービスプラン**： サービスプランを管理します。サービスプランとは、ホスティングサービスを利用する顧客に契約を介して提供するリソースとサービスのセットです。また、サービスプランのアドオンを使用して、契約で提供するリソースとサービスの量を増やすこともできます。
- **ツールと設定**： システムサービス、ホスティングサービス関連のグローバル設定、および Panel のブランディングを構成および管理します。

- **モジュール**：このリンクは Linux ベースのホスティングサーバでのみ有効です。これをクリックすると、Parallels Plesk Panel に機能を追加する追加モジュールをインストールし、管理することができます。ファイアウォール、Counter-Strike ゲームサーバ、VPN などのモジュールを追加できます。
- **プロフィールとプリファレンス**：インターフェース言語とスキンの設定や、連絡先の変更を行います。
- **パスワードの変更**：管理者としてサーバ管理パネルにログインする場合のパスワードを変更します。

注：Panel に表示されているアイコンやリンクの数やそれらの配置は、利用可能なサービスの数、インストールされているアプリケーション、ソフトウェアライセンスに基づいて提供されている機能に応じて異なります。そのため、ここで説明した機能や項目は、実際に表示される画面とは異なる場合があります。現在 Panel に表示されていない機能を使用するには、ソフトウェアライセンスをアップグレードして必要なソフトウェアパッケージをインストールするか、ホスティングサービスプロバイダまでお問い合わせください。

Customer and Business Manager コンポーネントがインストールされている場合は、ナビゲーションペインに以下のリンクグループも表示されます。

- **ビジネスオペレーション**：顧客アカウントとサービス契約を管理します。
- **ビジネスのモニタリング**：アカウントレポートの表示や、請求書と支払の処理を行います。
- **ビジネスのセットアップ**：顧客にサービスを提供できるように Customer and Business Manager をセットアップします。

Customer and Business Manager について詳しくは、「Customer and Business Manager を使用する（223ページ）」の章を参照してください。

ツールまたはページ上のアイテムの詳細を確認するには、該当アイテムの上にカーソルを動かすと、このアイテムの補足情報を示す小さなボックスが表示されます。

ナビゲーションペインで選択した Panel の現在のセクションで利用できるツールは、右側のメイン作業エリアからアクセスできます。その他の操作は【その他のアクション】メニューから実行できます。

Parallels Plesk Panel でのナビゲーションには、パスバーを使用します。パスバーとは、画面右側のバナーエリアの下に表示される一連のリンクです。

前の画面に戻るには、パスバーのショットカットを使用するか、画面右上の【上へ】アイコンを使用します。

特定のパラメータでリストを昇順または降順に並び替えるには、カラムのヘッダでパラメータ名をクリックします。パラメータタイトルの横の小さな三角は並び順を示します。

サービスプロバイダビュー:コントロールパネル

コントロールパネルから以下の機能にアクセスできます。

- **ホーム**： 使用頻度の高いオペレーションにアクセスできます。ほとんどの管理タスクは、このページのリンクを使用して実行できます。
 - ウェブサイトでのリソース使用量の統計を参照する。
 - 新規ウェブサイトをホスティングし、統合された Web Presence Builder ビジュアルエディタを使用してコンテンツを作成する。
 - ファイルを管理する。
 - SSL 暗号化によりサイトをセキュリティ保護する。
 - メールアドレスをセットアップする。
 - ユーザ役割とユーザアカウントを管理する。
 - ウェブサイト上のアプリケーションを選択し、インストールする。
- **ユーザ**： ユーザアカウントとユーザ役割を作成、変更、削除するための機能を利用できます。
- **メール**： メールアドレスおよびメーリングリストを作成、変更、削除するための機能を利用できます。
- **ウェブサイトとドメイン**： ドメイン名の登録、ウェブサイトの作成・変更・削除、ホスティング機能、データベース、サブドメイン、ドメインエイリアスのセットアップ、ウェブサイト訪問統計の表示、およびウェブサイトで公開されたファイルの管理といった機能を利用できます。
- **アプリケーション**： 便利な機能をサイトに追加するブログ、フォトギャラリー、オンラインストアといったウェブアプリケーションをインストール、構成、削除する機能を利用できます。
- **統計**： ウェブサイトで使用されたトラフィックとディスク領域のレポートを作成します。
- **アカウント**： ホスティングパッケージの詳細の表示、連絡先情報の変更、Panel へのログインパスワードの変更といった機能を使用できます。

注： Panel に表示されているアイコンやリンクの数やそれらの配置は、利用可能なサービスの数、インストールされているアプリケーション、ソフトウェアライセンスに基づいて提供されている機能に応じて異なります。そのため、ここで説明した機能や項目が、実際に表示される画面とは異なる場合があります。現在 Panel に表示されていない機能を使用するには、ソフトウェアライセンスをアップグレードして必要なソフトウェアパッケージをインストールするか、ホスティングサービスプロバイダまでお問い合わせください。

タブの上部には、以下のリンクがあります。

- **自分の名前のリンク**： 連絡先情報の指定、メールアドレスの指定、Panel アクセス用の新しいパスワードの設定といった機能を実行できます。
- **ログアウト**： Panel での作業終了後に、このリンクを押してセッションを終了します。

- **ヘルプ** : コンテキストヘルプを表示します。

パワーユーザビュー

パワーユーザビューのコントロールパネルでは、以下の機能を利用できます。

- **ホーム**： 使用頻度の高いオペレーションにアクセスできます。ほとんどの管理タスクは、このページのリンクを使用して実行できます。
 - ウェブサイトでのリソース使用量の統計を参照する。
 - 新規ウェブサイトをホスティングし、統合された Web Presence Builder ビジュアルエディタを使用してコンテンツを作成する。
 - ファイルを管理する。
 - SSL 暗号化によりサイトをセキュリティ保護する。
 - メールアドレスをセットアップする。
 - ユーザ役割とユーザアカウントを管理する。
 - ウェブサイト上のアプリケーションを選択し、インストールする。
- **ユーザ**： ユーザアカウントとユーザ役割を作成、変更、削除するための機能を利用できます。
- **メール**： メールアドレスおよびメーリングリストを作成、変更、削除するための機能を利用できます。
- **ウェブサイトとドメイン**： ドメイン名の登録、ウェブサイトの作成・変更・削除、ホスティング機能、データベース、サブドメイン、ドメインエイリアスのセットアップ、ウェブサイト訪問統計の表示、およびウェブサイトで公開されたファイルの管理といった機能を利用できます。
- **アプリケーション**： 便利な機能をサイトに追加するブログ、フォトギャラリー、オンラインストアといったウェブアプリケーションをインストール、構成、削除する機能を利用できます。
- **統計**： ウェブサイトで使用されたトラフィックとディスク領域のレポートを作成します。
- **サーバ**： Panel のセットアップを制御し、サービスを管理します。
- **ウェブスペース**： ウェブスペースのセットアップと管理のための機能を利用できます。それぞれのウェブスペースは、1つのメインドメイン名に関連付けることも、1つの IPv4 アドレスと1つの IPv6 アドレスに関連付けることも、そのいずれかに関連付けることもでき、複数のウェブサイトのホスティングに適しています。個別のウェブスペースを作成して、SSL 保護されたウェブサイトを専用 IP アドレス上でホスティングすることができます。

注： Panel に表示されているアイコンやリンクの数やそれらの配置は、利用可能なサービスの数、インストールされているアプリケーション、ソフトウェアライセンスに基づいて提供されている機能に応じて異なります。そのため、ここで説明した機能や項目が、実際に表示される画面とは異なる場合があります。現在 Panel に表示されていない機能を使用するには、ソフトウェアライセンスをアップグレードして必要なソフトウェアパッケージをインストールするか、ホスティングサービスプロバイダまでお問い合わせください。

タブの上部には、以下のリンクがあります。

- **自分の名前のリンク**： 連絡先情報の指定、メールアドレスの指定、Panel アクセス用の新しいパスワードの設定といった機能を実行できます。
- **ログアウト**： Panel での作業終了後に、このリンクを押してセッションを終了します。
- **ヘルプ**： コンテキストヘルプを表示します。このビューに特化したガイドはありませんが、このリンクをクリックすると、管理者ガイドまたはコントロールパネルユーザガイドの関連ヘルプトピックが表示されます。

第 4 章

マイ・アカウントとウェブスペース

Panel 管理者は、自分のアカウント情報とパスワードをいつでも変更できます。この章では、これらを変更する方法と、パスワードを忘れた場合に復元する方法について説明します。さらに、ウェブスペース（独自のホスティングアカウント）を作成および管理する方法についても説明します。

パスワードと連絡先情報を変更する

➤ パスワードを変更するには：

1. ナビゲーションペインで [パスワード変更] リンクをクリックします。
2. 古いパスワードと新しいパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックします。

➤ 連絡先情報を変更するには：

1. ナビゲーションペインで [プロフィールとプリファレンス] リンクをクリックします。
2. 必要に応じて情報を更新し、[OK] をクリックします。

➤ パスワードを忘れた場合は、以下を実行してください。

1. ブラウザのアドレスバーに、Parallels Plesk PanelのURLを入力します。
2. 例えば、https://your-server.com:8443 と入力します。
3. Enterキーを押します。Parallels Plesk Panelのログイン画面が表示されます。
4. [パスワードを忘れた場合] リンクをクリックします。
5. 指示に従い、システムに登録したログイン名とメールアドレスを指定します。[ログイン] ボックスにはログイン名を、[メールアドレス] ボックスにはシステムに登録されているメールアドレスをそれぞれ入力し、[OK] をクリックします。
6. 暗号化したパスワードをシステムに保存しており、メールで送信できない場合は、秘密コードを使用して新しいパスワードをセットアップするよう指示されます。秘密コードはこの目的のために生成され、メールで送信されます。
7. パスワードリマインダ機能からのメールを受信したら、メッセージ本文のリンクをクリックしてください。新しいブラウザウィンドウが開きます。
8. ここで、ログイン名と新規パスワードを指定します。

フォームの [秘密コード] フィールドは、システムによって値が自動入力されています。値が入力されていない場合は、受信したメッセージから秘密コードをクリップボードにコピーしてフォームに貼り付けてください。
9. [OK] をクリックして送信します。

パスワードの復元方法を説明するメールが送信されます。

PanelをCustomer & Business Managerと連携させている場合

PanelをCustomer & Business Managerと正常に連携させるためには、2つのパスワードを変更する必要があります。1つ目のパスワードは、自分とBusiness ManagerがPanelで作業を行うためのパスワードであり、2つ目のパスワードは自分がBusiness ManagerとPanelにログインするためのグローバルパスワードです。

➤ *Business Manager*を導入しており、パスワードを変更するには：

1. 「パスワードと連絡先情報を変更する『ページ24』」の説明に従い、Panelのパスワードを変更します。
2. Business Managerの接続設定でパスワードを更新します。
 - a. [ビジネスのセットアップ] > [すべての設定] をクリックします。
 - b. [ホスティングパネル] をクリックします。
 - c. Panelが常駐しているグループのIDを選択します（*PleskUnix*または*PleskWin*）。
 - d. [編集] をクリックします。
 - e. パスワードを、ステップ1で指定したパスワードに変更します。
3. このパスワードをグローバルアカウントパスワードとして設定します。
 - a. Business Managerにログインしていることを確認して、ページ右上隅の[プロフィール] リンクをクリックします。
 - b. ステップ1で指定したパスワードをもう一度入力します。

マイ・ウェブスペースに切り替える

一般に、Parallels Plesk Panel の利用目的は、ホスティングサービスを販売するか、または自社のニーズ（会社ポータルの構築、メールサーバのセットアップなど）に対応するためです。これまでのバージョンでは、Panel 管理者として自社のサービスを実行しながらホスティングサービスを外部に販売するためには、顧客のようにホスティングサービスを契約する必要がありました。自社用の契約をした後で初めて、コントロールパネルで必要なサービスを構成することができました。

このバージョンから、管理者はサービスプランと契約の管理を続けながら、社内用のウェブスペースを構築・管理できるようになりました。Panel 10.2 以降でこの作業を行うには、サーバ管理パネルの **【ホーム】 > 【マイ・ウェブスペース】** グループを使用します。

各ウェブスペースはパワーユーザビューで開きます。このビューには、自社のホスティングアカウントの管理機能とサーバ管理機能が統合されています。これに対し、ホスティングプラン、リセラー、顧客に関連するアクションは、引き続きサーバ管理パネルで行います。

ホスティング顧客やリセラーに提供するサービスの管理に戻るには、コントロールパネルの上部にある **【サーバ管理パネルに戻る】** をクリックしてください。

パワーユーザビューについて詳しくは、「**パワーユーザビュー（21ページ）**」のセクションを参照してください。

第 5 章

顧客へのサービス提供およびリセラー の採用

プランおよび契約とは

Parallels Plesk Panel では、サービスプランと契約を使用してビジネスを構築できます。

ホスティングサービスの顧客

サービスプランとは、ホスティングサービスの顧客に提供するサービスとリソースのセットです。一般に、リソースにはサーバ上のディスク領域やウェブサイトホスティング用の帯域幅が、サービスにはウェブホスティングサービスやメールホスティングサービスなどが含まれます。Panel で作成したサービスプランは、特定のビジネスオファーとみなされます。

また、アドオンプランもあり、特定のサービスプランで顧客に提供されるリソースの量やサービス内容を拡張することができます。

契約とは、顧客に割り当てられたサービスプランのインスタンスです。特定の顧客に対して、サービスとリソースをサービスプランで提供するためには、この顧客をサービスプランに登録します。つまりこの顧客に対して契約を作成します。契約がどのようにサービスプランやアドオンと関連付けられるのかについては、「契約とサービスプラン/アドオンプランの関係（30ページ）」のセクションを参照してください。

ホスティングサービスを契約してウェブサイトやメールのホスティングができるのは、顧客だけではありません。パネル管理者やリセラーも、それぞれの目的に応じた契約を持つことができます。

契約はマルチドメインホスティング用であり、各ホスティング契約によって、ディスクスペースなどのリソースや、プランで定義して複数サイトのホスティングに必要なサービスが提供されます。それぞれの契約は、システムユーザアカウント（ホスティングの顧客が FTP、SSH、またはリモートデスクトップ接続経由でサーバに接続するために使用）と、IP アドレス（契約に対して独占的に割り当てることも、他の契約と共有することも可能）に割り当てられます。また、「メインドメイン」と呼ばれるドメイン（契約と一緒に作成され、システムリソースの割り当てに必要なドメイン）にもリンクされます。契約の名前はすべて「メインドメイン」にちなんで付けられ、このようなドメインはある契約から別の契約に移管することはできません。以下の図は、ドメインとウェブサイトが契約でどのようにホスティングされるのかを表しています。



ここでは、example.com と jenny.net が契約のメインドメインであり、オレンジ色の長方形で描かれた他のドメインはこれらの契約がホスティングしているウェブサイトです。

リセラー

ビジネスモデルでリセラーを利用する場合、プランと契約の機能は、ホスティングサービスの顧客に対するものとほぼ同様ですが、次のような違いがあります。

- このような場合、ここではリセラープランとリセラー契約について説明します。
- リセラーのアドオンプランは導入されていません。
- リセラーの契約はドメインにリンクされず、リセラーの契約はリソースとサービスのセットを提供します。契約リセラーはそれらを、自分の顧客または自分自身に属するサービス契約を用いて再配信します。

Panel ビジネスモデルにはいくつかの制約事項があります。以下の可能です。

- 顧客アカウントをリセラーアカウントに変換する。
- リセラー間で顧客アカウントを移動する。この操作は、アカウント間で顧客契約を移動させることで間接的に実行できます。契約の所有者を変更する方法は、「サービス契約を管理する（62ページ）」のセクションを参照してください。

リソースおよびサービスの割り当て

ホスティングサービスの顧客

サービスプランで提供可能なサービスを指定し、パネルはサービスプランで提供するサービスやリソースがシステム内で実際に利用可能かどうかのチェックは行いません。例えば、プランを作成するときに、サーバに ColdFusion がインストールされていないにも関わらず ColdFusion の提供を設定すると、パネルではそれが許可され、エラーや警告メッセージは表示されません。

契約は、各契約の作成中に割り当てられた、実際に存在するリソースとサービスを提供します。

リセラー

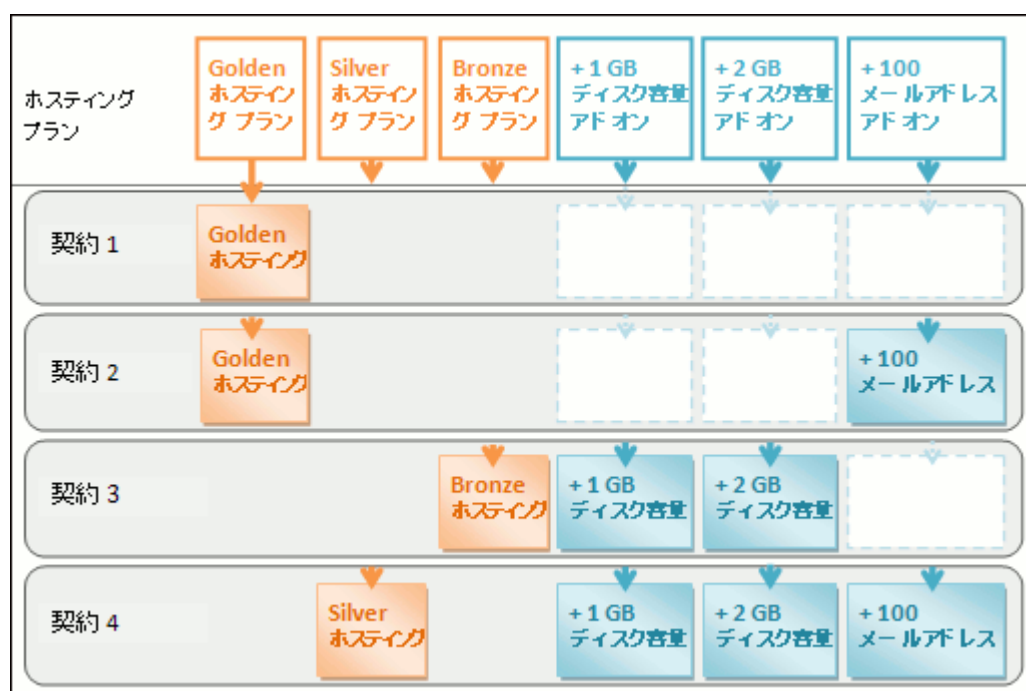
上記は、リセラー契約と、リセラーが作成したサービスプランに対して当てはまります。リセラーは、すべてのリソースおよびすべてのサービスと権限を無制限に含んだサービスプランを作成することが可能です。実際にリセラー契約でどのくらいの量のリソースやサービスが提供されているかは関係ありません。

契約とサービス/アドオンプランの関係

ホスティング契約

通常、契約はサービスプランに関連付けられており、この関連付けが契約のリストに反映されます。契約名の最後には、サービスプラン名が括弧で囲まれて付いています。契約で提供するリソース量とサービスは、契約にアドオンプランを適用して増やすことができます。契約を複数のアドオンに関連付けることができますが、1つのアドオンは1回しか契約に追加できません。

以下の図は、ホスティングプラン契約にプランとアドオンを適用する方法を示します。



契約にサービスプランを割り当てず、従ってアドオンプランも割り当てないことも可能です。アドオンは「メイン」サービスプランにのみ追加されます。このような契約はカスタム契約と呼ばれ、契約のリストでは名前に「(Custom)」と付いています。カスタム契約は、通常のビジネスモデル外で、特定の期間のみサービスを提供する場合に便利です。

以下のように、契約とプランの関連付けはいつでも変更できます。

- 契約を別のサービスプランに関連付ける。
- アドオンプランを追加および削除する。

契約とサービスプラン/アドオンの関連付けを解除する。**リセラー契約**

リセラー契約は、リセラープランと関連付けられているか、あるいはどのプランにも関連付けられていないカスタム契約であるかのいずれかです。

契約とプランを同期する：契約の状態

特定のプランに関連付けられている契約は、プランに対して同期されます。プランに変更を加えると、このプランに関連付けられているすべての契約に自動的に変更が適用されます。これは、あらゆる種類のプラン（サービスプラン、そのアドオン、リセラープラン）に該当します。

パネルでは、そのプランと同期されたデフォルト契約の状態から以下のように外れることが許可されています。

- **ロック済み**の状態は、同期がロックされていることを意味し、契約は関連プランの同期化から除外されます。
関連サービスプランのパラメータを変更せずに契約のパラメータを変更すると、契約はロックされます。ロックすることによってカスタマイズした内容は保護され、次にプランを変更したときに上書きされることはなく、その契約はすべて同期されます。
- **非同期**の状態は、関連サブプランが提供するサービスやリソースの一部が、その契約では実際には提供できないことを意味します。

同期されていない契約

パネルが、プランで指定したサービスやリソースのプロビジョニングをできない場合、契約に自動的に「非同期」のマークが付きます。これは以下の場合に発生することがあります。

- 契約を作成した。
- 関連プランのプロパティを変更した。
- アドオンプランを契約に追加または削除した。

ホスティング契約

プランにより、特定のリソースまたはサービスを変更する権限が契約者に付与される場合、このリソース/サービスの割り当ては同期されません。例えば、契約によって DNS ゾーン管理の権限が与えられる場合、関連するサービスプランの DNS ゾーン設定は同期時に無視されます。

➤ 契約のリソースまたはサービスのうち、プランと同期されていないものを確認するには：

1. **【契約】** に移動して、同期されていない契約名をクリックします。
2. **【同期】** をクリックします。

パネルが契約と関連プランの同期を再試行します。同期に失敗すると、競合しているプロパティが表示されます。

競合レポートは忘れずに書き留めてください。影響を受けるプロパティと、そのプランの値と使用可能な値をメモしておきます。

このページで **【OK】** をクリックすると使用可能な値で契約が設定され、**【キャンセル】** をクリックすると何も変更されません。

特定さえできれば、問題を解決できます。それには以下の 2 つの方法があります。

1. プランを、システムの実際の状態に合わせます。
2. システムを、プランが提供するリソースとサービスに合わせます。

➤ システムに合わせてプランのプロパティを変更するには：

1. **【サービスプラン】** > **<プラン名>** に移動します。
2. 問題のあるプロパティの値を変更して、**使用可能な値**にします（上記参照）。
3. **【アップデートして同期】** をクリックします。

契約が自動的に同期されます。

➤ システムを調整して契約を再同期するには：

1. システムの調整：競合レポートの手順をすべて実行して（不足コンポーネントのインストールやハードディスクの追加など）、システムを調整します。
2. **【契約】** に移動して、同期されていない契約名をクリックします。
3. **【同期】** をクリックします。

パネルが契約と関連プランの同期を再試行します。

リセラー契約

➤ **契約のリソースまたはサービスのうち、プランと同期されていないものを確認するには：**

1. **【リセラー】** に移動して、同期されていないリセラー名をクリックします。
2. **【同期】** をクリックします。

パネルが契約と関連プランの同期を再試行して、同期に失敗すると競合しているプロパティを表示します。

競合レポートを忘れずにメモしておいてください。影響を受けるプロパティと、その**プランの値と使用可能な値**をメモしておきます。

このページで **【OK】** をクリックすると使用可能な値で契約が設定され、**【キャンセル】** をクリックすると何も変更されません。

何が問題か分かれば、それを解決することができます。それには以下の 2 つの方法があります。

1. プランを、システムの実際の状態に合わせます。
2. システムを、プランが提供するリソースとサービスに合わせます。

➤ **システムに合わせてプランのプロパティを変更するには：**

1. **【サービスプラン】** に移動します。
2. **【リセラープラン】** タブをクリックし、リストの **<プラン名>** をクリックします。
3. 問題のあるプロパティの値を変更して、**使用可能な値**にします（上記参照）。
4. **【アップデートして同期】** をクリックします。

契約が自動的に同期されます。

➤ **システムを調整して契約を再同期するには：**

1. システムの調整：競合レポートに記載されていたことをすべて実行して（IPアドレスの設定やハードディスクの追加など）、システムを調整します。
2. **【リセラー】** に移動して、同期されていないリセラー名をクリックします。
3. **【同期】** をクリックします。

パネルがリセラー契約と関連プランの同期を再試行します。

プランと契約のプロパティ

ホスティングプランと契約

ホスティングプランと契約のプロパティは以下のようにグループ分けされています。

- **リソース**

有効期限、利用超過リソースのポリシー、ディスクスペースやトラフィックなどのシステムリソース、およびウェブサイト/サブドメイン/メールボックス/データベースなどのサービスリソースが含まれます。

- **パーミッション**

提供サービスおよび権限が含まれます。

注：一部のパーミッションは、以下のサービスの設定が同期（31ページ）されないように保護します。詳細は「**パーミッション**（38ページ）」のセクションを参照してください。

- **ホスティングパラメータ（サービスプランのみ）**

提供しているホスティングサービスのパラメータが含まれます。.

- **PHP 設定**

カスタマイズ可能な PHP 設定が含まれます。

- **メール（サービスプランのみ）**

提供しているメールサービスのパラメータが含まれます。

- **DNS（サービスプランのみ）**

契約のドメインの DNS ゾーンがマスターまたはスレーブでなければいけないかどうかを指定します。

注：DNS ゾーン管理権限が提供されると、このパラメータは同期されず、契約者はこのパラメータをドメインベースごとに設定することができます。

- **パフォーマンス（サービスプランのみ）**

プランで提供する全サービスのパフォーマンスに影響するパラメータが含まれます。

- **ログと統計（サービスプランのみ）**

プランの契約の統計とログを保管する方法の設定が含まれます。

注：ホスティング、メール、DNS、パフォーマンス、ログと統計のパラメータは、サービスプランに対してのみ、サーバ管理パネルで表示して変更することができます。契約に対しては、これらのパラメータはコントロールパネルでのみ使用できます。特定の契約のパラメータを表示または変更するには、[契約] に移動して、契約名の隣の [コントロールパネル] をクリックします。また、契約にてこれらのパラメータを使用できるかどうかは、パーミッションに基づいて決まります。

- **アプリケーション**

契約者に対して提供するアプリケーションを選択できます。

リソース

利用超過ポリシー

契約でのリソース使用量が上限に達した場合に何が起こるのかを定義します。3 種類の利用超過シナリオから、最適なものを自由に選択できます。

- 契約を一時停止する。

- ディスク容量とトラフィックの利用超過を許可する。
- すべてのリソースの利用超過を許可する。

注： 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された上限には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合でも、必ずメールボックスに十分なディスク領域を割り当ててください。

ディスク領域

契約に割り当てられたディスク領域の合計です。その契約に関連するすべてのファイル（ウェブサイトのコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、バックアップファイル）によって占有されるディスク領域が含まれます。

トラフィック

1ヶ月あたりに契約のウェブサイトおよび FTP/Samba シェアから転送できるデータの量です。

制限値に到達した場合に通知する

利用超過が許可されない場合に限り使用できます。契約が一時的に停止されないように、ディスク領域またはトラフィックの使用量のソフトクォータを設定します。クォータに達すると、[設定] > [通知] の [契約がリソース使用量の上限を超過した場合] オプションで指定したユーザやメールアドレス宛てにパネルから通知が送信されます。

Web Presence Builder を使用して公開するサイト：

Web Presence Builder で公開可能なウェブサイトの数です。

ドメイン

契約者が契約内でホスティングできるドメイン名の総数です。これには、ウェブサイト、他のサーバでホスティングしているウェブサイト宛てのウェブ転送、およびウェブサイトまたはウェブ転送がまだ設定されていないドメイン名（ホスティングのないドメイン）が含まれます。

モバイルサイト

契約者が UNITY Mobile オンラインサービスホスティングできるウェブサイトの総数です。それによってモバイルデバイスによるサイトの表示が最適化されます。

サブドメイン

契約者が契約内でホスティング可能なサブドメインの総数です。

ドメインエイリアス

契約者がウェブサイトで使用可能な追加の代替ドメイン名の総数です。

メールボックス

契約者が契約内でホスティング可能なメールボックスの総数です。

メールボックスのサイズ

契約内の各メールボックスに割り当てられたディスクスペースであり、そこにメールメッセージおよび自動返信の添付ファイルを保管します。

総メールボックスクォータ（Windows ホスティングに限り使用可能）

契約内の全メールボックスが使用可能な総ディスクスペース（メガバイト）です。

メールリングリスト

契約者が契約内でホスティング可能なメールリングリストの総数です。

追加 FTP アカウント

契約内で作成されたファイルとフォルダにアクセスするために使用する FTP アカウントの最大数です。契約の作成時に常に作成されるアカウントは、この数に含まれません。

データベース（Unix ホスティング）

パネルのデータベースサーバ上で作成し契約者のウェブサイトで使用可能なデータベースの総数です。

MySQL データベースおよび Microsoft SQL Server データベース（Windows ホスティング）

Panel のデータベースサーバ上で作成でき、契約のウェブサイトで使用できる MySQL および Microsoft SQL Server データベースの最大数。

MySQL データベースクォータおよび Microsoft SQL データベースクォータ（Windows ホスティング）

契約の MySQL および Microsoft SQL Server データベースがそれぞれ占有できるディスクスペースの上限（メガバイト）を指定します。

有効期間（Validity period） / 有効期限（Expiration Date）

契約で使用される用語です。

サービスプランのプロパティでは「**有効期間**」です。これは、契約の作成時にのみ使用されます。Panel は、この情報から契約の有効期限を認識します。

契約のプロパティでは「**有効期限**」です。契約はこの日付に一時停止されます。つまり、契約内のすべてのサイトが一時停止され、インターネットユーザがウェブ、FTP、メールサービスにアクセスできなくなり、契約者とそのユーザはコントロールパネルにログインできなくなります。

契約は自動的に更新されないため、契約のサービスを正常に復旧するためには、手動で契約を有効にする（62ページ）必要があります。

Java アプリケーション

契約のウェブサイトでホスティング可能な Java アプリケーションまたはアプレットの総数です。

ウェブユーザ

契約者がウェブサイトで他のユーザに対してホスティングできる個人ウェブページの総数。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的な個人用ページをホスティングする教育機関に使用されています。通常、このようなページのアドレスは、<http://example.com/~webuser> のような形式になります。

FrontPage アカウント（Windows ホスティング）

契約者が契約内に作成できる Microsoft FrontPage アカウントの最大数です。

共用 SSL リンク（Windows ホスティング）

契約者が契約内で使用できる共用 SSL リンクの総数です。

ODBC 接続（Windows ホスティング）

契約者が契約内で使用できる ODBC 接続の総数です。

ColdFusion DSN 接続（Windows ホスティング）

契約者が契約内で使用できる ColdFusion DSN 接続の総数です。

パーミッション

パーミッションは、契約で提供される権限とサービスを定義します。

DNS ゾーン管理

契約者はこれを使用してドメインの DNS ゾーンを管理できます。

注：このパーミッションが提供されている場合、DNS サービス設定は同期されません。

ホスティング設定管理

契約で提供されるホスティングサービスのパラメータを変更できます。ホスティングアカウント機能を変更したり、プログラム言語およびスクリプト言語、カスタムエラー文書、SSL サポート、および Microsoft FrontPage サポート（Windows のみ）のサポートのオン/オフを切り替えることができます。

注：このパーミッションが提供されている場合、上述のホスティングパラメータは同期されません。

PHP セーフモード管理（Linux/Unix ホスティング）

契約者は、サイトに対するホスティングパラメータ（PHP セーフモードなど）を切り替えることができます。デフォルトでは PHP は機能上の制限からセーフモードで操作するよう設定されています。ただし、ウェブアプリケーションによっては、セーフモードが有効になっている正常に動作しないことがあります。PHP セーフモードについての詳細は <http://php.net/features.safe-mode> を参照してください。

注：このパーミッションが提供されている場合、このパラメータは同期されません。

プロバイダのポリシーを上書きする、潜在的に非セキュアなウェブスクリプトオプションのセットアップ ホスティングセキュリティポリシーがセットアップされている場合、契約者がこれをオーバーライドできます。ポリシーのコンフィグレーションの詳細については、「潜在的に非セキュアなウェブスクリプトオプションの使用制限」（162ページ）のセクションを参照してください。

SSH 経由のサーバへのアクセス管理（Linux/Unix ホスティング）

Access over SSH サービスを提供します。このサービスを使用すると、契約者は自らのシステムユーザアカウントを使用して SSH 経由でサーバシェルにアクセスできます。また、契約者は「**契約のシステムユーザ下のサーバシェルへの SSH アクセス**」などのホスティングパラメータをセットアップできます。

注：このパーミッションが提供されている場合、上述のホスティングパラメータは同期されません。

リモートデスクトップを介したサーバへのアクセス管理（Windows ホスティング）

契約者は、リモートデスクトップ経由でサーバにアクセスできます。

匿名 FTP 管理

匿名 FTP サービスを提供します。契約者はこのサービスを使用して、FTP プロトコル経由で共有されており匿名ユーザが使用可能なディレクトリをセットアップすることができます。このサービスを提供するためには、契約が専用の IP アドレスに固定されている必要があります。

スケジューラ管理

スケジューラサービスを提供します。契約者はこのサービスを使用して、スクリプトまたはユーティリティをスケジュールできます。

Linux 上で Parallels Plesk Panel を稼働している場合の、スケジュールしたタスクに適用される新しいセキュリティ設定については「Cron タスクスケジューラ経由でのスクリプト実行（164ページ）」のセクションで説明しています。

スパムフィルタ管理

契約者は、SpamAssassin スパムフィルタのフィルタ設定をカスタマイズできます。

アンチウイルス管理

契約者は、送受信メールに対するサーバ側でのアンチウイルス保護設定を変更できます。

サーバリポジトリを使用したデータのバックアップおよびリストア

バックアップ/リストアサービスを提供します。契約者はこのサービスによって、サーバ上のストレージをバックアップのために使用できます。

個人 FTP レポジトリを使用したバックアップおよびリストア

バックアップ/リストアサービスを提供します。契約者はこのサービスによって、外部 FTP サーバを使用してバックアップを格納できます。

ウェブ統計管理

契約者は、ウェブ統計などのホスティングパラメータをセットアップできます。たとえば、使用するウェブ統計エンジンを選択したり、特定のパスワード保護されたディレクトリ経由でデータにアクセスできるかどうかを切り替えることができます。

注：このパーミッションが提供されている場合、上述のホスティングパラメータは同期されません。

ログローテーション管理

契約者は、自分のサイトに関する処理済みのログファイルのクリーンアップや再利用を調整することができます。また、ログファイルの削除も可能です。

注：このパーミッションが提供されている場合、[ログと統計]（46ページ）パラメータは同期されません。

アプリケーションカタログへのアクセス

契約者は、あらかじめパッケージされたアプリケーションにアクセスし、ウェブサイトインストールできます。このオプションを選択する場合、[ホスティングパラメータ] タブで [PHP サポート] チェックボックスをオンに、[PHP safe_mode オン] チェックボックスをオフにしてください。

ドメイン作成

契約者は、ドメインの追加、ウェブサイトの作成、ウェブ転送のセットアップを実行できます。

サブドメイン管理

契約者は <subdomain>.<domain> アドレスを使用して追加のウェブサイトをアクセス可能にできます。

ドメインエイリアス管理

契約者は、自分のウェブサイトに追加の代替ドメイン名をセットアップし、許可することができます。

追加 FTP アカウントの管理

契約者は、契約のファイルとフォルダにアクセスするための FTP アカウントを管理できます。

Java アプリケーション管理

契約者は、ウェブサイトに Java アプリケーションおよびアプレットをインストールできます。

メーリングリスト管理

契約者は、GNU Mailman ソフトウェアで提供されているメーリングリストを使用できます。

注：このパーミッションが提供されている場合、メーリングリストの有効化パラメータ（45ページ）は同期されません。

ホスティングパフォーマンス設定管理

契約者は、ウェブサイトの帯域幅使用量と接続数の制限をセットアップできます。

注：このパーミッションが提供されている場合、帯域幅使用量と接続数に対する [パフォーマンス] 設定（46ページ）は同期されません。

IIS アプリケーションプール管理（Windows ホスティング）

専用の IIS プールサービスを提供します。契約者は、自分の IIS アプリケーションプールを管理できます。たとえば、プールを有効化/無効化したり、プールで利用できる CPU の最大量をセットアップすることができます。

注：このパーミッションが提供されている場合、「専用プールの使用」というパフォーマンスパラメータ（46ページ）は同期されません。

追加の書き込み/変更の権限管理 (Windows ホスティング)

契約者は、追加の書き込み/変更パーミッションなどのホスティングパラメータを切り替えることができます。これらのパラメータは、契約者のウェブアプリケーションが `httpdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベース (Jet など) を使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトのセキュリティが著しく低下する危険性があります。

注：このパーミッションが提供されている場合、上述のホスティングパラメータは同期されません。

共用 SSL 管理 (Windows ホスティング)

共用 SSL サービスを提供します。契約者は、契約に含まれるウェブサイトへの共用 SSL リンクをセットアップできます。

ハードディスククォータ割り当て

契約者は、ハードディスククォータなどのホスティングパラメータをセットアップできます。

注：このパーミッションが提供されている場合、上述のホスティングパラメータは同期されません。

データベースサーバの選択

契約者は、常にデフォルトデータベースサーバを使用する代わりに、各種データベースサーバを選択してデータベースを作成できます。

ホスティングパラメータ

これらのパラメータは、プランで提供されるホスティングサービスを定義します。

注： 明記されている場合を除き、**ホスティング管理**パーミッションが選択されている場合はパラメータは同期されません。

ホスティングの有効化

ホスティングサービスがプランで実際に提供されているかどうかを定義します。

メールサービスのみを提供するサービスプランを作成する場合は、このオプションをクリアしてください。このようなプランの契約者は、メールボックスとして機能する「ホスティングなしのドメイン」を持つことができます。

ハードディスククォータ

ディスクスペースに対し、ソフトクォータに加えて、ハードクォータを割り当てます（「**到達時に通知する**」（34ページ）オプションで設定します）。ハードディスククォータを設定すると、制限に達した場合にウェブスペースにファイルをそれ以上書き込めなくなります。ユーザがファイルを書き込もうとすると、「ディスクの空き容量不足」エラーが表示されます。

注：（Linux/Unix ホスティング）「**無制限**」以外の値を設定する場合は、OS がハードディスククォータに対応していることをあらかじめ確認してください。対応していない場合にハードディスククォータを定義すると、プランのすべての契約で同期競合が発生します。契約とプランの同期に関する詳細は、「**契約とプランを同期する**」（31ページ）のセクションを参照してください。

SSL サポート

契約内でホスティングされているウェブサイトには SSL 暗号化をセットアップできます。

ウェブ統計

契約のウェブサイトの訪問状況に関するレポートを作成する統計エンジンを選択します。レポートには、サイトの訪問者数、訪問者が閲覧するウェブページなどが記載されています。

【パスワード保護ディレクトリ「/plesk-stat/webstat/」からアクセス可能】オプションを設定すると、契約者はシステムユーザアカウントのログイン名とパスワードを使用して <https://example.com/plesk-stat/webstat> のような URL からウェブサイトの統計を閲覧できます。

注： **ウェブ統計管理**パーミッションが選択されている場合、このパラメータは同期されません。

カスタムエラードキュメント

契約者は、HTTP エラーコードと共にウェブサーバから返される独自のエラーページをデザインし、使用することができます。

契約のシステムユーザ下のサーバシェルへの SSH アクセス（Linux/Unix ホスティング）

契約者は、SSH 経由でサーバにウェブコンテンツをセキュアにアップロードできます。

注: SSH 経由のサーバへのアクセス管理パーミッションが選択されている場合、このパラメータは同期されません。

スクリプティング

ウェブサーバで解釈・実行・処理すべきプログラム言語とスクリプト言語のサポート: Microsoft ASP.NET フレームワーク、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Perl、Python、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Microsoft または Apache Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、ColdFusion、および Miva E-コマースソリューションの実行に必要な Miva スクリプト

調整可能な PHP 設定について詳しくは、「PHP 設定 (44 ページ)」のセクションを参照してください。

追加の書き込み/変更パーミッション (Windows ホスティング)

このオプションは、契約者のウェブアプリケーションが `httpdocs` フォルダの `root` にあるファイルベースのデータベース (Jet など) を使用している場合に必要です。このオプションを選択すると、ウェブサイトのセキュリティが著しく低下する危険性があります。

ウェブユーザにスクリプトの使用を許可する

`http://example.com/~<username>/<webpage>` (<username> はウェブユーザ) のような形式の URL で表示されるウェブページでのスクリプティングを許可します。

ウェブユーザとは、専用のドメイン名を必要としない個人です。このサービスは主に、教育機関が、学生やスタッフの個人用ページをホスティングする目的で使います。

FrontPage サポート (Windows ホスティング)。契約者は FrontPage サポートグループのオプションにより、Microsoft Frontpage を使用してサーバを接続したり、ウェブサイトを作成することができます。

PHP 設定

【ホスティングパラメータ】タブでは、以下の PHP 設定を調整できます。

- **PHP ハンドラタイプ**：
 - **ISAPI**（Windows のみ）：このモードでは、サーバリソースの消費が抑えられますが、ウェブサイトは専用の IIS アプリケーションプール上で稼働している場合に限り隔離されます。
 - **Apache モジュール**（Linux のみ）：このモードでは、サーバリソースの消費が抑えられますが、セキュリティは最も低くなります。PHP セーフモードをオンにした場合に限り、サイトが隔離されます。
 - **FastCGI アプリケーション**：このモードは CGI より高速ですが、メモリ消費が増えます。サイト隔離が可能です。
 - **CGI アプリケーション**：このモードでは、処理速度が最も遅くなりますが、メモリの消費を最も低く抑えることができます。

注：PHP を **Apache モジュール** から **FastCGI アプリケーション** に切り替えると、既存の PHP スクリプトが正しく機能しなくなる可能性があります。

- **PHP バージョン**（Windows のみ）：
 - バージョン 4.x は古いバージョンです。旧バージョンの PHP アプリケーションをホスティングする必要がある場合にのみ使用してください。
 - 最新バージョンである 5.x の使用を推奨します。

それぞれのホスティングプランや契約について PHP 構成を個別に調整することができます。この目的のために、Panel の【**PHP 設定**】タブには多数の PHP 構成の設定が用意されています。契約ごとのカスタム PHP 構成について詳しくは、「**PHP 構成をカスタマイズする**」を参照してください。

メール

これらのパラメータは、プランで提供されるメールサービスを定義します。

ウェブメール

ウェブメールサービスを提供します。契約内のメールボックスのユーザはこのサービスにより、ウェブベースのメールアプリケーションを使用してメールを操作することができます。

メーリングリストの有効化

契約のウェブサイトで、GNU Mailman ソフトウェアで提供されているメーリングリストサービスが有効になります。

注： **メーリングリスト管理**パーミッションが選択されている場合、このパラメータは同期されません。

存在しないユーザ宛てのメールに関するポリシー

契約のドメインに登録すべきであるにも関わらず実際には存在していないメールアドレスに対して送信されたメールメッセージをどのように処理するのかを定義します。以下のオプションをご利用いただけます。

- **メッセージ付きで拒否する：**メールをメッセージ付きで送信者に返します。
- **アドレスに転送する：**メールを他のメールアドレスに転送します。
- **拒否：**メールを受け取らずにメッセージなしで拒否します。この設定により、ランダムに生成されたユーザ名宛てに大量のスパムが送信されることによるメールサーバの負荷を軽減することができます。ただし、有効なメールアドレスを求めてメールサーバをスキャンする処理が高速化されるため、スパム送信者にとって有利な機能となる可能性があります。
- **指定した IP アドレスの外部メールサーバに転送する（Windows ホスティング）：**指定したメールサーバにメールを転送します。

DNS

これらのパラメータは、Panel で管理しているサーバ上で稼働している DNS サービスが、プランでホスティングされているウェブサイトの DNS ゾーンにどのようにサービスを提供するのかを定義します。

マスター

マスターまたはプライマリのネームサーバはサービス提供先のゾーンファイルをローカルに保存しますが、セカンダリサーバはプライマリからこのファイルのコピーを取得するだけです。

スレーブ

スレーブまたはセカンダリサーバは、プライマリネームサーバからゾーンファイルのコピーを取得します。

パフォーマンス

これらのシステムパラメータは、プランで提供されているすべてのサービスのパフォーマンスを定義します。

専用 IIS アプリケーションプールの使用（Windows ホスティング）

契約内のウェブアプリケーションに対して、専用 IIS アプリケーションプールを使用できます。専用 IIS アプリケーションプールを使用すると、作業者のプロセス分離モードによってウェブアプリケーションの安定性が飛躍的に高まります。このモードにより、サーバでホスティングされている各サイトで、ウェブアプリケーションの実行用に個別プロセスプールを割り当てることができます。そのため、あるアプリケーションで異常が発生しても他のアプリケーションが停止することはありません。これは特に共用ホスティングパッケージを使用している場合に便利です。[最大 CPU 利用率 (%)] オプションにより、プールで使用可能なサーバ CPU リソースの量が制限されます。

最大帯域幅利用率

ドメインがすべての接続間で共有できる最大速度（単位は KB/秒）。

接続の上限

契約内のすべてのウェブサイトに対し、ウェブサーバへの同時接続の上限を定義します。この設定は、DOS 攻撃と帯域幅の利用超過を防ぐことを目的としています。

ログと統計

これらのパラメータは、契約の統計とログの格納方法を定義します。

ウェブとトラフィック統計の保持

契約のウェブ統計（選択したウェブ統計コンポーネントによって生成されたもの）とトラフィック統計（Panel によって生成されたもの）に関するレポートを保持する期間を月数で設定します。

ログローテーション

ウェブサーバのログファイルを自動的にクリーンアップおよび再利用することができます。また、処理済みのログファイルの圧縮を有効/無効にしたり、特定のメールアドレスにログファイルを送信することもできます。

アプリケーション

Panel のライセンスに応じて、プレパッケージされた多数のアプリケーションを Panel から使用できます。独自のサイトにこれらをインストールし、ユーザに対してプロビジョンすることができます。アプリケーションは、ウェブアプリケーションの外部リポジトリであるアプリケーションカタログを介して提供されています。アプリケーションカタログをプロバイダが構成し、Parallels やパートナーがパッケージしたアプリケーション（デフォルト設定）やカスタムアプリケーションリポジトリを含めることができます。

利用可能なアプリケーションのリストは拡張できます。カスタムアプリケーションを APS フォーマットでパッケージしてサーバにアップロードし、それらのどれをウェブサイトにインストールするかを指定することができます。アプリケーションパッケージでの作業については、「アプリケーションをプレパッケージする」のセクションを参照してください。

サブスクリプションのセットアップ時に、契約者にプロビジョンするアプリケーションを選択できます。

- すべてのアプリケーションと、サーバに手動でアップロードしてユーザに提供すると指定したアプリケーションをアプリケーションカタログで提供するには、[パーミッション] タブで [アプリケーションカタログにアクセスする] オプションをオンにします。
- 選択したアプリケーションのみを提供するには、[パーミッション] タブで [アプリケーションカタログにアクセスする] オプションを選択し、[アプリケーション] タブで [選択したアプリケーションのみを提供する] オプションをオンにします。[>>] ボタンを使用して、選択したアプリケーションをプランに追加します。

追加サービス

「オファリングにサービスを追加する（68ページ）」の説明に従ってカスタムサービスを追加すると、ホスティングプランのプロパティに【追加サービス】タブが表示されるようになります。このタブで、契約者に提供するサービスを選択できます。

リセラープランと契約

リセラープランのプロパティは次のように分類されます。

- **リソース**

リソースの利用超過と販売超過に関するポリシー、リセラーが作成可能な顧客アカウント数、システムリソース（ディスク容量、トラフィック等）、サービスリソース（ウェブサイト、サブドメイン、メールボックス、データベース等）などに関するポリシーが含まれます。

- **パーミッション**

リセラーパーミッションは、Panel でリセラーが実行できるオペレーション、あるいはリセラーの顧客のサービス契約において有効にできるサービスと契約を規定します。リセラーの契約内で特定のパーミッションをオフにすると、サービス契約において関連サービスまたは権限を提供できなくなります。また、パーミッションを無効にすると、リセラーは指定されたアクションをコントロールパネルで実行できません。例えば、スケジューラを使用する権限がリセラーの契約に含まれていない（スケジューラ管理がオフになっている）場合、リセラーの契約者はスケジューラを使用できず、リセラー自身がコントロールパネルにアクセスしたときにもスケジューラを使用できません。

- **IP アドレス**

リセラーに割り当てられる IP アドレスを定義します。リセラーに 1 つ以上の IP アドレスが割り当てられていることが重要です。割り当てられていない場合、サービス契約を 1 つも作成できません。

リソース

利用超過ポリシー

リセラーのサービス契約（リセラー自身のサービス契約とリセラーの顧客に属するサービス契約）で利用されている総ディスク容量とトラフィック使用量が、リセラープランに規定されている上限を超過した場合に、どのように処理するのかを定義します。

- **利用超過を許可しない**：[リセラーのディスクスペースまたはトラフィックの使用量が上限を超えたら、リセラーを一時停止する]チェックボックスをオンにしている場合に限り、リセラーの契約とその顧客が一時停止されます。このチェックボックスがオフの場合、リセラーの契約と顧客が一時停止されることはなく、[設定] > [通知：[リセラーアカウントがリソース使用量制限を超えた場合] オプションで指定したユーザやメールアドレスに対して通知が送信されます。

契約が一時停止されないように、[制限値に到達した場合に通知する] オプションで、ディスク領域またはトラフィックが一定の値に達した場合に通知を送信するように設定することもできます。この通知は、[設定] > [通知：リセラーアカウントがリソース使用量上限を超えた場合] オプションで指定したユーザやメールアドレス宛てに送信されます。

- **利用超過を許可する**：契約は正常に機能します。

[リソース使用量の上限に達したら、サーバ通知設定に従ってメールを送信する] オプションを設定すると、[設定] > [通知：リセラーアカウントがリソース使用量上限を超えた場合] オプションで指定したユーザやメールアドレス宛てに通知が送信されます。

注： 利用超過ポリシーは、メールボックスのサイズに設定された上限には適用されません。従って、利用超過を有効にした場合でも、必ずメールボックスに十分なディスク領域を割り当ててください。

販売超過ポリシー

プランでリセラーに割り当てられている量より多くのリソースをリセラーが販売できるかどうかを定義します。

販売超過を許可すると、リセラーは初期リソース割り当てではなく、実際のリソース使用量で管理されます。販売超過とは、割り当てられたディスク領域をすべて消費する顧客はいないという前提に立つマーケティング戦略です。例えば、10 ギガバイトのディスク領域を割り当てられているリセラーが各顧客に 5 ギガバイトずつ割り当てます。

顧客

リセラーが作成できる顧客アカウントの総数を定義します。

その他のリソース

注：「その他のリソース」は、「ホスティングプランと契約（34 ページ）」での定義と同じ意味を持ちます。ただし、リセラーは提供されているリソースを直接使用するのではなく、リセラーが顧客に対して作成するサービス契約やウェブサイトのホスティングのために作成するサービス契約を利用して再配信します。

パーミッション

（顧客に対してリセラーが作成するサービス契約に影響を与えない）リセラー固有の権限には、次のようなものがあります。

リモート API を利用可能

リセラーがカスタムアプリケーションを利用してウェブサイトのリモートで管理できるかどうかを定義します。リモート API とは、ウェブサイト統合されたカスタムアプリケーションの開発に使用できるインターフェースです。リモート API を使用すると、ホスティングアカウントをセットアップしたり、サイトでホスティングサービスを購入した顧客に対してサービスをプロビジョニングすることなどができます。詳しくは、PTN ポータル (<http://www.parallels.com/ptn/documentation/ppp/>) で公開している Parallels Plesk Panel API 関連文書を参照してください。

Panel へのアクセス

リセラーが Panel の GUI（グラフィカルユーザインターフェース）を使用できるかどうかを定義します。

顧客アカウントの作成

リセラーが Panel 内で顧客に対してユーザアカウントと契約を作成できるかどうかを定義します。

販売超過を許可する

リセラーが販売超過ポリシーをセットアップできるかどうかを定義します。これをオンにすると、リセラーに対して販売超過を許可するかどうかをリセラー自身が定義できるようになります。

その他のパーミッション

注：その他のパーミッションは、サービス契約（38ページ）と同義です。

IP アドレス

これらのパラメータは、プランで提供される IP アドレスを定義します。

〔共用 IP アドレスを割り当てる〕：

リセラーに提供される共用 IP アドレスを定義します。

〔専用 IPv4 アドレスを割り当てる〕 および 〔専用 IPv6 アドレスを割り当てる〕：

該当するタイプの専用 IP アドレスを指定した数だけリセラーに割り当てる必要があるかどうかを定義します。IP は自動的にプロビジョニングされます。必要な数は、貴社の IP プール内にある未使用の専用 IP アドレスの数から取得されます。

顧客にサービスを提供する

サービスプランと契約が導入された新しいホスティングモデルについて詳しくは、「プランおよび契約について」（28ページ）のセクションを参照してください。

サービスプランを管理する

サービスプランについて詳しくは、「サービスプランと契約とは」（28ページ）のセクションを参照してください。

Customer and Business Manager コンポーネントをインストールし、Panel で機能するように設定してある場合、ホスティングプランの作成と管理は必ずビジネスマネージャで行ってください。ビジネスマネージャ以外で行うと、顧客に課金されなくなります。

ビジネスマネージャ経由でプランをセットアップした後は、ホスティングプランのリストで該当するビジネスマネージャのリンクをクリックすることにより設定を変更できます。ビジネスマネージャによるプラン管理に関する詳細は、「統合された Customer and Business Manager の使い方」（223ページ）の章を参照してください。

➤ サービスプランを作成するには：

1. [サービスプラン] に進みます。
2. [新しいプランを追加する] をクリックします。
3. プラン名とプロパティ(33ページ)を定義します。
4. [OK] をクリックします。

➤ アドオンプランを作成するには：

1. [サービスプラン] に進みます。
2. [新しいアドオンを追加する] をクリックします。
3. プラン名とプロパティ『ページ33』を定義します。

アドオンプランにリソースとサービスを定義すると、サービスプランで提供されているリソースとサービスに常に追加されます。アドオンプロパティでサービスが選択されていない場合でも、このサービスが関連する契約から削除されるという訳ではありません。他に対する影響はありません。

4. [OK] をクリックします。

➤ プランで提供されるリソースやサービスを変更するには：

1. [サービスプラン] に進み、リストでサービスプラン名をクリックします。
2. プランのプロパティ『ページ33』を更新します。
3. プロパティを適用します。
 - [OK] をクリックします（プランに契約が存在しない場合）。
 - [アップデートして同期] をクリックします（プランに契約が 1 件以上含まれている場合）。
変更が適用され、プランに関連するすべての契約が同期されます（31ページ）。

➤ **プランを削除するには：**

1. [サービスプラン] に進み、削除するプランを選択します。
Panel では、1 つ以上の契約に関連付けられているプランを削除することはできません。このため、このようなプランのチェックボックスは選択不可になっています。
2. [削除] をクリックします。
3. 確認ボックスで [はい] をクリックします。

ホスティングサービスを契約する

Panel でユーザアカウントを作成したすべての人は、サービスプランを契約することができます。顧客、リセラー、Panel 管理者などがこれに該当します。各ユーザは一度に複数のサービスプランを契約できます。つまり、カスタマイズされたものや、他のアドオンおよびサービスプランに関連付けられたものを含め、複数のサービス契約を持つことが可能です。

一般に、新しい顧客を契約に登録する場合、顧客アカウントの作成時に 1 番目の契約が作成されます。ところが Parallels Plesk Panel 10.2 以降は、契約なしで顧客アカウントを作成できるようになりました。現時点では顧客用にウェブサイトを設定アップする必要がなく、他の顧客アカウントから契約を移管する場合や、後で契約を設定アップしたりする場合には、この機能が便利です。ただし、契約のない顧客はコントロールパネルにログインできません。

➤ 契約なしで顧客アカウントを新規作成するには：

1. [顧客] に進み、[新しい顧客を追加する] をクリックします。
2. 顧客の連絡先および課金情報と、コントロールパネルのアカウントユーザ名およびパスワードを指定します。
3. [顧客に契約を作成する] チェックボックスをオフにします。
4. [OK] をクリックします。

➤ 新しい顧客をサービスプランに（オプションでアドオンにも）登録するには：

1. [顧客] に進み、[新しい顧客を追加する] をクリックします。
2. 顧客の連絡先/課金情報、Panel アカウントのユーザ名とパスワード、契約に関連付けられているドメインの属性を指定します。
3. 契約に関連付けるサービスプランを選択します。
4. 追加したいものがあれば、アドオンプランを選択します。
5. [契約のカスタマイズに進みます...] チェックボックスはオフにしておきます。
6. [OK] をクリックします。

➤ 特定の条件で新しい顧客をサービスプランとアドオンに登録するには（プランに関連する契約のカスタマイズ）：

1. [顧客] に進み、[新しい顧客を追加する] をクリックします。
2. 顧客の連絡先/課金情報、Panel アカウントのユーザ名とパスワード、契約に関連付けられているドメインの属性を指定します。
3. サービスプランとアドオンを選択します。

4. [...契約パラメータのカスタマイズを行います] チェックボックスをオンにします。

5. [OK] をクリックします。

顧客アカウントと契約が作成され、Panel でこれらの契約プロパティをリソース（34ページ）およびパーミッション（38ページ）としてカスタマイズできるようになります。ホスティング、メール、DNS サービスパラメータのカスタマイズは、サーバ管理パネルでは実行できません。

6. 契約プロパティをカスタマイズします。

7. [アップデートしてロック] をクリックします。

カスタマイズされた契約は同期に対してロックされます。つまり、サービスプランやアドオンが変更されても同期されません。詳しくは、「**契約とプランを同期する：契約の状態（31ページ）**」のセクションを参照してください。

➤ **新しい顧客を特定の条件で貴社のサービスに登録するには（カスタム契約の作成）：**

1. [顧客] に進み、[新しい顧客を追加する] をクリックします。

2. 顧客の連絡先/課金情報、Panelアカウントのユーザ名とパスワード、契約に関連付けられているドメインの属性を指定します。

3. [サービスプラン] の横にある [なし] を選択してください。

契約プロパティは、Panel のデフォルトサービスプランに従って設定されます。

4. [契約のカスタマイズに進みます...] チェックボックスをオンにしておきます。

5. [OK] をクリックします。

顧客アカウントとそのカスタム契約が作成されます。カスタム契約の詳細は、「**契約とサービスプラン/アドオンプランの関係（30ページ）**」のセクションを参照してください。

Panel でこれらの契約プロパティをリソース（34ページ）およびパーミッション（38ページ）としてカスタマイズできます。ホスティング、メール、DNS サービスパラメータのカスタマイズは、サーバ管理パネルでは実行できません。

6. 契約プロパティをカスタマイズします。

7. [OK] をクリックします。

➤ **自分のウェブサイトとメールをホスティングするために契約を追加するには：**

1. [契約] に進み、[自分の契約を追加する] をクリックします。

2. 契約、サービスプラン、アドオンでプロビジョニングするドメインの属性を指定します。

3. オプションで、[契約のカスタマイズに進みます...] チェックボックスをオンにします。

4. [OK] をクリックします。

顧客に提供するサービスを変更する

Panel では、顧客に提供するサービスをいくつかの方法で変更できます。次のような方法があります。

- 既存の契約を変更するには：
 - アドオンプランを追加する。契約が拡張されます。
 - 契約を他のサービスプランに切り替える。
 - 契約のパラメータをカスタマイズする。契約は、リソースとサービスのカスタムセットを提供するようになります。このセットはプランに関連付けられたまま維持されますが、同期に対してはロックされます。
-
- 注：カスタマイズが可能なのはリソースとパーミッションのみであり、他の契約プロパティ（ホスティング、メール、DNSサービスパラメータなど）はサーバ管理パネルで変更できません。
-
- プランから契約を切り離し、カスタムで変更を加える。契約は、リソースとサービスのカスタムセットを提供するようになり、サービスプランとは関連付けられません。
-
- 注：カスタマイズが可能なのはリソースとパーミッションのみであり、他の契約プロパティ（ホスティング、メール、DNSサービスパラメータなど）はサーバ管理パネルで変更できません。
-
- 顧客が既に所有している契約に加え、新しい契約を作成する。
 - サービスプランを変更する。この操作は、変更対象のプランに関連付けられたすべての契約に影響を与えます。したがって、大部分の契約者がリソース不足を感じるようになり、プランのアップグレードが必要になったときには、この方法をお勧めします。

注：詳しくは、「サービスプランと契約とは」（28ページ）のセクションを参照してください。

➤ アドオンプランを追加して契約を拡張するには：

1. [契約] > <契約名> に進みます。
2. [プランの変更] をクリックします。
3. 「利用可能」というタイトルのボックスで必要なアドオンを選択し、>> をクリックします。
4. [OK] をクリックします。

注：次の方法で、一度に複数の契約にアドオンを追加できます。[契約] で、該当する契約をリストから選択し、[プランの変更] をクリックします。

➤ 契約を他のサービスプランに切り替えるには：

1. [契約] > <契約名> に進みます。

2. [プランの変更] をクリックします。
3. 新しいサービスプランを選択します。
4. [OK] をクリックします。

注： 次の方法で、一度に複数の契約を切り替えることができます。[契約] で、該当する契約をリストから選択し、[プランの変更] をクリックします。

➤ **契約をカスタマイズしてプランに関連付けたままにするには：**

1. [契約] > <契約名> に進みます。
2. [カスタマイズ] をクリックします。
3. 契約に付随するリソース (34ページ) とパーミッション (38ページ) を変更します。
4. [アップデートしてロック] をクリックします。

➤ **契約をカスタマイズしてプランから切り離すには：**

1. [契約] > <契約名> に進みます。
2. [プランの変更] をクリックします。
3. [サービスプラン] の横にある [なし] を選択してください。
4. [契約のカスタマイズに進みます...] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。
6. 契約に付随するリソース (34ページ) とパーミッション (38ページ) を変更します。
7. [OK] をクリックします。

➤ **顧客に新しい契約を追加するには：**

1. [顧客] > <顧客名> に進みます。
2. [新しい契約を追加する] をクリックします。
3. 契約、サービスプラン、アドオンでプロビジョニングするドメインの属性を指定します。
4. オプションで、[契約のカスタマイズに進みます...] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

➤ **プランを変更するには：**

1. [サービスプラン] に進み、リストでサービスプラン名をクリックします。
2. プランのプロパティ (33ページ) を更新します。

3. 【アップデートして同期】をクリックします。

変更が適用され、プランに関連するすべての契約が同期されます（31ページ）。

顧客を管理する

顧客アカウントの作成（53ページ）に加え、顧客のアカウントに対して次のような作業を行えます。

- 連絡先情報を変更する。
- 顧客がコントロールパネルへのアクセス時に使用するユーザ名とパスワードを変更する。

注： ログイン情報を変更しても、Panel から顧客への自動通知は行われません。顧客は、パスワードを確認する際に、ユーザ名とメールアドレスを指定する必要があります。そのため、ログイン情報（特にユーザ名）の変更後は、顧客に最新情報を伝達するようにしてください。これを怠ると、顧客が Panel を使用できなくなります。

- アカウントを一時停止する。
一時停止された顧客とこの顧客が作成したコントロールパネルユーザは、Panel からブロックされます。顧客の契約も一時停止されます。つまり、インターネットユーザが顧客のウェブサイト、FTP、メールサービスにアクセスできなくなります。
- アカウントを有効にする。
アカウントを有効にすると、そのアカウントのすべての契約が有効になり、すべてのサービスが適切に機能するようになります。
- アカウントを削除する。
顧客アカウントを削除すると、その顧客のすべての契約とウェブサイトも削除されます。

Customer and Business Manager コンポーネントをインストールし、Panel と連携するように設定すると、Panel に次のリンクが追加で表示されるようになります。

- ビジネスマネージャ。
- 課金の詳細。
- 請求書。
- 支払履歴。
- 未払いの請求書の作成（[その他のビジネスオペレーション] メニュー）。
- 請求書の作成（[その他のビジネスオペレーション] メニュー）。
- クレジット（[その他のビジネスオペレーション] メニュー）。
- 課金アカウント（[その他のビジネスオペレーション] メニュー）。

これらのリンクを使用して、ビジネスマネージャで顧客アカウントを管理します。使用可能なオペレーションについて詳しくは、「統合された Customer and Business Manager の使い方」（223ページ）を参照してください。

➤ 顧客の連絡先情報を変更するには：

1. [顧客] に進み、リストで <顧客名> をクリックします。
2. [連絡先情報の変更] をクリックします。
3. 情報を更新し、[OK] をクリックします。


➤ **顧客がコントロールパネルへのアクセス時に使用するユーザ名とパスワードを変更するには：**

1. [顧客] に進み、リストで <顧客名> をクリックします。
2. [ログイン情報の変更] をクリックします。
3. パスワードとユーザ名を更新し、[OK] をクリックします。

➤ **顧客アカウントを一時停止するには：**

1. [顧客] に進み、リストで <顧客名> をクリックします。
2. [一時停止] をクリックします。


➤ **一度に複数のアカウントを一時停止するには：**

1. [顧客] に進みます。
2. (オプション) 有効なアカウントをフィルタで除外します。
 - a. リスト上部の検索フィールドの横にある  ボタンを押します。
リストフィルタが表示されます。
 - b. [ステータス] フィルタの下で、[有効] を選択します。
3. リストで対象のアカウントを選択します。
4. [その他のアクション] > [一時停止] をクリックします。

➤ **顧客アカウントを有効にするには：**

1. [顧客] に進み、リストで <顧客名> をクリックします。
2. [有効化] をクリックします。

➤ **複数のアカウントを一度に有効化するには：**

1. [顧客] に進みます。
2. (オプション) 一時停止されているアカウントをフィルタで除外します。
 - a. リスト上部の検索フィールドの横にある  ボタンを押します。
リストフィルタが表示されます。
 - b. [ステータス] フィルタで、[一時停止] を選択します。
3. リストで対象のアカウントを選択します。
4. [その他のアクション] > [有効化] を選択します。

➤ **顧客アカウントを削除するには：**

1. **〔顧客〕**に進み、削除するアカウントを選択します。
2. **〔削除〕**をクリックします。
3. 確認ボックスで**〔はい〕**をクリックします。

サービス契約を管理する

契約について詳しくは、「サービスプランと契約とは（28ページ）」のセクションを参照してください。

契約の作成（53ページ）に加え、顧客、貴社自身のサービス契約に対し、次の作業を実行できます。

- 契約のホスティング設定を変更する。
契約対象のウェブサイトがホスティングされている IP アドレス、契約に関連付けられているシステムユーザアカウントの資格情報（契約対象のウェブサイト用のファイルとフォルダの管理や、SSH またはリモートデスクトップ経由でのサーバアクセスに使用されるもの）。
- 1 つ以上の契約を他のユーザに移管する。
つまり、契約の所有者を変更する（あるいは、契約を他のユーザ（他の顧客、リセラー、または自分自身）に再割り当てする。この場合、契約は自動的にプランから切断され、カスタム（30ページ）となります。
- 契約を一時停止する。
インターネットユーザは、一時停止された契約に含まれるウェブサイト、FTP、メールサービスにアクセスできなくなります。契約を手動で一時停止するのは、契約内のウェブサイトが攻撃を受けた場合などに役に立ちます。
- 一時停止された契約を手動で有効化する。
契約を有効化すると、この契約で提供されているすべてのサービスが通常どおりに機能するようになります。
- 期限切れの契約を更新する。
Panel では契約は自動的に更新されません。したがって、有効期限を迎えた契約は一時停止されます。
- 契約を削除する。

Customer and Business Manager コンポーネントをインストールし、Panel と連携するように設定すると、Panel に次のリンクが追加で表示されるようになります。

- **ビジネスマネージャ：**
- **課金の詳細：**
- **アップグレード：**
- **ダウングレード：**
- **アドオン**

ビジネスマネージャでの契約の管理についてはこれらのリンクを使用してください。使用可能なオペレーションについて詳しくは、「統合された Customer and Business Manager の使い方（223ページ）」を参照してください。

➤ 契約のホスティング設定を変更するには：

1. **【契約】に進み、リストで <契約> をクリックします。**

2. [ホスティング設定の変更] をクリックします。

3. 情報を更新し、[OK] をクリックします。

➤ **契約を他のユーザに移管するには：**

1. [契約] に進み、リストで <契約> をクリックします。
2. [契約者の変更] をクリックします。
3. 新しい契約者を選択し、[次へ >>] をクリックします。
4. 契約の設定に対する変更に関する情報を確認し、[OK] をクリックします。


➤ **複数の契約を他のユーザに移管するには：**

1. [契約] に進みます。
2. 再割り当てする契約を選択します。
3. [契約者の変更] をクリックします。
4. 新しい契約者を選択し、[次へ >>] をクリックします。
5. 契約の設定に対する変更に関する情報を確認し、[OK] をクリックします。

➤ **契約を一時停止するには：**

1. [契約] に進み、リストで <契約名> をクリックします。
2. [一時停止] をクリックします。

➤ **複数の契約を一度に一時停止するには：**

1. [契約] に進みます。
2. (オプション) 有効な契約をフィルタで除外します。
 - a. リスト上部の検索フィールドの横にある  ボタンを押します。
リストフィルタが表示されます。
 - b. [ステータス] フィルタの下で、[有効] を選択します。
3. リストで対象の契約を選択します。
4. [一時停止] をクリックします。


➤ **契約を有効化するには：**

1. [契約] に進み、リストで <契約名> をクリックします。

2. [有効化] をクリックします。

注：手動で一時停止した契約に限り、この方法で契約を有効化してください。期限切れの契約をこの方法で有効化すると、翌日に自動的に一時停止されます。この場合、下の手順に従って契約を更新してください。

➤ 複数の契約を一度に有効化するには：

1. [契約] に進みます。
2. (オプション) 一時停止の契約をフィルタで除外します。
 - a. リスト上部の検索フィールドの横にある  ボタンを押します。
リストフィルタが表示されます。
 - b. [ステータス] フィルタで、[一時停止] を選択します。
3. リストで対象の契約を選択します。
4. [有効化] をクリックします。

注：手動で一時停止した契約に限り、この方法で有効化してください。期限切れの契約をこの方法で有効化すると、翌日に自動的に一時停止されます。この場合、下の手順に従って契約を更新してください。

➤ 期限切れの契約を更新するには：

1. [契約] に進み、リストで <契約名> をクリックします。
2. [有効化] をクリックします。
3. [カスタマイズ] をクリックします。
4. [リソース] タブで、新しい有効期限を設定するか、[無制限] を選択します。
5. [アップデートしてロック] をクリックします。
6. [ロック解除と同期化] をクリックします。

➤ 契約を削除するには：

1. [契約] に進み、削除する契約を選択します。
2. [削除] をクリックします。
3. 確認ボックスで [はい] をクリックします。

リセラーを採用する

リセラープランと契約が導入された新しいホスティングモデルについて詳しくは、「**プランおよび契約について**」（28ページ）のセクションを参照してください。

リセラーアカウント/契約を作成する

リセラー契約をリセラーアカウントから切り離すことはできません。つまり、リセラーの作成時に、リセラー契約を作成します。一般に、1つのリセラープランには1つのリセラーを登録しますが、リセラーの数によっては（あるいは、リセラーに提供するリソースやサービスの数を変えたい場合は）、次のいずれかの方法（あるいは、複数の方法の組み合わせ）を選択することができます。

- **複数のリセラープランを用意し、各プランに複数のリセラーを登録する。**（リセラーの契約はプランと関連付けられ、同期される。）

この方法は、取引条件の異なる多数のリセラーがあり、関連するプランに対して契約を同期（31ページ）することにより、最小限の労力で条件を変更したい場合に便利です。

- **1つ以上のリセラープランを用意し、リセラーを登録する。このとき、一部の契約は変更して、同期に対してロックする。**（リセラー契約はプランと関連付ける。一部は同期し、一部は同期に対してロックする。）

この方法は、上の方法とほぼ同じですが、次の点が異なります。一部のリセラーについては、関連するプランと少し異なる契約にする。この場合、リセラーの作成時に「**契約パラメータのカスタマイズを行います**」オプションを使用します。

- **リセラーが少数であり、カスタム契約を割り当てている。**

この方法は、リセラーが少数であり、プランのセットを作成する必要なく契約プロパティを手動で簡単に変更できる場合に適しています。このような場合、リセラーの作成時に、「**サービスプラン**」にテキストを選択しないでください。

リセラー契約を変更する

Panel には、リセラーに割り当てられたリソースやサービスを変更する方法がいくつかあります。次のような方法があります。

- 関連するリセラープランを変更する。この操作は、変更対象のプランに関連するすべての契約に影響を与えます。したがって、契約者の多くがリソースやサービスの不足を感じるようになったためプランのアップグレードが必要になった場合には、この方法を推奨します。
- 契約を変更する。
 - 契約を他のサービスプランに切り替える。
 - 契約のパラメータをカスタマイズする。契約は、リソースとサービスのカスタムセットを提供するようになります。このセットはプランに関連付けられたまま維持されますが、同期に対してはロックされます。
 - プランから契約を切り離し、カスタムで変更を加える。契約は、リソースとサービスのカスタムセットを提供するようになっており、リセラープランとは関連付けられません。

➤ リセラープランを変更するには：

1. [サービスプラン] に進みます。
2. [リセラープラン] タブをクリックし、リストからサービスプランの名前をクリックします。
3. プランのプロパティ(48ページ)を更新します。
4. [アップデートして同期] をクリックします。

変更が適用され、プランに関連するすべての契約が同期されます（31ページ）。

➤ リセラーの契約を他のプランに切り替えるには：

1. [リセラー] > <リセラー名> に進みます。
2. [プランの変更] をクリックします。
3. 新しいリセラープランを選択します。
4. [OK] をクリックします。

➤ プランに関連付けたまま、リセラー契約（リソースおよびパーミッション）をカスタマイズするには：

1. [リセラー] > <リセラー名> に進みます。
2. [カスタマイズ] をクリックします。
3. 契約に付随するリソース(49ページ)とパーミッション(50ページ)を変更します。
4. [アップデートしてロック] をクリックします。

➤ **プランに関連付けたまま、リセラー契約（IP アドレス）をカスタマイズするには：**

1. [リセラー] > <リセラー名> に進みます。
 2. [IPアドレス] をクリックします。
 3. 契約に割り当てられたIPアドレスを変更するには：
 - IP アドレスを割り当てるには、[IP アドレスの追加] をクリックして [利用可能な IP アドレス] ボックスでアドレスを選択し（複数の IP アドレスを選択するには、キーボードの **Ctrl** ボタンを押したまま必要なアドレスを左クリックする）、[OK] をクリックします。
 - IP アドレスを削除するには、該当するチェックボックスをオンにし、[IP アドレスの削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
 - IP アドレスに SSL 証明書を割り当てるには、必要な IP アドレスをクリックし [SSL 証明書] メニューで証明書を選択して [OK] をクリックします。
- IP を追加または削除すると、契約はプランの同期に対してロックされます。

➤ **リセラーの契約をカスタマイズし、プランから切り離すには：**

1. [リセラー] > <リセラー名> に進みます。
2. [プランの変更] をクリックします。
3. [新しいプラン] の横にある [なし] をオンにします。
4. [...契約パラメータのカスタマイズを行います] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。
6. 契約に付随するリソース（49ページ）とパーミッション（50ページ）を変更します。
7. [OK] をクリックします。

オフリングにサービスを追加する

Panel で提供されているホスティングサービスと機能に加え、次の方法でオフリングを拡張できます。

- Panel モジュールとしてパッケージされているサードパーティ製アプリケーションをインストールし、このアプリケーションで提供されているサービスをホスティングプランに追加する。

このようなモジュールをインストールすると、モジュールで提供されているサービスが Panel に登録され、サーバ管理者やリセラーがホスティングプランに追加できるようになります。新しいサービス関連のオプションは、ホスティングプランのプロパティの **「追加サービス」** タブに表示されます。

- プランにカスタムオプションを追加する。

<http://premium-support.example.com> でオンラインサポートサービスを運営しており、サービスプランにサポートオプションを追加したい場合、カスタムプランのオプションをセットアップする必要があります。

1. **「サービスプラン」** > **「追加サービス」** > **「サービス追加」** の順に選択します。
2. サービス名（「Premium support」）とサービスの説明を指定し、オンラインサービスへのリンク（<http://premium-support.example.com>）が設定されたボタンをコントロールパネルに配置するオプションを選択します。


この作業後、**「追加サービス」** という新しいタブがホスティングプランの設定に表示されます。ここに **Premium support** のオプションが表示され、管理者やリセラーは顧客にプロビジョンするオプションを選択できます。

➤ **モジュールとしてパッケージされたアプリケーションで提供されるサービスを追加するには：**

「Parallels Plesk Panel の機能をモジュールとアドオンで拡張する（158ページ）」のセクションの説明またはモジュールで提供されている指示に従って、モジュールをインストールします。

➤ **カスタムプランオプションとしてサービスを追加するには：**

1. **「サービスプラン」** > **「追加サービス」** タブに進みます。
2. **「サービス追加」** をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - サービス名
 - サービスの説明
 - サービスにカスタムボタンを使用する：オンラインサービスまたはウェブアプリケーション用のハイパーリンクを契約者のコントロールパネルに表示する場合は、これをオンにしてください。

- **ボタンに付加する URL** : ユーザがボタンをクリックするとリダイレクトされるインターネットアドレスを指定します。例えば、`http://premium-support.example.com` のようなアドレスです。
- **ボタンの背景画像** : 画像を選択しないと、Panel でデフォルト画像  が使用されます。
- **Panel で URL を開く** : 外部ウェブリソースを新しいブラウザウィンドウまたはタブで開く場合は、このチェックボックスをオフにしてください。
- Panel から HTTP リクエストとして顧客および契約の情報を送信したい場合は、その中に含める情報を指定してください。
 - 契約 ID。
 - 契約に関連付けられたプライマリドメイン名。
 - FTP アカウントのユーザ名とパスワード。
 - 顧客のアカウント ID、名前、メールアドレス、会社名。

4. [OK] をクリックします。

➤ **リセラーが追加サービスを使用して、顧客にこのサービスをプロビジョンできないようにするには :**

1. [サービスプラン] > [追加サービス] タブに進みます。
2. サービスの横のチェックボックスをオンにして、[使用不可にする] をクリックします。

➤ **リセラーが追加サービスを使用して、顧客にこのサービスをプロビジョンできるようにするには :**

1. [サービスプラン] > [追加サービス] タブに進みます。
2. サービスの横のチェックボックスをオンにして、[使用可能にする] をクリックします。

➤ **サービスプランのプロパティからカスタムプランオプションを削除するには :**

1. [サービスプラン] > [追加サービス] タブに進みます。
2. サービスの横のチェックボックスをオンにして、[サービスを削除する] をクリックします。

➤ **モジュールで提供されている追加サービスを削除するには :**

Panel からモジュールを削除します。

第 6 章

Parallels Plesk Panel の設定

この章では、Parallels Plesk Panel のセットアップや管理に必要な設定手順を説明します。

ライセンスキーの取得およびインストール

Panel にはトライアルライセンスキーが付与されており、Panel にインストール済みです。このライセンスキーが提供する機能および有効期間は短期間です。そのため、Parallels またはそのパートナーから正式なライセンスキーを取得して Panel にインストールする必要があります。

Parallels Plesk Panel ライセンスキーには有効期限が組み込まれています。これは、不正行為および盗難を防ぐためです。Parallels Plesk Panel ソフトウェアは、有効期限までの 10 日間の間に、このキーについて盗難の届出がなく、エンドユーザライセンス契約に従って使用されていること（つまり、1 台のサーバにのみインストールされていること）を Parallels のライセンスサーバで確認します。確認が終わると、有効期限が延長されます。

Parallels Plesk Panel はポート 5224 経由でライセンスサーバに TCP/IP 接続しますので、それがファイアウォールでブロックされていないことを確認してください。更新プロセスは自動的に実行され、Parallels Plesk Panel 管理者は問題が発生しない限り何もする必要ありません。Parallels Plesk Panel キーの期限が切れたら、ファイアウォールを確認してから、**【ツールとユーティリティ】 > 【ライセンス管理】**（**【Panel】** グループ内）へ進み **【キーの取得】** をクリックしてください。キーが更新されない場合は、リセラーまたは Parallels（ライセンスキーを直接 Parallels から購入した場合）にご連絡ください。

ライセンスサーバへの接続はいつでもテスト可能です。これを行うには、**【ツールとユーティリティ】 > 【ライセンス管理】**（**【Panel】** グループ内）へ進み **【キーの取得】** をクリックしてください。

トライアルライセンスキーをアップグレードする

➤ **トライアルライセンスキーをアップグレードするには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理]（[Panel] グループ内）に進み、[Parallels Panelアップグレードを注文する] をクリックします。
2. Parallelsオンラインストアが別のウィンドウで開きます。このウィンドウで、Parallels Plesk Panelライセンスに含めたい項目や機能を選択し[送信] をクリックします。次に、通貨、ライセンスキーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。新しいキーが指定したメールアドレスに送信されます。
3. 新しいキーをローカルマシンのハードディスクに保存します。
4. Parallels Plesk Panelで[ライセンス管理] 画面を再び開き（[ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理] ）、[キーのアップロード] をクリックします。
5. ローカルマシンに保存したキーファイルのパスを入力するか、[参照] をクリックしてアップロード先の場所を指定します。
6. [インストールされているライセンスキーを選択したキーに入れ替える] チェックボックスをオンにして、新しいライセンスキー変更の続行を確認します。
このチェックボックスを選択しないと、新しいライセンスキーはインストールされません。
7. 新しいライセンスキーがサーバ上ですでにホストしているサイトより少ないサイトしかホスティングできない場合、Parallels Plesk Panelは動作を停止します。実際のリソース使用量と新しいキーでカバーされる使用量をPanelで比較しないようにするには、[キーにより制限されたリソース使用の制限をチェックしない] チェックボックスをオンにします。
この設定は、リソース制限があるライセンスキーを一時的にインストールしてからPanelを介したアップグレードを行う場合に便利です。
8. [OK] をクリックし、新しいキーをPanelにインストールします。

Parallels Plesk Panel アドオンに追加のライセンスキーをインストールする

➤ **アドオン *Parallels Plesk Panel* コンポーネントに追加のライセンスキーをインストールするには :**

1. [ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理] ([Panel] グループ内) に進みます。
2. [Panelアドオンを注文する] をクリックします。
3. 使用可能なアドオンが一覧表示されたParallelsオンラインストアが別のウィンドウで開きます。このページで注文したいアドオンを選択し、[送信] をクリックします。
4. Parallels Plesk Panelアドオンは、すでに存在するライセンスキーに追加されるため、この機能の追加先とするライセンスキーの番号を入力して[送信] をクリックしてください。
5. 次に、通貨、キーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。
6. メール通知を受信したら [ライセンス管理] 画面に戻り ([ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理]) 、[キーの取得] をクリックして注文したライセンスキーを取得します。Panelライセンスマネージャは、アップグレードされたライセンスキーをParallelsライセンスサーバから取得し、コントロールパネルに自動的にインストールします。

ライセンスキーをアップグレードする

顧客ベースの拡張をしたり現在のライセンスのままサーバ上でホストできるサイトの数を増やしたい場合は、ライセンスキーのアップグレードが必要です。

➤ **ライセンスキーをアップグレードするには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理]（[Panel] グループ内）に進みます。
2. [Panelアップグレードを注文する] をクリックします。
3. Parallelsオンラインストアページで希望するアップグレードオプションを選択し、[送信] をクリックします。
4. 次に購入の詳細を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。
5. メール通知を受信したら [ライセンス管理] 画面に戻り（[ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理] ）、[キーの取得] をクリックして注文したライセンスキーを取得します。Panelライセンスマネージャは、アップグレードされたライセンスキーをライセンスサーバから取得し、Panelにインストールします。

以前使用していたライセンスキーにロールバックする

➤ **以前使用していたライセンスキーにロールバックするには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理]（[Panel] グループ内）に進みます。
2. [ロールバックキー] をクリックします。前回インストールしたライセンスキーが復元されます。

Parallels Plesk Panel をセキュリティ保護する

Parallels Plesk Panel への管理アクセスを制限する

セキュリティ上の不安を軽減するためには、特定の IP アドレスからコントロールパネルへの管理アクセスを制限することができます。

➤ **Panel への管理アクセスを、特定の IP アドレスやネットワークに制限するには：**

1. [設定] > [管理アクセスの制限]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. [新しいネットワークの追加] をクリックし、必要な IP アドレスを指定します。
[OK] をクリックします。

サブネットの指定には、ワイルドカード記号(*)とサブネットマスクを使用できます。

3. [リストにないネットワークからの受信を拒否する] オプションを選択し、[設定] をクリックします。確認画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

➤ **特定の IP アドレスやネットワークからの管理アクセスを禁止するには：**

1. [設定] > [管理アクセスの制限]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. [新しいネットワークの追加] をクリックし、IP アドレスを指定します。[OK] をクリックします。

サブネットの指定には、ワイルドカード記号(*)とサブネットマスクを使用できます。

3. [リスト上のネットワーク以外からの受信を許可する] オプションを選択し、[設定] をクリックします。確認画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

SSL 暗号化によりサーバ通信を保護する

セキュリティ上の理由により、コントロールパネルへのアクセスはセキュアソケットレイヤーが有効なハイパーテキスト転送プロトコルにより提供されるセキュア接続を通してのみ可能です。Parallels Plesk Panel で管理されたサーバでのデータ交換はすべて暗号化されており、機密情報の傍受を防止できます。データ暗号化のプロセスで使用される SSL 証明書はコントロールパネルのインストール中に自動的に生成され、サーバへインストールされます。これを自己署名証明書と呼びます。認証局（CA）からの承認を受けていないため、コントロールパネルに接続しようとするウェブブラウザに警告メッセージが表示されます。

顧客の信頼を得るには信頼のおける認証局から SSL 証明書を購入し、コントロールパネルにインストールする必要があります。


以下のいずれかの方法で、SSL 証明書を入手できます。

- Parallels Panel の機能を使用して SSL 証明書を Comodo、GeoTrust, Inc.、または GoDaddy から購入する。
または
- Parallels Panel から証明書署名リクエスト（CSR）を作成し、SSL 証明書を作成している任意の認証局へ送信する。

注：コントロールパネルの機能を使用して MyPlesk.com オンラインストア経由で証明書を購入する場合は、証明書署名リクエスト作成にコマンドラインツールを使用しないでください。


➤ **MyPleskCom オンラインストア経由で Comodo、GeoTrust, Inc.、または GoDaddy から SSL 証明書を購入し、コントロールパネルを保護するには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [SSL証明書]（[リソース]グループ内）に進みます。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前：リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル：SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名を指定します。64 文字まで入力可能です。
 - SSL 証明書を購入するホスト名を指定します。例えば、your-domain.com のようにします。
 - メールアドレスを入力します。

4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
5. **【SSL証明書の購入】** をクリックします。
秘密鍵および証明書署名リクエストが生成されますので、削除しないでください。
MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。
6. 既存のMyPlesk.comアカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
7. 購入したい証明書の種類を選択します。
8. **【購入に進む】** をクリックし、証明書を注文します。**【承認者メールアドレス】** ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。
承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。
9. 証明書リクエストが処理されると確認のメールが送信されます。承認すると証明書がメールで送信されます。
10. 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
11. SSL証明書リポジトリに戻ります（**【ツールとユーティリティ】** > **【SSL証明書】**）。
12. 画面中央にある**【ブラウズ】** をクリックして、保存された証明書のある場所に移動します。証明書をクリックし、**【ファイル送信】** をクリックします。証明書がリポジトリにアップデートされます。
13. 追加した証明書の横のチェックボックスをオンにして  **Panelの保護** をクリックします。

➤ **他の認証局からのSSL証明書を使用してコントロールパネルを保護するには：**

1. **【ツールとユーティリティ】** > **【SSL証明書】**（**【リソース】**グループ内）に進みます。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
2. **【SSL証明書の追加】** をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前：リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル：SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名を指定します。64 文字まで入力可能です。
 - SSL 証明書を購入するホスト名を指定します。例えば、your-domain.com のようにします。
 - メールアドレスを入力します。

4. この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。
5. [リクエスト]をクリックします。秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、リポジトリに格納されます。
6. 証明書一覧で、必要な証明書の名前をクリックします。証明書のプロパティを表示したページが開きます。
7. ページ内でCSRセクションを検索し、-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST----- から -----END CERTIFICATE REQUEST----- までのテキストをクリップボードにコピーします。
8. SSL証明書を購入する証明書認証機関のウェブサイトを開き、リンクを辿って証明書の注文処理を開始します。CSRテキストの入力を指示されたら、データをクリップボードからオンラインフォームに貼り付けて、[続行]をクリックします。入力した情報に基づいて、証明書認証機関がSSL証明書を作成します。
9. 受信したSSL証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
10. SSL証明書リポジトリに戻ります（[ツールとユーティリティ] > [SSL証明書]）。
11. 画面中央にある[ブラウズ]をクリックして、保存された証明書のある場所に移動します。証明書をクリックし、[ファイル送信]をクリックします。証明書がリポジトリにアップデートされます。
12. 追加した証明書の横のチェックボックスをオンにして [ Panelの保護] をクリックします。

➤ **自己署名証明書を作成する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。**

1. [ツールとユーティリティ] > [SSL証明書]（[リソース]グループ内）に進みます。リポジトリ内にあるSSL証明書のリストが表示されます。
2. [SSL証明書の追加] をクリックします。
3. 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前：リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル：SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名を指定します。64 文字まで入力可能です。
 - SSL 証明書を購入するホスト名を指定します。例えば、your-domain.com のようにします。
 - メールアドレスを入力します。

4. **【自己署名】** ボタンをクリックします。証明書が生成され、リポジトリに格納されます。

外観

インターフェースプリファレンス

Panel ビューを変更する

目的に応じて、Panel には 2 種類のビューがあり、Panel での作業時に切り替えることができます。

- ウェブホスティングの販売に Panel を使用する場合は「サービスプロバイダ」を選択します。
- 自らのニーズのために Panel を使用する場合は「パワーユーザ」を選択します。

ビューについての詳細は、「**Parallels Plesk Panel に慣れる**（15 ページ）」で確認してください。

ビューを簡単に切り替えるには、[ツールと設定] > [インターフェース管理] に進みます。

ボタンのセットを表示/非表示にする

定義済みのボタングループを Panel で簡単に非表示にすることができます。これにより、許可されていないコントロールやサポートされていない（サービスがインストールされていない）機能は、ユーザに表示されません。

➤ ボタングループを非表示にするには：

1. [ツールと設定] > [インターフェース管理]（[コントロールパネルの外観] グループ内）> [インターフェースコントロールの表示設定] タブに進みます。
2. 次のボタンセットを表示しない場合、該当するチェックボックスをオンにします。
 - MyPlesk.com オンラインストアで提供されているサービスに関連するボタン。ドメイン登録サービスや SSL 証明書を再販する場合は、[ドメイン登録のボタンを表示しない]、[証明書購入サービスのボタンを表示しない]、[拡張サービスのボタンを表示しない] チェックボックスをオンにします。MyPlesk.com に関連するすべてのボタンが、すべてのユーザレベルでコントロールパネルから削除されます。
 - メール転送コントロール。ドメイン内に存在しないメール受信者へのメールに関するメールバウンスポリシーをユーザが独自に設定できないようにするには、[存在しないメールアドレス用の拒否メッセージを設定するためのコントロールを表示しない] チェックボックスをオンにします。
 - デフォルトのウェブページに表示されるニュースフィード。
 - Parallels Virtuozzo Containers へのプロモーションリンク。
3. [OK] をクリックします。

➤ **インターフェースで非表示のボタングループを表示に切り替えるには：**

1. [ツールと設定] > [インターフェース管理]（[コントロールパネルの外観] グループ内）> [インターフェースコントロールの表示設定] タブに進みます。

インターフェースに再び表示したい非表示のボタンからチェックを外し、[OK] をクリックします。

インターフェース言語を変更する

➤ **Panel のインターフェース言語とその他の設定を変更するには：**

1. ナビゲーションペインで [プロファイルとプリファレンス] リンクをクリックします。
2. 以下を指定します。
 - a 管理者のインターフェース言語： Panel の言語を選択します。
 - b ボタンラベルの長さ： ここで長さ制限を指定すると、ボタンのテキストが英語より長くなってコントロールパネルからはみ出すのを防ぐことができます。指定した制限よりボタンのテキストが長い場合、テキストは短縮され、省略符号 (...) が付きます。
 - c 管理者ログインでの多重セッションを許可する。Parallels Plesk Panel ではデフォルトで、同じログイン名とパスワードを使って複数のユーザがコントロールパネルにログインし、同時に複数のセッションを実行することができます。この機能は管理機能を他のユーザに委任したり、間違えてログアウトせずにブラウザを閉じてしまいセッションの有効期限まで再度ログインできなくなってしまう場合などに有効です。不要であれば、この機能を無効にできます。




➤ **顧客のデフォルトインターフェース言語を選択するには：**



1. [ツールと設定] > [言語]（[Panelの外観] グループ内）に進みます
2. 新しいPanelユーザのデフォルト言語のチェックボックスをオンにして、[デフォルト指定] をクリックします。

インターフェース言語をセットアップする

Panel 10 には、ユーザインターフェースの翻訳が含まれる言語パックが用意されています。サポートされる言語のリストについては、<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/docs/> で公開されているリリースノートを参照してください。サポートされるすべての言語が、Panel のインストール中（クリーンインストールまたはアップグレード）にインストールされます。これらの言語は、追加作業なしで使用できます。使用できる言語数は、購入した Panel ライセンスに応じて決まります。許可される数以上の言語を使用しようとすると、警告が表示されます。

➤ Panel にインストールされたインターフェース言語を表示するには：

1. [ツールと設定] > [言語] （[Panelの外観] グループ内）に進みます以下の情報が表示されます。
 - 言語パックの現在のステータスが言語ステータスアイコンに表示されます。 はユーザが言語パックにアクセスできることを意味し、 はアクセスできないことを意味し、 は言語パックの数が現在のライセンスでの上限を超えているためユーザがその言語パックを使用できないことを意味します。

注：コントロールパネルのユーザが言語を使用できないように設定できます。これを行うには、 アイコンをクリックします。ユーザが言語を使用できるようにするには、 をクリックします。

 - **言語パック**：4 文字の言語コードです。
 - **言語**：言語名を示します。
 - **国**：この言語が話されている主な国を示します。
 - **使用済み**：インターフェースで当該言語を使用している全レベルのコントロールパネルユーザの人数を示します。

➤ Panel に新しいデフォルト言語を選択するには：

1. [ツールと設定] > [言語] （[Panelの外観] グループ内）に進みます
2. デフォルトに設定する言語のチェックボックスを選択して [デフォルト指定] をクリックします。

カスタムボタンを追加/削除する

パネルにカスタムハイパーリンクボタンを追加し、リセラーと顧客に対して表示することができます。このハイパーリンクのリンク先は、ウェブリソース（貴社のサイトなど）やウェブアプリケーション（オンラインリクエストの処理、クリックしたユーザに関する追加情報の収集などを実行するアプリケーション）にすることができます。

ユーザに関してどのような情報を受け渡すのかを指定することができます。

- 契約 ID
- 契約に関連付けられたプライマリドメイン名
- FTP アカウントのユーザ名とパスワード
- 顧客のアカウント ID、名前、メールアドレス、会社名

サーバ管理パネルおよびコントロールパネルの次の場所にボタンを配置し、表示対象とするユーザを定義できます。

- サーバ管理パネルの **【ホーム】** ページで、管理者および追加の管理者アカウントでログインしたユーザに対してのみ表示する。このように設定するには、ボタンのプロパティで **【管理者のホームページ】** オプションをオンにします。
- サーバ管理パネルの **【ホーム】** ページで、リセラーのみにに対して表示する。このように設定するには、ボタンのプロパティで **【リセラーのホームページ】** オプションをオンにします。
- コントロールパネルの **【ホーム】** タブで、ホスティングサービス事業者とそのユーザ（コントロールパネルへのログインが許可されているユーザ）のみにに対して表示する。このように設定するには、ボタンのプロパティで **【顧客のホームページ】** オプションをオンにします。
- コントロールパネルの **【ウェブサイトおよびドメイン】** タブで、ホスティングサービス事業者とそのユーザ（コントロールパネルへのログインが許可されているユーザ）のみにに対して表示する。このように設定するには、ボタンのプロパティで **【契約の【ウェブサイトとドメイン】 ページ】** オプションをオンにします。
- サーバ管理パネルとコントロールパネルの **【ホーム】** ページで、管理者と全リセラーおよび顧客に対して表示する。このように設定するには、ボタンのプロパティで **【共通アクセス】** オプションをオンにします。

➤ **サーバ管理パネルまたはコントロールパネルにカスタムのハイパーリンクボタンを追加するには：**

1. **【ツールと設定】 > 【カスタムボタン】**（**【コントロールパネルの外観】** グループ内）に進み、**【サービスへのリンクを追加する】** をクリックします。
2. ボタンに以下のプロパティを指定します。
 - **【ボタンラベル】** ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。

- ボタンの優先度を指定します。カスタムボタンは、定義した優先度に従って Panel に配置されます。数字が小さいほど、優先度が高くなります。ボタンは左から右に配置されます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、[参照] をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像には 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームやデスクトップに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルをお勧めします。
 - [URL] ボックスに、ボタンのハイパーリンクを入力します。
 - チェックボックスで、顧客情報などのデータを URL に含めて転送するかどうかを指定します。これらの情報は外部のウェブアプリケーションで使用できます。
 - [ツールヒントのテキスト] の入力フィールドに、ボタンの上にマウスを動かすと表示されるヒントを入力します。
 - リンク先 URL をパネルのメインフレームで開く場合は、[Parallels Panel で URL を開く] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると、URL は別のウィンドウまたはタブに表示されます。
 - 自分以外にこのボタンを表示させない場合は、[自分だけにのみ表示する] チェックボックスをオンにします。
3. [終了] をクリックして作成を完了します。

➤ **Panel からハイパーリンクボタンを削除するには :**

1. [ツールと設定] > [カスタムボタン] （ [Panel の外観] グループ内）に進みます
2. 削除するボタンに対応するチェックボックスを選択し、[削除] をクリックします。

ブランディング

ページタイトルやロゴを変更したり、Panel のカスタムテーマ（旧名「スキン」）を適用することにより、Parallels Plesk Panel で独自のブランディングを構成することができます。ブランディングツールは、[ツールと設定] > [Panel のブランディング]（[Panel の外観] グループ）で使用できます。

ここでは、それぞれのオプションの詳細を説明します。

- **[Panel ページのタイトル]** とは、顧客が Panel にログインするとブラウザウィンドウ上部に表示されるタイトルです。デフォルトで、「*Parallels Plesk Panel 10.3.0*」に設定されています。
- **ロゴ**とは、顧客が Panel にログインするとトップフレームに表示されるバナーです。ロゴは、クリック可能なハイパーリンクにすることもできます。使用できる画像フォーマットは GIF、JPEG、PNG です。ダウンロード所要時間を短くするために、100 キロバイト以内にすることをお勧めします。画像の高さは 50 ピクセルを推奨します。

これら 2 つのオプションに加え、カスタムテーマを適用して Panel の外観とブランディングを変更することもできます。カスタムテーマの使用方法について詳しくは、『**Customizing Panel Appearance and Branding**』マニュアルを参照してください。

セッション設定を変更する

Parallels Plesk Panel ではどのセッションでもアイドル時間を変更可能です。

➤ セッションのセキュリティパラメータを変更するには：

1. [設定] > [セッションアイドル時間]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. 適切なフィールドに**セッションアイドル時間**を分単位で入力します。セッションのアイドル状態が、**セッションアイドル時間**の指定時間を超えると、コントロールパネルはセッションを終了します。
3. [OK] をクリックします。

➤ 1つのクライアントセッション中に IP の変更を許可するには（Windows ホスティングに限る）：

1. [設定] > [セッションアイドル時間]（[セキュリティ] グループ内）に進みます。
2. [セッション中のIPアドレスの変更を許可する] チェックボックスをオンにします。動的IPアドレスを使用しておりインターネット接続が不安定な顧客は、このオプションを使用してParallels Plesk Panelで作業することができます。ただし、セキュリティ上でのリスクは増大します。
3. [OK] をクリックします。

➤ **すべてのパラメータをデフォルト値に戻すには：**

1. [設定] > [セッションアイドル時間]（[セキュリティ] グループ内）に進み、[デフォルト] をクリックします。セッションアイドル時間がデフォルト値の30分に設定されます。
2. [OK] をクリックします。

Panel で顧客が行ったアクションのログをとる

システム内で様々なユーザが行ったアクションをトラッキングすることが可能です。すべてのアクションはログファイルに記録されており、ダウンロードして閲覧できます。以下のシステムイベント（アクション）のログを記録できます。

- 管理者情報の変更
- システムサービスの再起動、起動、停止
- IP アドレスの追加、削除、変更
- ログイン設定（コントロールパネルでのすべてのユーザセッションに許可される非活動期間）の変更
- 顧客アカウントの作成/削除、または個人またはシステム情報の変更
- 顧客アカウントのステータス変更（一時停止/有効化）
- 顧客インターフェースプリファレンスの変更
- 顧客 IP プールの変更
- 顧客プールでのウェブアプリケーションの追加/削除
- 顧客アカウントのディスクスペース上限に到達
- 顧客アカウントのトラフィック使用率の上限に到達
- ウェブサイトのディスクスペース上限に到達
- ドメインのトラフィック使用率の上限に到達
- ウェブサイトの作成、削除、設定変更
- ウェブサイトの所有者の変更
- ウェブサイトのステータス変更（一時停止/有効化）
- ウェブサイトの DNS ゾーンの更新
- サブドメインの作成、削除、設定変更
- ドメインエイリアスの作成、削除、設定変更
- ドメインエイリアスの DNS ゾーンの変更
- 顧客アカウントのリソース割り当ての変更
- 操作に対する顧客のパーミッションの変更
- ウェブサイトのリソース割り当ての変更
- Panel へのユーザのログイン/ログアウト
- メールアカウントの作成、削除、変更
- メールリングリストの作成、削除、設定変更
- ウェブサイトホスティングのセットアップ、削除、変更
- ウェブ転送ホスティングアカウントの作成、削除、再構成

- ウェブアプリケーションのインストール、再構成、アンインストール
- ウェブアプリケーションパッケージのインストール、アンインストール、更新
- ライセンスキーの期限切れまたは更新
- データベースサーバの作成、削除、更新
- データベースの作成/削除
- データベースユーザアカウントの作成、削除、更新
- 顧客の GUID の更新
- ドメインの GUID の更新
- Parallels Plesk Panel コンポーネントの更新/追加

アクションログをセットアップする

➤ アクションログをセットアップするには :

1. [ツールと設定] > [アクションログ] ([ログと通知] グループ内) に進みます。
2. [記録するアクション] グループで、ログに記録したいアクションを選んでチェックボックスをオンにします。
3. [データベースにレコードを保存する範囲] フィールドで、アクションのログを消去する間隔を日数、週数、月数単位で指定します。あるいは、データベースに保存するレコード数で指定することもできます。
4. すべてのアクションログレコードを保存する場合は、[ログを削除しない] オプションをオンにします。
5. 変更を適用するには、[OK] をクリックします。

アクションログをダウンロードする

➤ ローカル PC にアクションログをダウンロードするには :

1. [ツールと設定] > [アクションログ] ([ログと通知] グループ内) に進みます。
2. [ログファイル] セクションでドロップダウンボックスを使用して期間を選択し、[ダウンロード] をクリックします。

ダウンロードするファイルを保存する場所を尋ねるダイアログウィンドウが開きます。

3. 保存場所を指定して [保存] をクリックします。

アクションログを消去する

➤ アクションログを消去するには :

1. [ツールと設定] > [アクションログ] ([ログと通知] グループ内) に進みます。
2. [ログファイル] セクションで、[ログ消去] をクリックします。

第 7 章

サーバを構成する

Parallels Plesk Panel ソフトウェアをサーバにインストールし、構成した後で、オペレーションに必要なサービスを構成擦る必要があります。この章の指示に従い、ホスティングサーバを構成してください。

サーバの IP プールを構成する

このセクションでは、IP アドレスの概念と、Panel でウェブホスティング用に IP アドレスがどのように割り当てられるのかを説明します。

このセクションには、次のサブセクションがあります。

- IP アドレスについて : IPv4 と IPv6
- IPv6 を使用するための要件
- リセラーとホスティング顧客への割り当て : Parallels Plesk Panel での手順
- サーバ IP プールでの作業方法

IP アドレスについて : IPv4 と IPv6

IP アドレスとは、ネットワーク内のデバイス（コンピュータなど）を一意に識別する番号です。IP アドレスを使用すれば、ネットワーク内のコンピュータが互いに識別し、通信できるようになります。

IP アドレスには 2 種類の形式があります。

- **IP バージョン 4** : 192.168.1.1 のような書式の 32 ビットのネットワークアドレスです。現在、ほとんどのネットワークデバイスがこのバージョンを使用しています。IPv4 アドレスは数に限りがあり、空き IP アドレスの最後のブロックはすでにインターネットサービスプロバイダに割り振られています。
- **IP バージョン 6** : 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 のような書式の 128 ビットネットワークアドレスです。IPv6 は、IPv4 ネットワークアドレスの枯渇に対応するために開発された新しい規格です。

IPv6 に対応するネットワークに Parallels Plesk Panel を導入すると、Parallels Plesk Panel は IPv4 アドレスと IPv6 アドレスに同時対応できます。プロバイダはサーバ IP プールに IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを追加し、これらをリセラーに割り当て、これらをベースに契約を作成することが可能です。

ホスティング契約ごとに、以下のいずれかを割り当てることができます。

- 1 つの IPv4 アドレス
- 1 つの IPv6 アドレス
- 1 つの IPv4 アドレス + 1 つの IPv6 アドレス（デュアルスタック契約）

注： パスワード認証なしでインターネットユーザがアクセス可能な FTP 共有（匿名 FTP）をホスティングする必要がある契約には、専用 IPv4 アドレスを 1 つ以上割り当てる必要があります。

IPv6 を使用するための要件

Parallels Plesk Panel が IPv6 対応ネットワークで正しく機能するようにするためには、以下の要件を満たす必要があります。

- Panel で管理するサーバに対し、静的 IPv4 アドレスを 1 つ以上割り当てる。この要件は、Panel ライセンシングサーバとアプリケーションカタログへの接続のために必要です。
- 仮想環境の運用に、Parallels Virtuozzo Containers 4.6 またはそれ以降を使用する。

この機能をサポートする Linux オペレーティングシステムのリストは、Panel for Linux または Panel for Windows のリリースノートを参照してください。

リセラーとホスティング顧客への割り当て：Parallels Plesk Panel での手順

Panel では、次のような手順で IP アドレスが割り当てられます。

1. サーバ IP プールに IP アドレスが追加されます。

インストール後、Panel は割り当てられたすべての IP アドレスをオペレーティングシステムの構成から読み取り、サーバ IP プールに追加します。ネットワーク構成ファイルに手作業で変更を加えた場合は Panel で認識されない可能性があります。したがって、サーバで利用できる新規の IP アドレスを取得したときは、Panel を使用してアドレスを追加する必要があります。

注： Panel を Parallels Virtuozzo Containers (PVC) 上で稼働している場合は、IP アドレスの追加は必ず PVC ハードウェアノードで行ってください。

サーバ IP プールにアドレスを追加する際に（[ツールとユーティリティ] > [IP アドレス] > [IP アドレスを追加する]）、IP アドレスを「専用」と「共有」のどちらとして割り当てることができるかを選択してください。

- 1つの専用 IP アドレスは1つのリセラーに割り当てることができます。専用 IP アドレスは、SSL 暗号化を利用する e コマースサイトのホスティングや、パスワード認証なしでアクセス可能な FTP 共有をホスティングするサイトに必要です。

注：最近追加されたSNI（Server Name Indication）拡張を使用すれば、共有IPアドレスのサイトでSSL保護を有効化することができますが、すべてのホスティングサーバとユーザブラウザで機能するわけではありません。詳しくは、「単一IPアドレスで複数のSSLサイトをホスティングする（160ページ）」のセクションを参照してください。

- 共有 IP アドレスは、文字通り、複数のリセラーアカウントとサイト間で共有可能です。アドレスの共有により、枯渇している IP v4 アドレスリソースを効率的に使用できますが、IPv6 アドレスでは不要です。
2. リセラープランのセットアップ時に（[サービスプラン] > [リセラープラン] > [新しいプランを追加する] > [IP アドレス] タブ）、リセラーに割り当てる IP アドレスを選択してください。
 - 共有 IP アドレスの場合、割り当てるアドレスを手作業で選択できます。
 - 専用 IP アドレスの場合、割り当てるアドレスの数を指定することしかできません。リセラーアカウントを新規作成すると、Panel がサーバプールから未使用の専用 IP アドレスを自動的に選択し、リセラーに割り当てます。
 3. 新しい顧客をサインアップするか（[顧客] > [新しい顧客を追加する]）、自社のニーズにあわせて契約を作成する際に（[契約] > [新しい契約を追加する]）、割り当てる IP アドレスを選択することができます。サーバ IP プールに含まれるすべての共有アドレスと専用アドレスがメニューに一覧表示されます。

サーバ IP プールでの作業方法

➤ 現在の IP アドレスを自分で確認するには：

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進みます。
IP アドレスのリストと以下の補足情報が表示されます。
 - [IP アドレス]、[サブネットマスク]、[インターフェース] の列は、どの IP アドレスがどのネットワークインターフェース上にあるのかを示します。
 - [リセラー] 列は、それぞれの IP アドレスが割り当てられているユーザアカウントの数を示します。ユーザを名前順に表示するには、[リセラー] 列で数字をクリックします。
 - [ドメイン] の列は IP アドレス上でホスティングされているウェブサイトの数を示します。これらのウェブサイトのドメイン名を表示するには [ドメイン] 列で数字をクリックします。
2. IPアドレスのリストとそのステータスを更新するには、[IP再読み込み] をクリックします。

サーバのオペレーティングシステムでネットワークインターフェースに IP アドレスを手動で追加した場合や、Parallels Virtuozzo Containers で操作を行っている場合は、この作業を行う必要があります。

➤ **サーバに新規の IP アドレスを追加するには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進み、[IPアドレスの追加] をクリックします。
2. [インターフェース] メニューで新しいIP用のネットワークインターフェースを選択します。このメニューには、サーバにインストールされているすべてのネットワークカードが表示されます。
3. 該当するボックスに、IPアドレスとサブネットマスクを入力します（たとえば「123.123.123.123/16」または「2002:7b7b:7b7b::1/64」）。
4. 新しいIPアドレスのタイプ（共有または専用）を選択します。
5. ドロップダウンボックスで、新しいIP addressに対して使用するデフォルトのSSL証明書を選択してください。以下の証明書を選択することができます。
 - **デフォルト証明書** - Parallels Plesk Panel ディストリビューションパッケージに付属する証明書。この証明書は認証局により署名されていないため、ウェブブラウザに認識されず、警告メッセージが表示されます。デフォルトの証明書は、https プロトコルを使用して Panel にアクセスする場合に使用します（https://server-name-or-IP-address:8443/）。
 - **その他の証明書** - SSL 証明書のリポジトリに追加した証明書（自己署名、または認証機関の署名済み）。証明書の追加については、『コントロールパネルユーザガイド』の「SSL 暗号化によるサイト保護」のセクションを参照してください。
6. サーバでWindows OSを実行している場合に、専用IPアドレス上のドメインでセキュアなFTP接続（FTP over SSL）を使用するには、[FTP over SSL] チェックボックスをオンにします。

注：セキュアな FTP 接続のためには、Parallels Plesk Panel サーバにインストールする FTP サーバが FTP over SSL をサポートする必要があります。たとえば、Gene6、Serv-U FTP、IIS FTP 7.x サーバは FTP over SSL をサポートしています。

7. [OK] をクリックします。

➤ **IP アドレスをサーバから削除するには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進みます。
2. 該当するチェックボックスをオンにして [削除] をクリックし、削除を確認して [OK] をクリックします。

➤ **リセラーに IP アドレスを割り当てるには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進み、[リセラー] 列で数字をクリックして [割り当て] をクリックします。
2. 必要なアカウントを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **リセラーの IP アドレスを取り消すには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進み、[リセラー] 列で数字をクリックします。
2. 該当するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

ユーザは IP アドレスを入力することによって、サーバ上のウェブリソースを参照することができます。そのため、そのアドレスでホスティングしているウェブサイトが複数ある場合、どのサイトを表示するのか Panel が判断する必要があります。当該 IP アドレスで最初に作成されたウェブサイトが自動的にデフォルトウェブサイトになりますが、他のウェブサイトを選択し、デフォルトにすることもできます。

➤ **専用 IP アドレスのデフォルトウェブサイト（デフォルトドメイン）を指定するには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進んで、IPアドレスをクリックします。
2. [デフォルトサイト] メニューで、必要なサイトを選択し、[OK] をクリックします。

➤ **IP アドレスの割り当てタイプ（共用、専用）を変更するか、IP アドレスに別の SSL 証明書を割り当てるには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [IPアドレス]（[リソース] グループ内）に進んで、IPアドレスをクリックします。
2. 必要なIPアドレスタイプとSSL証明書を選択し、[OK] をクリックします。





サーバで使用するソフトウェアコンポーネントを表示/選択する

Parallels Plesk Panel は、アンチウイルスやウェブメールサーバといったサードパーティ製ソフトウェアコンポーネントをサポートしています。Windows ベースのホスティングを使用している場合、サーバ上で使用するコンポーネントを選択することができます。

➤ **使用可能なコンポーネントのリストを表示して、Plesk で使用するコンポーネントを選択するには：**

1. **【設定】 > 【サーバコンポーネント】**（**【一般】**グループ内）に進みます。

インストールされているすべてのコンポーネントがリストされます。Windows ベースのホスティングを使用している場合、コンポーネントの現在の状態が表示され、どのコンポーネントを使用するかを選択できます。コンポーネントの現在の状態はアイコンで示されます。

-  は、Panel でこのコンポーネントを使用しており、コンポーネントが稼働していることを示します。
-  は、Panel でこのコンポーネントを使用していないが（通常はライセンスキーの期限が切れたか、ライセンスキーが存在しないため）、コンポーネントは稼働していることを示します。
-  は、コンポーネントが停止しているため Panel でこのコンポーネントを使用していないことを示します。
-  は、Panel でこのコンポーネントを使用していないが、コンポーネントはシステムにインストールされており、使用可能であることを示します。

2. コンポーネント名（例：**メールサーバ**）をクリックし、Parallels Plesk Panel がサポートしている使用可能なコンポーネントのリストからコンポーネントを選択します。

3. **【OK】** をクリックします。選択したコンポーネントが Parallels Plesk Panel によって起動します。

いくつかのコンポーネント（例：Merak Mail Server）は、**【コンポーネントバージョン】**表で名前をクリックして、構成することができます。コンポーネント設定の内容は、コンポーネントに応じて異なります。コンポーネントの構成が完了したら **【OK】** をクリックします。

使用可能なコンポーネントのリストを更新するには、**【更新】** をクリックします。

DNS サービスを構成する

Parallels Plesk Panel は、DNS サーバと連携するため、ウェブサイトをホスティングしているマシンと同一のマシン上で DNS サービスを実行できます。

新しく追加されたドメインの DNS ゾーン設定は自動で行われます。コントロールパネルに新規のドメイン名を追加すると、ゾーンファイルはサーバ全体の DNS ゾーンテンプレートに従って生成され、ネームサーバデータベースに登録されます。ネームサーバはゾーンのプライマリ（マスター）DNS サーバとして働くように指示されます。

以下が可能です。

- テンプレートからリソースレコードを追加および削除する。
- 自動ゾーン構成を、ドメイン単位でカスタム設定に置換する。
- 他の DNS サーバを選択する（たとえば、Windows サーバで、BIND DNS サーバから Microsoft DNS サーバに切り替える）。
- プロバイダや他の組織が貴社のサイト用に DNS サービスを実行している場合に、このマシンのドメインネームサービスをオフに切り替える。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートのデフォルトレコードを表示するには：**

【設定】 > 【DNS テンプレート設定】（【一般】グループ内）に進みます。すべてのリソースレコードテンプレートが表示されます。<ip> および <domain> テンプレートは、生成されたゾーンで実際の IP アドレスとドメイン名に自動的に置き換えられます。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートに新規リソースレコードを追加するには：**

1. 【設定】 > 【DNS テンプレート設定】（【一般】グループ内）に進みます。
2. 【DNS レコードの追加】をクリックします。
3. レコードタイプを選択し、希望するレコードプロパティを指定します
<ip> および <domain> テンプレートを使用できます。これらは、生成されたゾーンで、実際の IP アドレスおよびドメイン名に自動的に置き換えられます。また、ドメイン名の指定にはワイルドカード記号(*)を使用でき、必要な値を正確に指定できます。
4. 【OK】をクリックします。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートからリソースレコードを削除するには：**

1. 【設定】 > 【DNS テンプレート設定】（【一般】グループ内）に進みます。
2. 削除するレコードテンプレートのチェックボックスをオンにし、【削除】をクリックします。
3. 削除を確認して【OK】をクリックします。

Panel はゾーン名、ホスト名、管理者のメールアドレス、シリアル番号を自動的に更新し、SOA (Start of Authority) レコードパラメータのデフォルト値をゾーンファイルに書き込みます。デフォルト値はコントロールパネルで変更できます。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの SOA (Start of Authority) レコード設定を変更するには :**

1. [設定] > [DNSテンプレート設定] ([一般] グループ内) に進みます。
2. [SOAレコードテンプレート] をクリックします。
3. 希望する値を指定します。
 - **TTL** : 他の DNS サーバがレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Panel でのデフォルト値は 1 日です。
 - **更新** : セカンダリネームサーバが、プライマリネームサーバに対して、ドメインのゾーンファイルが変更されていないかを確認する間隔です。Panel でのデフォルト値は 3 時間です。
 - **再試行** : セカンダリサーバが、失敗したゾーン転送を再試行するまで待機する時間です。一般に、この時間は更新間隔より短くします。Panel でのデフォルト値は 1 時間です。
 - **期限切れ** : 更新期間中にゾーンが変更または更新されなかった場合に、セカンダリサーバが問い合わせに回答しなくなるまでの時間です。Panel でのデフォルト値は 1 週間です。
 - **最小** : セカンダリサーバがマイナスの応答をキャッシュするまでの時間です。Panel でのデフォルト値は 3 時間です。
4. [OK] をクリックします。新規のSOAレコードのパラメータが新規作成されたドメイン用に設定されます。

一部のハイレベル DNS ゾーン (大部分はヨーロッパ) に登録された多くのドメインでは、IETF と RIPE の推奨するシリアル番号フォーマットを使用することが義務付けられています。これらのゾーンに登録されているドメインを使用しており、レジストラに SOA シリアル番号を拒否された場合は、IETF と RIPE が推奨するシリアル番号フォーマットを使用すれば問題が解決します。

Parallels Plesk Panel サーバは UNIX タイムスタンプ構文を使用して DNS ゾーンを設定します。UNIX タイムスタンプとは、1970 年 1 月 1 日 (Unix Epoch) を起点にした秒数です。この 32 ビットのタイムスタンプは、2038 年 6 月 8 日にオーバーフローしてしまいます。

RIPE では、YYYYMMDDNN フォーマットの使用を推奨しています。YYYY は年 (4 桁)、MM は月 (2 桁)、DD は日 (2 桁)、NN は同じ日付に作成されたバージョンです (2 桁)。YYYYMMDDNN フォーマットは 4294 年までオーバーフローしません。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの SOA (Start of Authority) シリアル番号フォーマットを YYYYMMDDNN に変更するには :**

1. [設定] > [DNSテンプレート設定]（[一般] グループ内）に進みます。
2. [SOALレコードテンプレート] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスをオンにします。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルを参照してください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

4. [OK] をクリックします。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートの Start of Authority (SOA) シリアル番号フォーマットをデフォルト (UNIX タイムスタンプ) に戻すには：**

1. [設定] > [DNSテンプレート設定]（[一般] グループ内）に進みます。
2. [SOALレコードテンプレート] をクリックします。
3. [IETFとRIPEが推奨するシリアル番号フォーマットを利用する] チェックボックスをオフにします。

注： 選択したフォーマットで生成した SOA シリアル番号のサンプルを参照してください。生成した番号が現在のゾーン番号よりも小さい場合、変更によってこのドメイン用の DNS が一時的に誤動作する場合があります。ゾーンの更新がインターネットユーザから見えない場合があります。

4. [OK] をクリックします。

デフォルトでは、DNS ゾーン転送は各ゾーンに含まれる NS レコードが指定するネームサーバにしか許可されません。ドメイン名レジストラから、すべてのゾーンへの転送を許可するように求められている場合は、以下を実行してください。

1. [設定] > [DNSテンプレート設定]（[一般] グループ内）に進みます。
2. [転送制限テンプレート] をクリックします。すべてのゾーンへのDNSゾーン転送が許可されているホストがすべて表示されます。
3. [新しいアドレスの追加] をクリックします。
4. レジストラのIPまたはネットワークアドレスを指定して [OK] をクリックします。

➤ **自社でDNSサーバを稼働せず、サードパーティDNSサーバを使用している場合は、コントロールパネルのDNSサーバをオフに切り替えてください。**

1. [設定] > [DNSテンプレート設定]（[一般] グループ内）に進みます。

2. [スイッチオフ] をクリックします。

➤ **サーバ全体の DNS テンプレートを最初の設定に戻すには：**

1. [設定] > [DNSテンプレート設定] （[一般] グループ内）に進みます。
2. [デフォルトに復元する] をクリックします。

DNS サーバがクエリに対して再帰的なサービスを提供するべきかどうかを指定することができます。

再帰的なサービスが許可されている場合、DNS サーバはクエリを受けると、要求元の宛先 IP アドレスを見つけるために必要な検索手順をすべて実行します。再帰的なサービスが許可されていない場合、DNS サーバは必要最低限のクエリのみを行い、要求されたリソースの所在を知っているサーバを見つけて要求元をそのサーバにリダイレクトします。したがって、再帰的なサービスは、より多くのサーバリソースを消費し、ネットワーク外のクライアントからの再帰的なクエリを受け取るようにサーバが設定されている場合は特に、DoS 攻撃を受けやすくなります。

Parallels Plesk Panel のインストール後、内蔵の DNS サーバはデフォルトで、貴社のサーバやネットワーク内にあるサーバからの再帰的なクエリだけを受け付けるように設定されています。これが最適な設定です。Parallels Plesk Panel を前のバージョンからアップグレードした場合、DNS サーバのデフォルトは、すべてのホストからの再帰的クエリを受け付けるようになっています。

➤ **再帰的なドメインネームサービスに関する設定を変更するには：**

1. [設定] > [DNSテンプレート設定] （[一般] グループ内）> [DNS再帰] に進みます。
2. 必要なオプションを選択します。
 - すべてのホストからの再帰的クエリを許可するには [すべてのリクエストを許可] を選択します。
 - 自分のサーバや自分のネットワーク上のホストからの再帰的クエリだけを許可するには [ローカルリクエストのみ許可] を選択します。
 - 自分のサーバからの再帰的クエリだけを許可するには [拒否] を選択します。
3. [OK] をクリックします。

デフォルトでは、ユーザは他のユーザに属する DNS ゾーン内で新しいサブドメインやドメインエイリアスを作成できます。つまり、スパム行為、フィッシング詐欺、ID の盗用に使用できるウェブサイトやメールアカウントをユーザが作成できることを意味します。

➤ **ユーザが他のユーザに属する DNS ゾーン内でサブドメインやドメインエイリアスを設定できないようにするには：**

1. [設定] > [サブゾーン作成の制限] （[一般] グループ内）に進みます。

2. [他のユーザのDNSスーパーゾーン内にDNSサブゾーンを作成しないようにする] チェックボックスをオンにします。
3. [OK] をクリックします。

➤ **サーバに新しいホスト名を再割り当てするには :**

1. [設定] > [サーバ設定] ([一般] グループ内) に進みます。
2. [フルホスト名] ボックスに新しいホスト名を入力し、[OK] をクリックします。

NAT を行うルータの背後で稼働するように Panel を構成する

Panel に新しいウェブサイトをセットアップするたびに、このウェブサイトのドメイン名が、このドメインの DNS ゾーン内にある Panel が管理しているサーバの IP アドレスと関連付けられます。NAT（ネットワークアドレス変換）を行うルータの背後で Panel を稼働している場合、この IP アドレスは内部ネットワークアドレスになります（192.168.1.10 など）。192.168.x.x という IP アドレスは、IANA（Internet Assigned Numbers Authority）がプライベートサーバでの使用のために予約しているもので、インターネットユーザがこのウェブサイトにアクセスすることはできません。回避策としては、ドメイン名を、同じ DNS ゾーン内のルーティングデバイスのパブリック IP アドレスに関連付ける必要があります。

（自社のサーバを所有せず）ホスティングプロバイダのホスティングパッケージの一部として Panel を使用している場合は、このホスティングプロバイダにより、ウェブサイト作成に使用する DNS ゾーンテンプレートとルーティングデバイスが構成済みです。この場合、直接「NAT を行うルータの背後でパネルを実行する場合にウェブサイトをアクセス可能にする」に進んで、インターネットユーザが貴社のウェブサイトにアクセスできるようにしてください。

➤ ホスティングプロバイダが DNS ゾーンテンプレートをどのように変更しているのかを確認するには、以下を実行してください。

1. [設定] > [DNSテンプレート設定]（[DNS] グループ）に進みます。
2. タイプが「A」のリソースレコードをすべて見つけます。デフォルトでは、これらのレコードは以下のようにになっています。
 - <domain>.A <ip>
 - mail.<domain>.A <ip>
 - ns.<domain>.A <ip>
 - webmail.<domain>.A <ip>

<ip> の代わりに実 IP アドレスが表示されている場合は、ホスティングプロバイダがウェブサイトの作成に使用する DNS ゾーンテンプレートを変更したことを意味します。この IP アドレスをメモしておき、「NAT を行うルータの背後でパネルを稼働している場合にウェブサイトをアクセス可能にする」に進んで、インターネットユーザがウェブサイトにアクセスできるようにする方法を確認してください。

ただし、上記の例のようなレコード（実 IP アドレスではなく <ip>）が表示されている場合は、ホスティングパッケージの一部として提供されている Panel が NAT を行うルータの背後で稼働していないか、DNS ゾーンテンプレートを手動で変更する必要があります。

➤ ウェブサイトの作成に使用する DNS ゾーンテンプレートを変更するには：

1. [設定] > [DNSテンプレート設定] ([DNS] グループ) に進みます。
2. タイプが「A」のリソースレコードをすべて見つけます。これらのレコードは以下のようになっています。
 - <domain>.A <ip>
 - mail.<domain>.A <ip>
 - ns.<domain>.A <ip>
 - webmail.<domain>.A <ip>
3. 次のようにして、これらのAタイプレコードをすべて編集します。
 - a. [ホスト] 列で該当するリンクをクリックします。
 - b. [IPアドレスの入力] 入力ボックスで <ip> テンプレートを削除して、ホスティングプロバイダが割り当てたパブリックIPアドレスを入力します。割り当てられたパブリックIPアドレスを忘れた場合は、ホスティングプロバイダにお問い合わせください。
4. [OK] をクリックします。

NAT を行うルータの背後で Parallels Plesk Panel サーバを稼働している場合は、ルーティングデバイスを手動で構成し、ウェブサイトの作成に使用した DNS ゾーンテンプレートを変更する必要があります。

➤ **NAT を行うルータの背後で Panel がインストールされたサーバを稼働している場合は、以下を実行してください。**

1. ルーティングデバイスを設定してアドレス変換を適切に実行できるようにします。詳細は、ご使用のルーティングデバイスのマニュアルを参照してください。
2. Panel にログインし、[設定] > [DNSテンプレート設定] ([DNS] グループ) に進みます。
3. タイプが「A」のリソースレコードをすべて見つけます。これらのレコードは以下のようになっています。
 - <domain>.A <ip>
 - mail.<domain>.A <ip>
 - ns.<domain>.A <ip>
 - webmail.<domain>.A <ip>
4. これらのAタイプレコードをすべて編集します。
 - a. [ホスト] 列で該当のリンクをクリックします。
 - b. [IPアドレスの入力] 入力ボックスで <ip> テンプレートを削除して、ルーティングデバイスのパブリックIPアドレスを入力します。
 - c. [OK] をクリックします。

- d. 「NATを行うルータの背後でパネルを実行する場合にウェブサイトへのアクセス可能にする」に進んで、インターネットユーザに対してウェブサイトへのアクセス可能にする方法の詳細をご覧ください。

ファイアウォールの背後で稼働するように Panel を構成する

このセクションでは、パネルにファイアウォールを組み込んでセットアップし、パネルとそのサービスへのアクセスを許可する方法を説明します。

Parallels Plesk Panel サービスでは、以下のポートとプロトコルを使用します。

サービス名	サービスが使用するポート
Panel の管理インターフェース	TCP 8443、8880
Samba（Windows ネットワーク上のファイル共有）	UDP 137、UDP 138、TCP 139、TCP 445
VPN サービス	UDP 1194
ウェブサーバ	TCP 80、TCP 443
FTP サーバ	TCP 21
SSH（セキュアシェル）サーバ	TCP 22
SMTP（メール送信）サーバ	TCP 25、TCP 465
POP3（メール取得）サーバ	TCP 110、TCP 995
IMAP（メール取得）サーバ	TCP 143、TCP 993
メールパスワード変更サービス	TCP 106
MySQL サーバ	TCP 3306
MS SQL サーバ	TCP 1433
PostgreSQL サーバ	TCP 5432
ライセンスサーバ接続	TCP 5224
ドメインネームサーバ	UDP 53、TCP 53

Panel に搭載されたソフトウェアファイアウォールの使用（Windows ホスティング）

Parallels Plesk Panel にはファイアウォールが搭載されており、サーバの悪用を狙う悪意ある受信ネットワーク接続からサーバを保護するために使用できます。ファイアウォールにはルールが事前定義されており、ホスティングサーバの正常な機能（ウェブ、メール、FTP など）に必要なサービスへの接続は許可されています。デフォルトではファイアウォールは無効になっています。



以下を実行するには、このセクションを参照してください。

- ファイアウォールを起動する
- 現在許可されている受信接続を確認する
- 受信接続を許可またはブロックする
- ICMP 接続を許可またはブロックする
- ファイアウォールのデフォルト設定を復元する
- ファイアウォールを停止する

ファイアウォールを起動する

➤ ファイアウォールを起動するには：

1. [設定] > [ファイアウォール]（[セキュリティ] グループ）に進みます。
2. [ツール] で [スイッチオン] をクリックします。
3. ファイアウォールを特定のネットワークインターフェースに対して起動するには、（ネットワークインターフェースが複数ある場合は）インターフェースのリストでこのインターフェース名をクリックします。

適用されたフィルタリングポリシー（ルール）のリストが表示されます。[S]（ステータス）列に  アイコンが表示される場合は、ルールと一致するパケットをファイアウォールがブロックします。 アイコンが表示される場合は、ルールに一致するパケットの通過をファイアウォールが許可します。


注：特定のネットワークインターフェースのファイアウォールの設定は、Microsoft Windows Server 2003 に限り可能です。


現在許可されている受信接続を確認する

デフォルトでは、明示的に許可されていない受信接続はすべてブロックされます。



➤ 受信接続に現在適用されているファイアウォールルールを確認するには：

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール]（[セキュリティ] グループ内）に進みます
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

現在定義されているルールがすべて表示されます。[S]（ステータス）列に  アイコンが表示される場合は、ルールと一致するパケットをファイアウォールがブロックします。

 アイコンが表示される場合は、ルールに一致するパケットの通過をファイアウォールが許可します。

注：特定のネットワークインターフェースに対してファイアウォールを設定するのは、Microsoft Windows Server 2003 でのみ可能です。Microsoft Windows Server 2008 を使用している場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. 以下のいずれかを実行します。
 - ルールのプロパティを表示または変更するには、各ルール名をクリックします。ルールの変更を保存するには [OK] をクリックします。変更を保存しないで前の画面に戻るには、[キャンセル] または [上へ] をクリックします。
 - サービスへの接続を許可するには、[ファイアウォールルールの追加] をクリックし、参考用にルール名を指定して、受信接続を許可するポートとプロトコルを指定します。このルールをすぐに適用したい場合は [ルールをスイッチオンする] チェックボックスをオンにしておきます。[OK] をクリックします。
 - 過去にアクセス不可にしたサービスへの接続を許可するには、[S] 列でそれぞれのルールの  アイコンをクリックします。
 - サービスへの接続を一時的にブロックするには、[S] 列の  アイコンをクリックします。
 - サービスへの接続を永久にブロックするには、該当するサービスへ接続を許可しているルールのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。ルールを削除すると、このルールに指定されている接続がブロックされるようになります。

受信接続を許可またはブロックする

デフォルトでは、明示的に許可されていない受信接続はすべてブロックされます。

➤ サービスへの受信接続を許可するには：

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール]（[セキュリティ] グループ内）に進みます
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

注： 特定のネットワークインターフェースに対してファイアウォールを設定するのは、Microsoft Windows Server 2003 でのみ可能です。Microsoft Windows Server 2008 を使用している場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. [ファイアウォールルールの追加] をクリックして、以下のパラメータを指定します。
 - ルール名（参照用）
 - 受信接続を許可するポート/ポート範囲およびプロトコル
4. このルールをすぐに適用したい場合は [ルールをスイッチオンする] チェックボックスをオンにしておきます。
5. [OK] をクリックします。

➤ 許可していたサービスへの受信接続をブロックするには：

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール]（[セキュリティ] グループ内）に進みます
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

注： 特定のネットワークインターフェースに対してファイアウォールを設定するのは、Microsoft Windows Server 2003 でのみ可能です。Microsoft Windows Server 2008 を使用している場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. 該当するサービスへ接続を許可しているルールのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。

ルールを削除すると、このルールに指定されている接続がブロックされるようになります。



ICMP 接続を許可またはブロックする

ICMP 接続はネットワークのトラブルシューティングに使用されます。デフォルトではすべての ICMP 接続が許可されています。ICMP メッセージについて詳しくは、以下を参照してください。



<http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/jp-jp/xpeshelp/html/xeconconfiguringicmpsettingsinwindowsfirewall.asp>

➤ ICMP 接続を許可またはブロックするには :

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール] ([セキュリティ] グループ内) > [ICMP プロトコル] に進みます。

ICMP 接続に事前定義されたルールが一覧表示されます。[S] (ステータス) 列に  アイコンが表示される場合は、ルールと一致するパケットをファイアウォールがブロックします。 アイコンが表示される場合は、ルールに一致するパケットの通過をファイアウォールが許可します。

2. 以下のいずれかを実行します。

- 特定のタイプの ICMP リクエストを許可するには、[S] 列の  アイコンをクリックします。
- 特定のタイプの ICMP リクエストをブロックするには、[S] 列の  アイコンをクリックします。
- すべての ICMP リクエストをブロックするには、[パニックモード] をクリックします。
- ICMP リクエストのデフォルト設定を復元するには、[デフォルト] をクリックします。

ファイアウォールのデフォルト設定を復元する

➤ 初期構成に戻すには :

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール] ([セキュリティ] グループ内) に進みます
2. 必要なネットワークインターフェースをクリックします。

注 : 特定のネットワークインターフェースに対してファイアウォールを設定するのは、Microsoft Windows Server 2003 でのみ可能です。Microsoft Windows Server 2008 を使用している場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

3. [ツール] で [デフォルトに戻す] をクリックします。

サーバへのすべての接続をパニックモードを使用して遮断する

サーバのセキュリティが侵害され、ウェブサイト障害が発生した場合、すべての脆弱性パッチを適用し、ウェブサイトをバックアップファイルから復元する間、サーバをインターネットから切断して停止することができます。

➤ **サーバへの接続をすべて遮断するには：**

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール]（[セキュリティ] グループ内）に進みます
2. [パニックモード] をクリックします。

注：特定のネットワークインターフェースに対してファイアウォールを設定するのは、Microsoft Windows Server 2003 でのみ可能です。Microsoft Windows Server 2008 を使用している場合は、[ファイアウォールルール] タブに進んでください。

ファイアウォールを停止する

➤ **ファイアウォールを停止するには：**

1. [ツールと設定] > [ファイアウォール]（[セキュリティ] グループ内）に進みます
2. [ツール] で [スイッチオフ] をクリックします。

パッシブ FTP モード用にポート範囲を構成する（Windows）

➤ **FTP 経由でパッシブモードでサーバに接続するためのポートまたはポート範囲を設定するには：**

1. [ツール設定] > [FTP設定]（[一般] グループ内）に進みます。
2. [パッシブFTPモード接続用のポートまたはポート範囲] フィールドにポートまたはポート範囲を入力して [OK] をクリックします。

メールサービスをセットアップする

Panel は、メールボックスやメーリングリストに対してメールサービスを提供するメールサーバソフトウェアと連携します。インストール後、メールサーバは自動的に構成され、すぐにサービスを提供できますが、デフォルト設定で良いかどうか確認することをお勧めします。

デフォルトで Parallels Plesk Panel for Linux プラットフォームには Postfix メールサーバが、Parallels Plesk Panel for Windows プラットフォームには MailEnable メールサーバがインストールされています。Panel でサポートされていれば、これら以外のメールサーバソフトウェアをインストールし、それを使用するように Panel を設定することもできます。

別マシン上で稼働しているメールサーバを使用するか、ユーザによるメールサービスの操作を禁止するには、メールサービスの管理と新しいメールアカウントの追加に関連するすべてのコントロールを Panel から削除することができます。このオプションは、Panel で管理するメールサーバを実際にスイッチオフする訳ではありません。ホスティングサービスの顧客やユーザがアクセスするコントロールパネルで、次のようなアイテムを非表示にするだけです。

- [メール] タブ。
- [ホーム] タブの [メール] グループ。
- [ユーザ] タブの [ユーザ名] > [自分のアカウント下にメールアドレスを作成する] オプション。

➤ メールサービス関連のユーザインターフェース要素をコントロールパネルで非表示にするには：

1. サーバ管理パネルで、[設定] > [メールサーバ設定] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [Panelのメール管理機能を有効にする] チェックボックスをオフにします。
3. [OK] をクリックします。

➤ Panel で別のメールサーバソフトウェアを使用するには（現在は Windows ホスティングのみでサポート）：

1. 『Parallels Plesk Panelインストールガイド』で、サポートされるメールサーバのリストを確認し、使用するメールサーバソフトウェアがサポートされているかどうかをチェックしてください。
2. 『Parallels Plesk Panelインストールガイド』またはメールサーバのメーカーの指示に従い、ソフトウェアをインストールします。
3. Panelにログインし、[設定] > [サーバコンポーネント] に進みます。
4. [メールサーバ] リンクをクリックします。

インストールしたメールサーバが、使用可能なメールサーバのリストに表示されます。

5. 必要なメールサーバを選択して [OK] をクリックします。

Panel は新しいメールサーバの使用を開始し、サーバを再起動する必要はありません。後でいつでも別のメールサーバを選択することができます。

➤ **メールサービス設定を表示または構成するには：**

1. [設定] > [メールサーバ設定] （[メール] グループ内）に進みます。サーバ全体のメールプリファレンスの画面が [プリファレンス] タブに開きます。
2. [Panelのメール管理機能を有効にする] チェックボックスはオンのままにしておきます。外部メールサーバを使用している場合は、このチェックボックスをオフにしてください。
3. サーバを通して送信されるメールメッセージのサイズを制限したい場合は、[最大メッセージサイズ] ボックスに希望する値をキロバイト単位で入力します。特に制限しない場合は空欄にしてください。
4. ユーザが単純なパスワードを使用できないようにして、ハッカー攻撃からメールアカウントを防御するには、[最小パスワード強度] メニューで必要な値を選択してください。

五段階の強度があります。

- 最弱 - 0～19 ポイント。
- 弱 - 20～39 ポイント。
- 中 - 40～59 ポイント。
- 強 - 60～79 ポイント。
- 最強 - 80～100 ポイント。

Panel の計算アルゴリズムで強度が最強となるのは、長さ 9 文字以上で、大文字と小文字、数字、特殊文字 (!、@、#、\$、%、^、&、*、?、_、~など) がすべて含まれるパスワードです。

5. 未許可のメールリレーや未承諾の大量メールからサーバを保護するには、[メッセージ送信を有効にする] チェックボックスをオンにして、顧客にポート 587 経由のメールメッセージの送信を許可してください。

また、顧客に対し、メールプログラムの設定で外部 SMTP 接続にポート 587 を指定してファイアウォール設定でこのポートへの接続を許可する必要があることを通知してください。



6. メールリレーモードを選択します。

クローズドリレーでは、メールサーバはこのサーバ上にメールボックスを持っているユーザへのメールしか受け付けません。顧客は、貴社の送信 SMTP サーバを通して一切メールを送信できなくなります。従って、メールリレーをクローズにすることはお勧めしません。

認証後のリレーの場合、顧客だけが貴社のメールサーバ経由でメールを送受信できます。

[認証が必要] オプションをオンにしておき、許可される認証方法を指定することをお勧めします。

- **POP3 ロック時間**：POP3 認証では、ユーザが POP サーバの認証に成功すると、指定した時間内はメールサーバ経由でメールを送受信できるようになります。
- **SMTP**：SMTP 認証では、外部のアドレスにメールメッセージを送る場合、メールサーバの認証が必要になります。

Windowsホスティングユーザに対する注意事項：信頼するネットワークをリレー制限から除外するには、そのネットワークのIPとマスクを **【次のネットワークにはリレー制限を適用しない】** フィールドに指定し（例：123.123.123.123/16）、 アイコンをクリックします。リストからネットワークを削除するには、削除したいネットワークの  アイコンをクリックします。

リスト内のネットワークのリレーホストは、スパム、オープンリレー、オープンプロキシによって操作されないとみなされています。信頼されているホストは、スパムをリレーすることはあっても、スパムを作成したりヘッダデータを偽造することはありません。DNSブラックリストによるチェックは、これらのネットワーク上のホストに対しては行われません。

認証なしでのオープンリレーを許可するオプションもありますが、デフォルトではユーザーインターフェースで非表示になっています。このオプションをオンにすると、スパム発信者が未承諾のメールをサーバ経由で送信できるようになるため、お勧めしません。オープンリレーを設定するには、サーバのファイルシステムにログインして、Parallels Plesk Panel インストールディレクトリ（Unix の場合は

PRODUCT_ROOT_D/var/root.controls.lock、Windows の場合は PRODUCT_DATA_D/var/root.controls.lock）で root.controls.lock というファイルを検索し、このファイルから /server/mail.php3:relay_open という行を削除します。コントロールパネルにオープンリレーのオプションが表示されます。

7. サーバで使用するアンチウイルスプログラムを選択します。
8. サーバで使用するスパム防御オプションを選択します。

注：SpamAssassin スパムフィルタなどのスパム防御システムや、DomainKeys、DNS ブラックホールリスト、SPF（送信側ポリシーフレームワーク）ベースの防止システムを設定するには、「スパム防御を設定する」（112ページ）のセクションに進んでください。

9. Qmailメールサーバを使用している場合、メールアカウントのフォーマットも選択できます。

【短縮形のアカウント名とフルアカウント名の使用を許可する】 オプションをオンにすると、ユーザはメールアドレスの @ 記号の左側部分（例：username）だけを指定しても、またはメールアドレスをすべて（例：username@your-domain.com）指定しても、メールアカウントにログインできます。

ドメインの異なる複数のメールユーザが同一のユーザ名とパスワードを使用すると、認証で問題が発生する場合があります。これを回避するには、**【フルメールアカウント名の使用のみ許可する】** オプションをオンにしてください。

メールサーバでフルメールアカウント名だけをサポートするように設定すると、暗号化されたパスワードがメールボックスになく、異なるドメインでユーザ名とパスワードが重複していないことを確認するまでは、短縮形のアカウント名をサポートするように戻すことはできません。

10. [OK] をクリックして変更を送信します。

スパム防御をセットアップする

Panel の以下のツールを使用して、ユーザをスパムから保護することができます。

- **SpamAssassin スパムフィルタ**：スパムを識別するためのローカルまたはネットワークステを広範囲で行う強力なスパムフィルタです。

スパムフィルタを構成することで、メールサーバに届いた疑わしいメッセージを削除したり、そのようなメッセージの件名を変更し「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダを追加することができます。件名の変更は、自分のコンピュータにインストールされているフィルタプログラムでメールをフィルタしたいユーザにとって便利です。

SpamAssassin についての詳細は、<http://spamassassin.apache.org> を参照してください。

SpamAssassin フィルタを設定してオンにするには、「SpamAssassin スパムフィルタをセットアップする（114ページ）」のセクションに進んでください。

- **DomainKeys**（Linux ホスティングに限り使用可能）。DomainKeys は送信者の認証に基づくスパム防御システムです。受信側システムは、DomainKeys が提供する仕組みによって、特定のドメインから送信されたことになっているメールが確かにそのドメインからのメール送信認証を受けている個人またはシステムから送信されたものであるかどうかを検証します。送信者を検証して照合できなかった場合、受信側システムはメールを削除します。サーバで DomainKeys システムを構成するには、「DomainKeys に基づくスパム防御を有効にする（116ページ）」のセクションを参照してください。

- **DNS ブラックホールリスト**：このスパム防御システムは、メールサーバからデータベースへの DNS 照会をベースにしており、スパムの既知のソースや文書化されたソースが含まれ、多数の動的 IP アドレスがリストされています。このデータベースに該当があると、メールサーバが「550」エラーを返すか、要求された接続を拒否します。

DNSBL データベースで作業できるようにメールサーバを設定するには、「DNS ブラックホールリストに基づくスパム防御を有効にする（118ページ）」のセクションに進んでください。

- **送信元ポリシーフレームワーク**（Linux ホスティングのみで有効）。このスパム防御システムは DNS 照会ベースでもあります。偽造されたメールアドレスから送信されたスパムの量を減らすことを目的としています。SPF により、インターネットドメイン所有者はドメインのユーザにメールを送信することを認証されているマシンのアドレスを指定することができます。すると、SPF を実装している受信側は、そのドメインから送信されているとしながらドメインが認証するロケーションからの送信に失敗しているメールを疑わしいものとして処理することができます。

SPF について詳細は<http://www.openspf.org/howworks.html> を参照してください。

SPF に基づくフィルタリングを有効化するには、「送信元ポリシーフレームワークシステムのサポートをセットアップする（120ページ）」のセクションに進んでください。

- **サーバ全体のブラックリストとホワイトリスト。**ブラックリストとホワイトリストは標準のメールサーバ機能です。ブラックリストとホワイトリストを使用して、特定のサーバからのメールをブロックまたは受信することができます。メールサーバには、このメールサーバへの接続を試みるサーバのドメイン名と IP アドレスが収集されます。ドメイン名がブラックリストエントリと一致すると、メールサーバは接続を拒否します。したがって、スパムの可能性があるメッセージを受信することはありません。一方、IP アドレスがホワイトリストエントリと一致した場合、メールサーバは送信者認証、グレーリスト、DNSBL などのスパム防御システムを使用せずにこの送信者からのメッセージを受信します。

サーバ全体のブラックリストとホワイトリストを設定するには、「サーバ全体のブラックリストとホワイトリストをセットアップする（118ページ）」のセクションへ進んでください。

- **グレイリスト（Linux ホスティングに限り使用可能）。**グレイリストとは、以下のように動作するスパム防御システムです。サーバに送信された各メールメッセージについて、送信者および受信者のメールアドレスがデータベースに記録されます。初めてメッセージが送信されて来た場合は、その送信者および受信者のアドレスはまだデータベースにリストされておらず、サーバは一時的にそのメッセージを SMTP エラーコードで拒否します。メールが正当なものであり、送信サーバが適切に設定されている場合、メールは再び送信され、そのメッセージは受諾されます。そのメッセージの送信者がスパマーである場合、メールは再送信されません。一般にスパマーは何千人もの受信者にメールを一括送信し、わざわざ再送しないためです。

グレイリスト保護システムは、サーバ全体およびユーザごとのメール送信者ブラックリストおよびホワイトリストも考慮します。ホワイトリストに掲載されている送信者からのメールは、グレイリストによるチェックなしで受信しますが、ブラックリストに掲載されている送信者からのメールは、常に拒否します。

グレイリストに対応しているコンポーネントがサーバにインストールされている場合、グレイリストは常にすべてのドメインに対して自動的に有効になります。すべてのドメインに対し、グレイリストによる保護を一括で無効化することや（**[設定]>[スパムフィルタ設定]**）、個々の契約に対して無効化することができます（**コントロールパネル>[メール] タブ>[設定の変更]**）。

Setting Up SpamAssassin Spam Filter

➤ SpamAssassin スпамフィルタを有効にするには：

1. [設定] > [スパムフィルタ設定]（[メール] グループ内）に進みます。
2. 定義した設定に基づいてサーバ全体のフィルタリングを許可するには、[サーバ全体のSpamAssassinスパムフィルタを有効にする] チェックボックスをオンにします。
3. ユーザが自分のメールボックスのスパムフィルタプリファレンスを自分で設定できるようにするには、[スパムフィルタリングにユーザごとの設定を適用する] チェックボックスをオンにします。
4. スпамフィルタが使用するシステムリソース量を調整するには（Linuxホスティングのみで使用可能）、1～5の値を[Spamdプロセスを実行する最大Worker数(1-5)] ボックスに入力します（1が最小、5が最大）。デフォルト値の使用を推奨します。
5. スпамフィルタの検出感度を調整するには、[スパムとみなすのに必要なメッセージのポイントのスコアの数] ボックスに希望の値を入力してください。

SpamAssassin は、各メッセージの本文と件名に対して複数のテストを実行します。そのため、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高いほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージは 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージをスパムと分類するようにフィルタ感度が設定されます。

- ユーザが現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[メッセージをスパムとして判断するスコア値] ボックスの値を 6 などに下げてみてください。
 - スпамフィルタでジャンクとみなされたためにユーザがメールを受信できない場合、[スパムとしてみなすのに必要なスコアの数] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてみてください。
6. Windowsサーバの負荷軽減のために、[指定メールサイズを超過する場合はフィルタリングしない] チェックボックスをオンにして、スパムフィルタがテストするメッセージのサイズ上限を指定することができます。推奨されるメールサイズ上限は、画像が添付されたHTML形式のメールメッセージの一般的なサイズである150～250キロバイトです。添付ファイルがあるメールメッセージの一般的なサイズである500キロバイトを超えると、フィルタとサーバに対してメールサイズが過負荷になります。
 7. Windowsサーバのスパムフィルタで、一部のメールメッセージが未チェックのまま残されることがないように（受信メールが大量にある場合に起こる可能性があります）、同時にチェックできるメッセージの数を[スパムフィルタで作成できるスレッド数] フィールドで制限します。

8. スпамとみなされたメッセージをマークする方法を指定します。

サーバレベルでは、サーバ全体のスパムフィルタでスパムを自動的に削除するように設定することはできません。この設定はメールボックス単位でのみ可能です。サーバ全体で選択できるのは、メッセージをスパムとしてマークするオプションのみです。

「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダがデフォルトでメッセージソースに付加され、スパムフィルタにより、件名の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望する記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、**「スパムとして認識したメッセージの場合、件名の先頭に以下のテキストを追加する」**ボックスに入力してください。スパムフィルタでメッセージの件名を変更したくない場合、このボックスは空欄にしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに `_SCORE_` と入力してください。

9. Parallels Plesk Panel for Windowsを使用している場合は、信頼できる言語とロケールを指定して、常にフィルターを通過できるメールの言語特性を定義できます。

- **「信頼できる言語」** ボックスと **「信頼できるロケール」** ボックスで必要な項目を選択し、**「追加 >>」** をクリックします。
- 指定した言語と定義された文字セットで記述された文字は、スパムとみなされません。

10. 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、**「ブラックリスト」** タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストに該当する項目を追加します。

- ブラックリストにエントリを追加するには、**「アドレスを追加」** をクリックします。複数のアドレスを指定する場合は、カンマ、コロン、またはスペースで区切ります。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します。例えば、「address@spammers.net, user?@spammers.net, *@spammers.net」のように指定します。*@spammers.net と指定すると、spammers.net というメールアドレス全体がブロックされます。Windows ベースのサーバを使用している場合、指定アドレスからのメッセージに対してどのような操作を行うかも指定してください。追加したエントリを保存するには、**「OK」** をクリックします。
- ブラックリストからエントリを削除するには、**「ブラックリスト」** タブからエントリを選択して **「削除」** をクリックします。削除を確認して **「OK」** をクリックします。

11. 特定の送信者からのメールを確実に受信するためには、**「ホワイトリスト」** タブをクリックして、スパムフィルタのホワイトリストに当該メールアドレスまたはドメイン名全体を追加します。

- ホワイトリストにエントリを追加するには、[アドレスの追加] をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを[参照] で指定し [OK] をクリックします。もしくは、[リストから] オプションを選択し [メールアドレス] ボックスにメールアドレスを入力します。複数のアドレスが存在する場合は、アドレスごとに改行するか、コンマ、コロン、スペースでアドレスを区切ってください。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します。例えば、「address@mycompany.net, user?@mycompany.net, *@mycompany.net」のように指定します。*@mycompany.net を指定すると mycompany.net というドメインのメールアドレスがすべてホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、[OK] をクリックして追加を確認し、もう一度 [OK] をクリックします。
- ホワイトリストからエントリを削除するには、[ホワイトリスト] タブからエントリを選択して [削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

12. スпамフィルタの設定が終了したら、[OK] をクリックします。

これで受信するメールはすべてサーバ側でフィルタリングされます。デフォルトではスパムフィルタはスパムメールを削除せず、「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダをメッセージに追加して、スパムとみなされた各メッセージの件名の最初に「*****SPAM*****」という文字列を追加するだけです。

[スパムフィルタリングにユーザごとの設定を適用する] オプションを有効にしている場合、ユーザはスパムフィルタが自動的に迷惑メールを削除するように設定することができます。個人用のブラックリストとホワイトリストをセットアップし、サーバ設定を上書きしてメールボックスごとのスパムフィルタに学習させることもできます。

特定のメールボックスのスパムフィルタ設定を調整するには、『コントロールパネルユーザガイド』の「スパム防御をセットアップする」のセクションを参照してください。

注： Panel は基本的な SpamAssassin 機能のみを利用します。複雑なアンチスパムルールを作成するには、SpamAssassin 構成ファイルを編集してください。SpamAssassin の高度な構成について詳しくは、『**Parallels Plesk Panel 10: Advanced Administration Guide, Spam Protection**』（Linux 版および Windows 版）やその他のマニュアル（http://spamassassin.apache.org/doc/Mail_SpamAssassin_Conf.html など）を参照してください。

DomainKeys に基づいてスパム防御をセットアップする（Linux ホスティング）

➤ DomainKeys に基づくスパム防御を有効にするには：

1. [設定] > [メールサーバ設定] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [DomainKeysスパム検知] グループで以下のオプションを選択します。
 - 送信メールの署名を許可する：このオプションをオンにすると、コントロールパネルで契約ごとに DomainKeys メール署名のサポートを有効にできます（[コントロールパネル] > [メール] タブ > [設定の変更]）。送信メールの電子署名を自動的に有効にするわけではありません。

- **受信メールを検証する**: このオプションを選択すると、DomainKeys システムはサーバでホスティングされている全ドメインのメールユーザが受信するすべてのメールを検証します。

3. [OK] をクリックします。

これでメールサーバが受信メールをすべて検証するようになるため、本当に送信者から送信されたメールであると保証されます。メール署名に DomainKeys を使用しているドメインから送信されたメールは、検証に失敗すると削除されます。DomainKeys プログラムに参加していないドメインから送信されたメールでメール署名されていないものは、検証なしで承認されます。

➤ **契約内の全ドメインで送信メールの署名を有効にするには :**

1. [コントロールパネル] > [メール] タブ > [設定の変更] に進みます。
2. [送信メールメッセージに電子署名を行うために、DomainKeys スпам検知を利用する] チェックボックスをオンにします。
3. [OK] をクリックします。

すると、選択したドメインに対して以下が実行されます。

- 秘密鍵が生成され、サーバのデータベースに格納されます。
- 公開鍵が生成され、ドメインの DNS ゾーンに作成された TXT リソースレコードに格納されます。
- DNS TXT リソースレコードに記載されている送信者ポリシーは、「このドメインからの全メールメッセージは暗号署名されている必要があります。このドメインからであると名乗る署名なしのメールメッセージを受信した場合、このメールは削除しなければなりません (all e-mail messages sent from this domain must be cryptographically signed; if someone receives an e-mail message claiming to originate from this domain, which is not signed, then this e-mail must be discarded.) 」に設定されます。
- 送信メールメッセージはデジタル署名されます。秘密鍵に基づく署名を含む「DomainKeys-署名」ヘッダが、メッセージヘッダに追加されます。

DNS ブラックホールリストに基づくスパム防御を有効にする

サーバに対し、無料および有料の契約ブラックホールリストを利用できます。

<http://spamlinks.net/filter-dnsbl-lists.htm> で使用したい DNSBL サーバを選択してください。

➤ DNSBL ベースのスパム防御を有効にするには：

1. [設定] > [メールサーバ設定] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [DNSブラックホールリストに基づくスパム防御を有効にする] チェックボックスをオンにします。
3. [DNSBLサービス用のDNSゾーン] 入力ボックスに、メールサーバが照会するホスト名を入力します（例：sbl.spamhaus.org）。
4. [OK] をクリックします。

これで、既知のスパマーからのメールメッセージは、エラーコード 550（接続拒否）で却下されます。

サーバ全体のブラックリストおよびホワイтлиストをセットアップする

➤ 特定のメールサーバからの接続を拒否するには：

1. [設定] > [メールサーバ設定] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [ブラックリスト] タブをクリックします。
3. [ドメインの追加] をクリックします。
4. メールを受け取りたくないドメインの名前を指定します。例えば、「evilspammers.net」となります。
5. [OK] をクリックします。
6. 追加するドメインが複数ある場合は上記のステップ3から5を繰り返します。

➤ 特定のサーバまたはネットワークからのメール受信を許可するには：

1. [設定] > [メールサーバ設定] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [ホワイтлиスト] タブをクリックします。
3. [ネットワークの追加] をクリックします。
4. メールを受け取りたいIPアドレスまたはIPアドレスの範囲を指定します。
5. [OK] をクリックします。

6. 追加するアドレスが複数ある場合は上記のステップ3から5を繰り返します。

送信元ポリシーフレームワークシステムのサポートをセットアップする（Linux ホスティング）

➤ Linux ベースのサーバに送信側ポリシーフレームワークをセットアップするには：

1. [設定] > [メールサーバ設定]（[メール] グループ内）に進みます。サーバ全体のメールプリファレンスの画面が[設定]タブに開きます。
2. [SPFスパム防御を有効にする] チェックボックスをオンにし、メールの処理方法を指定します。
 - SPF チェックの結果に関係なくすべての受信メッセージを受け取るには、[SPF チェックモード] ドロップダウンボックスで [受信した SPF ヘッダを作成するのみ。防御はしない] オプションを選択します。このオプションを推奨します。
 - DNS 検索での問題により、SPF チェックに失敗した場合にも、SPF チェックの結果を問わずすべての受信メッセージを受け取るには、[SPF チェックモード] ドロップダウンボックスで [DNS ルックアップに問題がある場合は、一時的エラー通知を使用する] オプションを選択します。
 - 当該ドメインの使用が許可されていない送信者からのメッセージを拒否するには、[SPF チェックモード] ドロップダウンボックスで [SPF が「失敗」（拒否）と判断したメールを拒否する] オプションを選択します。
 - 問題となっているドメインの使用を許可されていないと思われる送信元からのメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が「softfail」と判断したメールを拒否する] オプションを選択します。
 - ドメインの記録が SPF にないため、認証されているか否かを SPF が判断できない送信者からのメッセージを拒否するには、[SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が「ニュートラル」と判断したメールを拒否する] オプションを選択します。
 - 何らかの理由で SPF チェックを通過しなかった（例えば送信者のドメインが SPF を実装しておらず、SPF チェックが「不明」ステータスを返した）場合にメッセージを拒否するには [SPF チェックモード] ドロップダウンボックスから [SPF が「パス」と判断しなかったメールを拒否する] オプションを選択します。
3. メールサーバによってSPFチェックが実際に行われる前にスパムフィルタに適用される追加ルールを指定するには、[SPFローカルルール] ボックスにルールを指定します。
 信頼できる送信者のオープンデータベースに対してメッセージをチェックするルールを追加することをお勧めします（例えば「include:spf.trusted-forwarder.org」）。SPF ルールの詳細は、<http://tools.ietf.org/html/rfc4408> を参照してください。
4. SPFレコードを発行しないドメインに適用するルールを指定するには、[SPF推測ルール] ボックスにルールを入力します。
 例えば、v=spf1 +a/24 +mx/24 +ptr ?all のように記入します。

5. メッセージが拒否された場合にSMTP送信者に戻る任意のエラー通知を指定するには、**【SPF説明テキスト】** ボックスにテキストを入力します。

何も入力しなければ、デフォルトテキストが通知に使用されます。

6. **【OK】** をクリックしてセットアップを完了します。

グレイリストに基づくスパム防御をセットアップする（Linux ホスティング）

グレイリストをサポートしているコンポーネントがサーバにインストールされている場合は、グレイリストは常にすべてのドメインに対して自動的に有効になります。そのため、追加のアクションは必要ありません。グレイリスト防御を使用したくない場合は、オフに切り替えることができます。

➤ **すべてのドメインに対してグレイリスト防御をオフに切り替えるには：**

1. [設定] > [スパムフィルタ設定]（[メール] グループ内）に進みます。
2. [サーバ全体に対するグレイリストスパム防御を有効にする] チェックボックスをオフにします。
3. [OK] をクリックします。

➤ **すべてのドメインに対してグレイリスト保護をオンに切り替えるには：**

1. [設定] > [スパムフィルタ設定]（[メール] グループ内）に進みます。
2. [サーバ全体に対するグレイリストスパム防御を有効にする] チェックボックスをオンにします。
3. [OK] をクリックします。

➤ **契約内のすべてのドメインに対するグレイリスト防御をオフにするには：**

1. [コントロールパネル] > [メール] タブ > [設定の変更] に進みます。
2. [このドメイン下の全メールアカウントに対して、グレイリストスパム防御を有効にする] チェックボックスをオフにします。
3. [OK] をクリックします。

➤ **契約内のすべてのドメインに対するグレイリスト防御をオンにするには：**

1. [コントロールパネル] > [メール] タブ > [設定の変更] に進みます。
2. [このドメイン下の全メールアカウントに対して、グレイリストスパム防御を有効にする] チェックボックスをオンにします。
3. [OK] をクリックします。

ウイルス防御をセットアップする（Linux ホスティング）

メールユーザにアンチウイルス防御を提供するには、Parallels Premium Antivirus または Kaspersky Antivirus ソリューションを使用できます。いずれのソリューションも、リアルタイムにサーバのメールトラフィックをスキャンできますが、微調整して添付ファイルから特定のファイルタイプをフィルタできるのは Kaspersky Antivirus だけです。

いずれも、1 年ごとに更新する追加のライセンスキーが必要です。現在の価格はプロバイダまたは Parallels サイトで確認してください。


➤ *Parallels Premium Antivirus または Kaspersky Antivirus をインストールするには：*

1. [ツールとユーティリティ] > [アップデート] に進みます。アップデートが新しいウィンドウで開きます。
2. [アップデートのキャンセル] をクリックします。
3. [コンポーネントの追加] をクリックします。
4. コンポーネントのリストで、[追加メールサービス] グループを展開し、[Parallels Premium antivirus] または [Kaspersky antivirus module] を選択します。
5. [続行] をクリックします。

インストール完了後に、以下の手順で選択したアンチウイルスプログラムのライセンスキーを取得してインストールします。

6. [ツールとユーティリティ] > [ライセンス管理] に進みます。
7. [新しいキーの注文] をクリックします。Parallelsオンラインストアが別のウィンドウで開き、使用可能なアドオンが一覧表示されています。
8. このページで、[Parallels Premium Antivirus] または [Kaspersky Antivirus] の横のチェックボックスをオンにして、[ADD TO MY BASKET] をクリックします。
9. Parallels Plesk Panelアドオンは、すでに存在するライセンスキーに追加されるため、この機能の追加先とするライセンスキーの番号を入力して[送信]をクリックしてください。
10. 次に、通貨、キーの数、連絡先情報、請求先住所、支払方法を指定してフォームを送信します。注文が処理されるとメールで通知が来ます。

11. メールで通知を受信したら、[ライセンス管理] 画面に戻り（[ホーム] > [ラ

イセンス管理]） [キーの取得] をクリックして注文したライセンスキーを取得します。Panelライセンスマネージャは、アップグレードされたライセンスキーをParallelsライセンスサーバから取得し、コントロールパネルにインストールします。

12. [設定] > [ウイルス防御設定]（[メール] グループ内）に進みます。

13. [アンチウイルスプリファレンス] でアンチウイルスを選択して [OK] をクリックします。

Parallels Premium Antivirus をインストールしている場合、アンチウイルス防御は、メールボックスのセットアップ後にメールボックス単位でのみ有効化できます。デフォルトでは、5 分間隔でウイルス定義を取得します。この設定はコントロールパネルでは変更できません。

Kaspersky Antivirus をインストールしている場合、設定は [ツールとユーティリティ] > [Kaspersky Antivirus] で行います。

ウイルス防御をセットアップする (Windows)

ウイルスや、メール経由で侵入する不正ソフトウェアからユーザを保護するために、Parallels Plesk Panel に付属しているアンチウイルスサービスを有効化することをお勧めします。

➤ **すべてのユーザのメールボックスに対してアンチウイルスをセットアップして有効にするには：**

1. [ツールと設定] > [ウイルス防御設定] （[メール] グループ内）に進みます。
2. スキャンモードを選択します。
3. 受送信メールに対するスキャンの設定をユーザが変更できるようにするには、それぞれのチェックボックスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

これでアンチウイルスが有効になりました。アンチウイルスはメールをスキャンして、感染メールをすべて削除します。

ウェブメールソフトウェアを選択する

多数のウェブメールソフトウェアパッケージをサーバにインストールして、どれをユーザに提供するかを選択できます。あるいは、ユーザを外部ウェブメールサービスにリダイレクトすることも可能です。これを行うには、外部ウェブメールサービスアドレスのレコードを追加することにより、Panel にこれらのサービスを登録します。

インストールされたすべてのウェブメールパッケージと登録された外部ウェブメールサービスが、ホスティングプランと契約のメール設定にリストされます（[メール] タブ）。ここで、ユーザにプロビジョンするウェブメールを選択可能です。

➤ **外部ウェブメールサービスを登録するには：**

1. [ツールと設定] > [ウェブメール] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [ウェブメールを登録する] をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - a. ウェブメールのサービス名：
 - b. ウェブメールサービスのURL：先頭に接頭辞 `http://` または `https://` を付けてアドレスを指定します。
 - c. 登録されたウェブメールサービスをホスティングプランの設定で選択できるようにするには、[有効] チェックボックスはオンにしておきます。

4. [OK] をクリックします。

➤ **外部ウェブメールレコードのプロパティを変更するには：**

1. [ツールと設定] > [ウェブメール] （[メール] グループ内）に進みます。
2. [名前] 列で該当エントリのリンクをクリックします。
3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **ウェブメールサービスをホスティングプランに含めないようにするには：**

1. [ツールと設定] > [ウェブメール] （[メール] グループ内）に進みます。
2. 以下のいずれかを行います。
 - サービスを実際には削除せず、一時的に選択不可にするには、該当するチェックボックスをオンにして[無効にする]を選択します。

この機能は、インストールされたウェブメールソフトウェアパッケージおよび外部ウェブメールサービスへのリンクが対象となります。
 - サービスレコードを永久的に削除するには、該当するチェックボックスをオンにして[削除する]をクリックします。

これで削除できるのは、外部ウェブメールサービスへのリンクのみです。インストールされたソフトウェアパッケージを削除するには、Parallels 製品インストーラを使用する必要があります（[ツールと設定] > [アップデート]）。

Mailman メーリングリストソフトウェアを構成する (Linux ホスティング)

顧客が自分のメーリングリストやニュースレターを運営できるようにするには、貴社のサーバに GNU Mailman パッケージをインストールし（Parallels Plesk Panel のインストール時にもインストール可能）、メーリングリスト管理者アカウントをセットアップする必要があります。これを行わなければ、メーリングリストやニュースレターの機能を使用できません。

➤ **コントロールパネルからメーリングリスト管理者アカウントを設定するには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [メーリングリストサーバの設定] （[リソース] グループ内）に進みます。
2. メーリングリストおよびその設定を管理するために使用するユーザ名とパスワードを指定します。
3. [OK] をクリックします。

Mailman 管理者アカウントを一度設定すれば、以下の URL でメーリングリストソフトウェアを設定したり、管理者ログイン名/パスワードを変更したりできます。

<http://lists.yourservername.tld/mailman/admin/mailman>

注：Mailman 管理者アカウントのセットアップ後は、コントロールパネルで【メーリングリストサーバの設定】アイコンにアクセスできなくなります。

顧客による大量メール送信の防止（Linux ホスティング）

➤ ユーザによる大量メールの送信を防止するには、以下を実行してください。

1. ディレクトリ `$QMAIL_ROOT_D/qmail/control/` に `maxrcpt` という名前のファイルを作成します。

`$QMAIL_ROOT_D` は、ファイル `/etc/psa/psa.conf` で指定した場所です。

2. このファイルに許可された受領者の数を入力して保存します。

この数は、メーリングリストやメールグループの登録者に対するメール送信にも影響することにご注意ください。つまり、この値を 100 に設定すると、メーリングリストやメールグループの登録者は 100 人しかこのメールを受領できません。

受領者の数を制限する必要がなくなったら、`maxrcpt` ファイルを削除してください。

Web Presence Builder を構成する

Web Presence Builder コンポーネントは、Parallels Plesk Panel にデフォルトでインストールされていますが、Web Presence Builder を使用するためには、Panel 用のライセンスキーをインストール（70 ページ）する必要があります。このライセンスキーにより、多数の Web Presence Builder ウェブサイトを作成できます。

このようなライセンスのインストール後、サーバ管理パネルで【サービスプラン】>【ホスティングプラン】に進み、Web Presence Builder を使用可能にするプラン名をクリックして、【**Web Presence Builder を使用して公開するサイト**】パラメータを任意の数に設定します（0 は「使用不可」を意味するため、1 以上の数を指定してください）。

このサービスプランに基づいて契約をプロビジョンする場合、顧客がコントロールパネルにログインすると、【ホーム】ページと【ウェブサイトとドメイン】ページに【**Web Presence Builder を起動する**】ボタンが表示されます。

Web Presence Builder 用に構成する必要があるのはトライアルモードのみです（トライアルモードを使用する場合に限る）。トライアルモードの構成方法は、「顧客開拓シナリオを構成する（128ページ）」のセクションを参照してください。

顧客開拓シナリオを構成する

ここでは、Web Presence Builder のトライアルサイトを使用してホスティング顧客を集客するためのシナリオをセットアップする方法について説明します。

このシナリオでは、貴社のサイトを訪問した見込み客および既存の顧客が、必要な機能をすべて含むウェブサイトを Web Presence Builder アプリケーションで作成できます。ただし、作成したウェブサイトを公開するためには、見込み客の場合はホスティングサービスの契約が、既存の顧客の場合は他のホスティングプランへのアップグレードまたはプランアドオンの注文が必要となります。

このシナリオは、Customer and Business Manager コンポーネント付きで Parallels Plesk Panel をインストールした場合に限り有効です。

このシナリオの利用方法について詳しくは、『How to Set Up Customer Acquisition Scenario』（<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/documentation/>）を参照してください。

➤ Parallels Plesk Panel トライアルモードを有効にするには：

1. [ツールと設定] > [顧客開拓シナリオの設定] に進みます。
2. [トライアルウェブサイト有効期間] を指定します。顧客が購入していないトライアルウェブサイトがサーバから削除されるまでの期間を示します。
3. Web Presence Builderでホスティングの宣伝をして新しい顧客を呼びこみ、Web Presence Builderのデモを見せるには、[トライアルモードへのパブリックアクセスを有効にする] チェックボックスをオンにします。下に、[トライアルモードアクセス用URL] が表示されます。このリンクをクリックすると、Web Presence Builderがトライアルモードで開きます。このリンクを貴社のウェブサイトに公開し、Web Presence Builderでホスティングの宣伝をして、顧客を呼びこむことができます。
4. トライアルモードのWeb Presence Builderに関して追加の通知を表示したい場合は、[Web Presence Builderエディタでトライアルモード通知を表示する] チェックボックスをオンにします。Web Presence Builderエディタのトライアルモード通知はカスタマイズ可能です。
5. [OK] をクリックします。

Web Presence Builder トライアルモードの通知をカスタマイズする

トライアルモードの Web Presence Builder で顧客に表示される通知はカスタマイズ可能です（例えば、貴社のオンラインストアへのリンクを追加する）。デフォルトで、トライアルモードの Web Presence Builder は、使用しているロケールの `tbbMessagesDefault.lng` ファイルにあるメッセージを使用します。

➤ トライアルモードの Web Presence Builder で顧客に表示される通知をカスタマイズするには：

1. Linux OS の `/usr/local/sb/resources/locale/<locale_name>` ディレクトリまたは Windows OS の `C:\Parallels\Plesk\sbs\resources\locale\<locale_name>` ディレクトリに進みます。

`<locale_name>` とは、通知に変更を加えたいロケールの名前を指します。例えば、英語のロケール名はデフォルトで「`en_US`」です。

2. `tbbMessagesDefault.lng` をコピーし、`tbbMessagesCustom.lng` に名称変更します。

`tbbMessagesCustom.lng` ファイルがあると、Web Presence Builder は `tbbMessagesDefault.lng` の代わりにこのファイルを使用します。

3. `tbbMessagesCustom.lng` ファイルでメッセージを編集します。

次の表に、編集可能なメッセージがリストされています。

ロケールでのメッセージキーワード	メッセージの説明
<code>startUpsellLimitExceedingTitle</code>	Web Presence Builder で公開可能なウェブサイト数の上限に達した顧客に対し、Web Presence Builder のスタートページで表示されるダイアログウィンドウのタイトル。
<code>startUpsellLimitExceedingBody</code>	Web Presence Builder で公開可能なウェブサイト数の上限に達した顧客に対し、Web Presence Builder のスタートページで表示されるダイアログウィンドウの本文。
<code>startUpsellNoSitesTitle</code>	契約に Web Presence Builder が含まれない顧客に対し、Web Presence Builder のスタートページで表示されるダイアログウィンドウのタイトル。
<code>startUpsellNoSitesBody</code>	契約に Web Presence Builder が含まれない顧客に対し、Web Presence Builder のスタートページで表示されるダイアログウィンドウの本文。

editorTopMessageTrialSite	トライアルサイトを作成した新規顧客に対し、Web Presence Builder Editor のトップに表示される「Call to action」バーのメッセージ。
editorTopMessageUpsellLimit Exceeding	Web Presence Builder で公開するウェブサイト数の上限に達した顧客に対し、Web Presence Builder Editor のトップでトライアルサイトに対して表示される「Call to action」バーのメッセージ。
editorTopMessageUpsellNoSites	契約に Web Presence Builder が含まれない顧客に対し、Web Presence Builder Editor のトップでトライアルサイトに対して表示される「Call to action」バーのメッセージ。
defaultPersonalName	既存の顧客に対し、Web Presence Builder スタートページに表示される顧客のデフォルト名。
initialMailSubject	新規顧客に送信されるウェブサイト作成確認メールの件名。
initialMailHtml	新規顧客に送信されるウェブサイト作成確認メールの本文。
limitsExceededTitle	Web Presence Builder で公開するウェブサイト数の上限に達した顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時に表示されるダイアログウィンドウのタイトル。
limitsExceededMsg	Web Presence Builder で公開するウェブサイト数の上限に達した顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時に表示されるダイアログウィンドウの本文。
firstSitePublishTitle	契約に Web Presence Builder が含まれない顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時に表示されるダイアログウィンドウのタイトル。
firstSitePublishMsg	契約に Web Presence Builder が含まれない顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時に表示されるダイアログウィンドウの本文。
licenseExceededMsg	Plesk ライセンスで許可される Web Presence Builder ウェブサイト数の上限に達した顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時にステータスバーに表示されるエラーメッセージ。
trialSiteSignUpPublishTitle	トライアルサイトを作成した新規顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時に表示されるダイアログウィンドウのタイトル。
trialSiteSignUpPublishMsg	トライアルサイトを作成した新規顧客に対し、[公開する] ボタンのクリック時に表示されるダイアログウィンドウの本文。
trialFeatureDisabled	新規顧客がトライアルサイトの設定時にオーナーシップを検証しようとしたときにステータスバーに表示されるエラーメッセージ。

Web Presence Builder トライアルモードの通知では、次のプレースホルダを使用できます。

- ppServerId - Parallels Plesk Panel サーバの一意の ID
- billingSignUpEntryPoint - 新規顧客に対する Business Manager のエントリポイント
- billingUpSellEntryPoint - 既存の顧客に対する Business Manager のエントリポイント
- subscriptionId - ユーザ契約の一意の ID
- sbSiteUuid - Web Presence Builder でのウェブサイトの一意の ID
- sbOneTimeBackUrl - 一度だけ使用できる Web Presence Builder リンク
- locale - ロケール名
- trialSiteLifeTime - 顧客が購入していないウェブサイトがサーバから削除されるまでの期間
- trialSiteExpireDate - トライアルウェブサイトの有効期限
- trialSiteUrl - トライアルウェブサイトへのリンク
- siteOwnerName - ウェブサイト所有者のユーザ名
- siteOwnerCompanyName - ユーザの会社名
- siteOwnerEmail - ユーザのメールアドレス
- siteOwnerPhone - ユーザの電話番号
- siteOwnerAddress - ユーザの住所
- siteOwnerCity - ユーザの市区町村
- siteOwnerCountry - ユーザの国
- queryString - トライアルモードアクセス URL に渡される追加のクエリ文字列
- helpUrl - Web Presence Builder マニュアルへのリンク
- sbHttpHost - Web Presence Builder ホストへの HTTP リンク。

メッセージでプレースホルダを使用する際は、次のプレースホルダマーカを使用してください。

- &placeholder_name& - ハイパーリンク内にプレースホルダを使用する場合
- @placeholder_name@ - JavaScript コードでプレースホルダを使用する場合
- %placeholder_name% - 平文でプレースホルダを使用する場合

Web Presence Builder 初心者用デモをカスタマイズする

カスタムの初心者用デモを顧客に表示するように Web Presence Builder を設定することができます。デフォルトでは、Web Presence Builder の初心者用デモは英語のみで表示されます。

➤ カスタムの初心者用デモを顧客に表示するように Web Presence Builder を設定するには：

1. サーバで構成ファイル (sb_demo_config.ini など) を作成し、次の内容を記述します。

```
[general]
enabled = on

[locales]
en_US = "<getting_started_URL>"
de_DE = "<getting_started_URL>"
en_GB = "<getting_started_URL>"
es_ES = "<getting_started_URL>"
fr_FR = "<getting_started_URL>"
it_IT = "<getting_started_URL>"
ja_JP = "<getting_started_URL>"
nl_NL = "<getting_started_URL>"
ru_RU = "<getting_started_URL>"
zh_CN = "<getting_started_URL>"
zh_TW = "<getting_started_URL>"
```

ここで、[general] セクションの enabled パラメータは Web Presence Builder での初心者用デモの表示を有効にします。[locales] セクションには、各 Web Presence Builder ロケールの初心者用デモへのリンクを指定します。Web Presence Builder の各ロケール用にカスタマイズした初心者用デモへのリンクが指定されていない場合、デフォルトの en_US バージョンが使用されます。Web Presence Builder の en_US バージョン用にカスタマイズした初心者用デモへのリンクが指定されていない場合、初心者用デモは表示されません。

2. Linux OS の場合は /usr/local/sb/config ファイルを、Windows OS の場合は C:\Parallels\Plesk\sbsdemo\config ファイルを、編集用を開きます。
3. [help] セクションがない場合、ファイルの最後にこのセクションを追加し、[help] セクションに次の行を追加してください。

```
[help]
getting_started_demo_config_url =
"http://<myserver.com>/sb_demo_config.ini"
```

ここで <myserver.com> は貴社の構成ファイルがサーバ上にある場所です。

4. Web Presence Builderデータベースで、config_paramテーブルから getting_started_demo_config_refresh_time行を削除します。これを行うには、Parallels Plesk Panelで [ホーム] > [サーバツール] > [ローカルMySQLサーバ] の順に進み、Web Presence Builderデータベースを選択して、次のリクエストを発行します。

```
DELETE FROM config_param WHERE name =  
'getting_started_demo_config_refresh_time';
```

これで、顧客が次に Web Presence Builder にアクセスすると、初心者用デモが表示されるようになります。

Parallels Plesk Panel のデータベースホスティング設定

ホストユーザのデータベースを1台のサーバにも、あるいは多数の異なるサーバにもホスティングすることができます。リモートサーバにユーザデータベースがあるとマルチサーバのインストールに便利です。管理、バックアップ、リソース利用には集中型データベースホスティングが適しているためです。しかし、単一 Parallels Plesk Panel サーバをご使用の場合は、すべてのデータベースをそこに保存しておくことをお勧め致します。

➤ **ホスティングサーバでリモートデータベースサーバを使用するには以下が必要です。**

1. リモートデータベースサーバのセットアップ。
 - a. MySQL、PostgreSQL、またはMicrosoft SQLソフトウェアのインストール。
 - b. データベース管理者アカウントのセットアップ。
 - c. データベースサーバへのネットワークアクセスの有効化。
2. リモートデータベースで作業するようParallels Plesk Panelの設定。

データベースサーバを追加する

必要なりモートデータベースサーバをセットアップしたら、このデータベースサーバを Panel に登録する必要があります。

➤ *Panel にデータベースを登録するには :*

1. Parallels Plesk Panel にログインします。
2. [ツールと設定] > [データベースサーバ] に進み、[データベースサーバ追加] をクリックします。
3. データベースサーバのプロパティを指定します。
 - [データベースサーバタイプ] メニューでデータベースサーバエンジンを指定します。
 - データベースサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
 - データベースサーバで使用しているポート番号を指定します。このオプションは MySQL に限り有効です。デフォルトでは MySQL サーバはポート 3306 をリッスンします。MySQL データベースサーバがデフォルトポートをリッスンしている場合、[ポート番号] は空白のままでも構いません。

注： MySQL サーバのポートに 8306 を指定しないでください。これは Parallels Plesk Panel が内部データベースとの通信に使用するポートです。

 - データベースサーバで動作しているデータベースタイプを指定します。
 - このデータベースサーバをホスティング顧客のデータベースのデフォルトにするには、[このサーバを MySQL のデフォルトにする] チェックボックスをオンにします。MS SQL データベースサーバを使用する場合は、[このサーバを MS SQL のデフォルトにする] チェックボックスをオンにします。
 - データベースサーバ管理者のログイン名およびパスワードを指定します。
4. [OK] をクリックします。

➤ *Parallels Plesk Panel で作成したすべてのデータベースに影響を与えるデータベースホスティングプリファレンスをセットアップするには :*

1. [ツールと設定] > [データベースホスティングプリファレンス]（[データベース] グループ内）に進みます。
2. 顧客のデータベースを保守しやすくするには、[データベース名の先頭に、ユーザ名とアンダーライン(_)を付加する] チェックボックスをオンにします。新たに作成されるすべてのデータベース名は「username_database name」のようになります。これにより、特定の Parallels Plesk Panel ユーザに関連するデータベースを簡単に識別できます。新規データベースの作成時にこのチェックボックスをオンにしなくても、Parallels Plesk Panel がデータベース名入力ボックスにユーザ名を追加するため、これを編集するか、削除することができます。

3. また、該当するデータベースユーザ名にユーザ名を追加するようにPanelをセットアップすると、顧客のデータベースの保守がさらに簡単になります。これを行うには、**[データベースユーザ名の先頭に、ユーザ名とアンダーライン()を付加する]** チェックボックスをオンにします。新たに作成されるすべてのデータベースユーザ名は「username_database user name」のようになります。これにより、特定のParallels Plesk Panelユーザに関連するデータベースユーザを簡単に識別できます。
4. Parallels Plesk Panelサーバでデータベースの作成を許可するかどうかを指定してください。一部のアプリケーションはリモートデータベースをサポートしないため、同じサーバ上でホスティングされているデータベースに限って処理できます。デフォルトのオプション **[これらのウェブアプリケーションに対してデータベースのローカルホスティングを有効にする]** をオンのままにすることを推奨します。変更すると、これらのアプリケーションを使用できなくなります。
5. **[OK]** をクリックします。


以前にセットアップしたリモート MS SQL データベースサーバでホスティングされているデータベースのバックアップを作成するには、この MS SQL データベースサーバのバックアップ設定を構成する必要があります。

➤ **リモート MS SQL データベースサーバのバックアップ設定を行うには：**

1. **[ツールと設定] > [データベースサーバ]** に進み、リモートMS SQLデータベースサーバ名をクリックします。
2. **[テンポラリネットワークディレクトリ]** フィールドに、リモートMS SQLデータベースサーバのテンポラリディレクトリを指定します。
このディレクトリはネットワーク内のどこにも良く、MS SQL データベースのバックアップおよび復元に必要です。このディレクトリは、ネットワーク経由で Parallels Plesk Panel サーバと MS SQL サーバの両方からアクセス可能である必要があります。リモート MS SQL データベースサーバを稼働している Panel とユーザの両方に、このディレクトリへの読み取り/書き込み権限が必要です。
3. テンポラリネットワークディレクトリへのアクセスに必要なユーザ名およびパスワードを入力します。
4. **[OK]** をクリックします。

データベースサーバ

➤ データベースサーバを管理するには：

1. [ツールと設定] > [データベースサーバ] に進みます。
2. 必要なデータベースサーバに対応する  アイコンをクリックします。データベース管理ツールのウェブインターフェースが別のブラウザウィンドウで開きます。

➤ データベースサーバ管理者パスワードを変更するには：

1. [ツールと設定] > [データベースサーバ] に進みます。
2. データベースサーバのホスト名をクリックします。
3. [パスワードの変更] をクリックします。
4. 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

➤ Panel からデータベースサーバの登録を解除するには：

1. [ツールと設定] > [データベースサーバ] に進みます。
2. データベースサーバのホスト名の右側のチェックボックスをオンにします。
3. [削除] をクリックします。
4. 操作を確認して [OK] をクリックします。

➤ データベースがあるか、ホスティング顧客のデータベースのデフォルトとして割り当てられているデータベースサーバをPanelから登録解除するには：

1. データベースサーバからデータベースを削除します。
 - a. [ツールと設定] > [データベースサーバ] に進みます。
 - b. Panelから登録解除するデータベースサーバのホスト名をクリックします。
 - c. リストの左上隅のチェックボックスをオンにして、すべてのデータベースを選択します。
 - d. [削除] をクリックします。
 - e. 削除を確認して [OK] をクリックします。
2. 他のデータベースサーバデフォルトを作成します。

- a. 画面上部のパスバーで [データベースサーバ] ショートカットをクリックします。
 - b. デフォルトを作成したいデータベースサーバのホスト名をクリックします。削除しようとしているデータベースサーバタイプ（MySQLまたはMS SQL）と同じになります。
 - c. [プリファレンス] をクリックし、[このサーバをMySQLのデフォルトにする] チェックボックスをオンにします。MS SQLデータベースサーバを使用している場合、[このサーバをMS SQLのデフォルトにする] チェックボックスをオンにします。
 - d. [OK] をクリックします。
3. データベースサーバのリストに戻ります（ [ツールと設定] > [データベースサーバ] ）。
 4. 不要になったデータベースサーバのチェックボックスをオンにします。
 5. [削除] をクリックします。
 6. 操作を確認して [OK] をクリックします。

重要： この方法ではウェブアプリケーションのデータベースを削除できません。削除するためには、まず、このデータベースを使用しているドメインから、各ウェブアプリケーションを削除する必要があります。

データベースの管理について詳しくは、『コントロールパネルユーザガイド』の「データベースをデプロイする」セクションを参照してください。

外部データベース管理システムへの接続を構成する（Windows ホスティング）

貴社のユーザが外部データベース管理システムからデータにアクセスできるようにするには、ODBC（Open Database Connectivity）ドライバを使用する必要があります。例えば、Microsoft Access ODBC ドライバをインストールして外部 Microsoft Access データベースへの接続を作成し、ウェブアプリケーションがこのデータベースにデータを保存できるようにできます。

外部データベースへの新規接続の作成（Windows ホスティング）

クライアントの Web アプリケーションがデータの格納に外部データベースを使用できるようにするには、適切な ODBC ドライバをインストールして外部データベースへの接続を作成する必要があります。

➤ **新規 ODBC ドライバをインストールして外部データベースへの接続を作成するには以下を実行してください。**

1. [ホーム] > [サーバ] グループタイトルメニュー > [ODBC データソース] に進みます。
2. [新しい ODBC DSN の追加] をクリックします。
3. ODBC 接続名およびその説明を該当するフィールドに指定します。
4. [ドライバ] フィールドに必要なドライバを指定します。
5. [OK] をクリックします。
6. ドライバ設定画面で適切なオプションを選択します。通常、データベースへのパスと、ユーザ認証と、選択したドライバによって他の接続オプションを指定します。
7. [テスト] をクリックしてその設定で接続できるかどうかを確認します。[終了] をクリックして作成を完了します。

既存の ODBC 接続設定を変更する (Windows)

➤ **既存の ODBC 接続設定を変更するには :**

1. [ツールと設定] > [ODBC データソース] に進みます。
2. リストから、必要な接続名をクリックします。
3. 必要に応じて設定を変更します。
4. [テスト] をクリックして新規設定で接続できるかどうかを確認します。[完了] をクリックして変更を保存します。

外部データベースへの接続を削除する (Windows)

➤ **不要な ODBC 接続を削除するには :**

1. [ツールと設定] > [ODBC データソース] に進みます。
2. 削除する接続のチェックボックスをオンにします。
3. [削除する] をクリックして削除を確認し、[OK] をクリックします。

Adobe ColdFusion のサポートを有効にする（Linux ホスティング）

サーバの ColdFusion スクリプトをサポートするには、Adobe からディストリビューション パッケージを取得してサーバにインストールする必要があります。Parallels Plesk Panel は Adobe ColdFusion バージョン 6、7、8 をサポートします。

➤ **サーバに Adobe ColdFusion をインストールしたら、以下を実行してください。**

1. Parallels Plesk Panel に管理者としてログインします。
2. [ツールとユーティリティ] > [アップデート] に進みます。
3. 適切なリリースバージョンに対応するリンクをクリックします。
4. Parallels Plesk Panel での ColdFusion サポートに対応するチェックボックスを選択して [インストール] をクリックします。実行されたらインストールを確認します。
5. 選択したコンポーネントをインストールした後で、[設定] > [ColdFusion 設定]（[アプリケーション] グループ内）に進みます。
6. ColdFusion インストールディレクトリへのパス を指定して [OK] をクリックします。

Google ウェブサイト サービスとの統合を有効化する

Parallels Plesk Panel には、Google ウェブサイト サービスとの統合を簡単にセットアップする機能が搭載されています。

Google ウェブサイト サービスプログラムを導入すると、ホスティングプロバイダとその顧客に対して次のような利点があります。

- プロバイダは、顧客が Google AdSense プログラムに登録するか Google Site Search サービス（有料）の契約をすると、紹介料を得ることができます。
- サイト所有者は、Google ツールを使用してサイトの見た目を向上したり、高品質な検索機能やウィジェットを追加して訪問者のサイト滞在時間を伸ばしたり、広告によるウェブサイトへのトラフィックで収入を得ることができます。

このプログラムの詳細については、

<http://www.google.com/webmasters/provider/overview.html> および
<http://www.google.com/webmasters/provider/faq.html> を参照してください。

➤ *Parallels Plesk Panel* で管理するサーバと Google ウェブサイト サービスを統合するには：

1. http://services.google.com/feedback/webmaster_provider_signup で、Google Apps アカウント（Premier Edition）、Google AdSense アカウント、Google Affiliate Network アカウントにサインアップします。

Parallels Plesk Panel で管理するすべてのホスティングサーバに対し、Google AdSense アカウントと Google Affiliate Network アカウントと結び付く個別の Google Apps アカウントが必要です。

Google 側の処理が終了して貴社がプログラムに参加可能になると、メールでアクセス資格情報が送信されます。

2. 無料の OpenSSL ユーティリティを使用して、RSA 秘密鍵とデジタル自己署名証明書を生成します。このユーティリティは、Linux ディストリビューションに含まれているか、<http://www.openssl.org/related/binaries.html> からダウンロードします。あるいは、Windows ベースのコンピュータにインストールされています。

- a. コマンド `openssl genrsa -out rsaprivatekey.pem 1024` を実行します。

このコマンドで、1024 ビットの秘密鍵が生成され、rsaprivatekey.pem ファイルに格納されます。生成された秘密鍵は機密性を保持してください。

- b. コマンド `openssl req -new -x509 -key rsaprivatekey.pem -out rsacert.pem` を実行します。
 - いくつかの質問に答えると、証明書が作成され、rsacert.pem として保存されます。このファイルは、SSO の構成時に Google Apps のコントロールパネルを使用して Google Apps にアップロードする必要があります。
3. Google Apps コントロールパネル ([http://www.google.com/a/<貴社のGoogle Appsドメイン>](http://www.google.com/a/<貴社のGoogleAppsドメイン>)) に管理者としてログインします。
4. [Advanced Tools] を選択して、[Set up single sign-on (SSO)] を選択します。
5. 以下を実行してください。
 - a. [Enable Single Sign-on] チェックボックスをオンにします。
 - b. [Sign-in page URL] フィールドに、URL「<https://<your-panel-server>:8443/plesk/gapps-identity-provider/>」を入力します。
 - c. [Sign-out page URL] フィールドに、URLとして <https://<your-panel-server>:8443/> を入力します。
 - d. [Change password URL] フィールドに、URLとして <https://<your-panel-server>:8443/> を入力します。
 - e. [Verification certificate] フィールドに、証明書をアップロードします。
 - f. [Save changes] をクリックします。
6. Parallels Plesk Panel に管理者としてログインします。
7. ナビゲーションペインで [設定] リンクをクリックしてから、[Google ウェブサイト サービスの設定] をクリックします。
8. 以下の設定を指定します。
 - Google Apps ドメイン名。
 - Google Apps ドメイン管理者のユーザ名。
 - Google Apps ドメイン管理者のパスワード。
 - Google Affiliate Network ID。
 - 秘密鍵のファイル。ホスティングサーバ以外のコンピュータで秘密鍵を作成した場合、このフィールドを使用して鍵ファイルをサーバにアップロードしてください。
 - Google AdSense API デベロッパ アカウントのメールアドレス。
 - Google AdSense API デベロッパ アカウントのパスワード。
9. [OK] をクリックします。

これで、Parallels Plesk Panel が Google Apps ドメインアカウントと結び付けられました。Panel でユーザアカウントを作成し、Google Apps ユーザアカウントと関連付けることができます。手順については、次のセクションで説明します。

自社ウェブサイト用に Google サービスを使用する方法について詳しくは、コントロールパネルのユーザガイドで、「Google ウェブサイト サービスの使用方法」セクションを確認してください。

Panel ユーザに Google ウェブサイト サービスへのアクセス権限を付与する

Parallels Plesk Panel で新しいユーザアカウントを作成した後で、このアカウントを Google Apps ユーザアカウントと関連付ける必要があります。

➤ *Google Apps ユーザアカウントを作成し、Parallels Plesk Panel のユーザアカウントと関連付けるには：*

- Parallels Plesk Panel 管理者アカウントの場合、`admin` コマンドラインユーティリティを、オプション `--create-gapps-account` を指定して実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/admin`、Windows システムでは `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\admin.exe` です。
- Parallels Plesk Panel リセラーアカウントの場合、`reseller` コマンドラインユーティリティを、オプション `--create-gapps-account <Panel でのリセラーのユーザ名>` を指定して実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/reseller`、Windows システムでは `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\reseller.exe` です。
- Parallels Plesk Panel 顧客アカウントの場合、`client` ユーティリティを、オプション `--create-gapps-account <Panel での顧客のユーザ名>` を指定して実行します。
このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/client`、Windows システムでは `C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\client.exe` です。

これで、新たに作成された Google Apps ユーザアカウントと Panel ユーザアカウントが関連付けられ、ユーザのコントロールパネルに次のアイテムが表示されるようになりました。

- [ホーム] ページと [ウェブサイトおよびドメイン] タブに [Google ウェブサイト サービス] リンクが表示されます。
- 上記のリンクから Google ウェブサイト サービスのページにアクセスできます。
このページで、ウェブサイトにカスタム検索エンジンを追加したり、新しい Google AdSense アカウントを作成したり、Google ウェブサイトのウェブマスタツールや役に立つリソースへのリンクを提供することができます。Parallels Plesk Panel のユーザがこれらのリンクをクリックすると、このユーザの Google アカウントに自動的にログインします。

➤ *Parallels Plesk Panel のユーザアカウントを既存の Google Apps ユーザアカウントと関連付けるには：*

- Parallels Plesk Panel 管理者アカウントの場合、admin コマンドラインユーティリティを、オプション `--link-gapps-account -gapps-login <Google Apps アカウントのユーザ名> -gapps-passwd <Google Apps アカウントのパスワード>` を指定して実行します。

このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/admin`、Windows システムでは

`C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\admin.exe` です。

- Parallels Plesk Panel リセラーアカウントの場合、reseller コマンドラインユーティリティを、オプション `--link-gapps-account <reseller's-username-in-the-panel> -gapps-login <Google Apps アカウントのユーザ名> -gapps-passwd <Google Apps アカウントのパスワード>` を指定して実行します。

このユーティリティへのパスは、Linux システムでは

`/usr/local/psa/bin/reseller`、Windows システムでは

`C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\reseller.exe` です。

- Parallels Plesk Panel 顧客アカウントの場合、client ユーティリティを、オプション `--link-gapps-account <Panel での顧客のユーザ名> -gapps-login <Google Apps アカウントのユーザ名> -gapps-passwd <Google Apps アカウントのパスワード>` を指定して実行します。

このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/client`、Windows システムでは

`C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\client.exe` です。

Panel からユーザアカウントを削除する必要がある場合、このユーザと関連付けられている Google Apps アカウントを削除してから、Panel でユーザアカウントを削除します。

➤ ユーザに関連付けられた Google Apps アカウントを削除するには：

- Parallels Plesk Panel 管理者アカウントの場合、admin コマンドラインユーティリティを、オプション `--remove-gapps-account` を指定して実行します。

このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/admin`、Windows システムでは

`C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\admin.exe` です。

- Parallels Plesk Panel リセラーアカウントの場合、reseller コマンドラインユーティリティを、オプション `--remove-gapps-account <Panel でのリセラーのユーザ名>` を指定して実行します。

このユーティリティへのパスは、Linux システムでは

`/usr/local/psa/bin/reseller`、Windows システムでは

`C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\reseller.exe` です。

- Parallels Plesk Panel 顧客アカウントの場合、client ユーティリティを、オプション `--remove-gapps-account <Panel での顧客のユーザ名>` を指定して実行します。

このユーティリティへのパスは、Linux システムでは `/usr/local/psa/bin/client`、Windows システムでは

`C:\Program Files\Parallels\Plesk\bin\client.exe` です。

モバイルサイト用の UNITY Mobile サービス

Parallels Plesk Panel では、UNITY Mobile オンラインサービスとの統合が可能です（※英語環境でのご利用を前提とした製品となります。ご注意ください）。これによりウェブサイト所有者は、モバイルデバイスでの閲覧用に最適化されたサイトコピーを作成および管理することができます。

UNITY Mobile は、最適化されたサイトコピーを自社サーバ上でホスティングしています。UNITY Mobile サービスの登録料金や使用料金は、Parallels のオンラインストアで購入できる Parallels Plesk Panel の追加ライセンスキーでカバーされます。

どのように機能するのか：

1. ユーザが、ドメイン名「example.com」というウェブサイトを作成し、コントロールパネルで **「モバイルサイトを作成する」** リンクをクリックします。
2. モバイルサイトコピーへのアクセス用のドメイン名を指定するプロンプトが表示されます。ユーザは「mobile.example.com」を指定します。
3. Panel が UNITY Mobile ホスティングサーバに接続し、UNITY Mobile でドメイン名「mobile.example.com」のアカウントをセットアップします。
4. ユーザのブラウザで UNITY Mobile のウェブサイトが開きます（ユーザは自分のアカウントに自動ログインしています）。Panel の管理するサーバからウェブサイトをインポートするプロンプトが表示されます。
5. サイトがインポートされ、モバイルでの閲覧用に最適化されると、「mobile.example.com」アドレスでアクセス可能になります。Panel の DNS サーバには、UNITY Mobile 上のサイトへの CNAME レコードが保持されます。

ユーザは、コントロールパネルのリンクを使用して、モバイルサイトに対して次の操作を実行できるようになりました。

- サイトエディタを開く。
- モバイルサイトを削除する。

➤ このサービスを顧客にプロビジョンするには：

1. Parallelsオンラインストア（<https://shop.marketplace.parallels.com>）で追加のライセンスキーを購入し、ParallelsPlesk Panelにインストールします。
 - a. サーバ管理パネルで、**「ツールとユーティリティ」 > 「ライセンス管理」 > 「追加ライセンスキー」** タブの順に選択します。
 - b. **「キーのアップロード」** をクリックします。
 - c. ファイルを選択し、**「OK」** をクリックします。

2. リセラープランまたはホスティングプランをセットアップしている場合は『ページ 51』、[リセラー] タブを開き、UNITY Mobileサービスで作成およびホスティング可能なサイトの数を[モバイルサイト] ボックスに指定します。

UNITY Mobile サービスについて詳しくは、UNITY Mobile のウェブサイト (<http://www.unitymobile.com>) をご覧ください。

コントロールパネルでモバイルサイトを管理する方法は、コントロールパネルのユーザガイドで「Setting Up Mobile Sites (モバイルサイトをセットアップする)」を参照してください。

Miva e-コマースアプリケーションのサポートを有効化する (Linux ホスティング)

顧客が Miva e-コマースソリューションを使用できるようにするには、Parallels Plesk Panel デистриビューションに含まれている Miva Empresa パッケージをサーバにインストールし (Parallels Plesk Panel インストール時にインストールしていない場合)、ホスティングアカウントで Miva アプリケーションのサポートを有効にする必要があります。

Miva Fasttrack および Miva Merchant オンラインストアアプリケーションは、標準ウェブアプリケーションとして Parallels Plesk Panel に搭載されており、貴社または顧客がコントロールパネルからインストールできます。

Miva ソリューションの詳細は http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm を参照してください。

➤ Miva Empresa パッケージをインストールするには :

1. [ツールとユーティリティ] > [アップデート] に進みます。
2. 使用している Parallels Plesk Panel バージョンのリンクをクリックします (たとえば、ParallelsPanel 10.0)。
3. [Miva Empresa サポート] の項目の左側にあるチェックボックスをオンにします。
4. [インストール] をクリックします。これで Miva Empresa サーバ環境がインストールされました。

Miva e-コマースアプリケーションのサポートを有効化する（Windows ホスティング）

顧客が Miva e-コマースソリューションを使用できるようにするには、Miva Empresa パッケージをサーバにインストールし、ホスティングアカウントで Miva アプリケーションのサポートを有効にする必要があります。ただし顧客が Miva をインストールするためには、Miva からライセンスを取得し、Miva アプリケーションのインストール時にシリアル番号を指定する必要があります。

➤ **サーバに Miva e-コマースアプリケーションのサポートをインストールするには：**

1. Miva ウェブサイトから Miva Empresa パッケージをダウンロードし、サーバにインストールします。インストール手順はこちらで確認してください（英語のみ）。
http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm
2. Parallels Plesk Panel リコンフィグレータを実行し、[ディスク権限の修正] タスクを実行します。

ホスティングプランで Miva サポートをオンにすると、顧客が必要な Miva アプリケーションをインストールして使用できるようになります。Miva アプリケーションのインストール手順はこちらで確認してください（英語のみ）。

http://docs.smallbusiness.miva.com/en-US/merchant/WebHost/webhelp/web_host_resources.htm

Miva ソリューションの詳細については <http://smallbusiness.miva.com/> を参照してください。




ASP.NET を構成する（Windows）

ASP.NET は柔軟なツールセットであり、ASP.NET フレームワークに基づいて多数のアプリケーションの採用を可能にするウェブ開発テクノロジーです。Parallels Plesk Panel は、.NET フレームワークのバージョン 1.1.x と 2.0.x の両方をサポートしており、これらバージョンの大部分の設定を構成することができます。ASP.NET アプリケーションに必要な機能を持たせるために ASP.NET の構成をカスタマイズする必要がある場合、そのほとんどは Parallels Plesk Panel 経由で編集可能です。


➤ **サーバ全体の ASP.NET 設定を構成するには：**

1. [ツールと設定] > [ASP.NET設定]（[アプリケーション] グループ内）に進みます。ASP.NET 1.1.xとASP.NET 2.0.xの設定は、対応するタブに配置されています。
2. データベースを使用するASP.NETアプリケーションのデータベース接続データを決定する文字列をセットアップします。このオプションはASP.NET 2.0.xでのみ有効です。

初めて ASP.NET の構成ページを開くと、共通構成を持つ接続パラメータのサンプルが表示されます。サンプルを削除し、独自の文字列に変更することができます。

 - 文字列を追加するには、[名前] および [接続パラメータ] 入力フィールドに必要なデータを入力し、横にある  をクリックします。
 - 文字列を削除するには、横にある  をクリックします。
3. [カスタムエラー設定] フィールドで、ASP.NETアプリケーションが返すカスタムエラーメッセージをセットアップします。
 - カスタムエラーメッセージモードを設定するには [カスタムエラーモード] メニューで適切なオプションを選択します。
 - オン：カスタムエラーメッセージが有効になります。
 - オフ：カスタムエラーメッセージが無効になり、エラーの詳細が表示されます。
 - リモートのみ：カスタムエラーメッセージはリモートクライアントにのみ表示され、ASP.NET エラーはローカルホストに表示されます。
 - 新規カスタムエラーメッセージ（※ [オフ] モードを選択していなければ適用されます）を追加するには、[ステータスコード] および [リダイレクト URL] フィールドに値を入力して  をクリックします。
 - ステータスコード：エラーページにリダイレクトされる HTTP ステータスコードを定義します。
 - リダイレクト URL：エラーに関する情報をクライアントに提供するエラーページのアドレスを定義します。

競合を避けるため、既存のエラーコードで新規カスタムエラーメッセージを追加することはできませんが、既存のコードに対して URL を再定義することはできます。

 - リストからカスタムエラーメッセージを削除するには、横にある  をクリックします。
4. [コンパイルおよびデバッグ] フィールドで、コンパイル設定を構成します。
 - 動的編集ファイルのデフォルト言語として使用するプログラミング言語を決定するには、[ページデフォルト言語] リストからエントリを選択します。
 - リテールバイナリの編集を有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをオフのままにします。
 - デバッグバイナリの編集を有効にするには、[デバッグの有効化] チェックボックスをオンにします。この場合、ソースコードの一部にエラーがあると、診断ページメッセージに表示されます。

注：アプリケーションをデバッグモードで実行すると、メモリやパフォーマンスのオーバーヘッドが発生します。デバッグは、アプリケーションのテスト時に使用して、本稼働段階では無効にすることをお勧めします。

5. **「グローバル化セッション設定」** セクションで、ASP.NETアプリケーションのエンコーディング設定を構成します。

- すべての受信リクエストに適用するエンコーディングを設定するには、**「リクエストのエンコーディング」** フィールドにエンコーディングの値を入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
- すべてのレスポンスに適用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を**「レスポンスのエンコーディング」** フィールドに入力します（デフォルトは「utf-8」です）。
- .aspx、.asmx、.asax ファイルの解析にデフォルトで使用するエンコーディングを設定するには、エンコーディング値を**「ファイルのエンコーディング」** フィールドに入力します（デフォルトは「Windows-1252」です）。
- 受信するウェブリクエストに対してデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、**「カルチャー」** リストから適切なアイテムを選択します。
- ロケールに依存するリソースの検索時にデフォルトで使用するカルチャーを設定するには、**「UI カルチャー」** リストで適切なアイテムを選択します。

6. ASP.NETアプリケーションのCAS（コードアクセスセキュリティ）信用レベルを**「コードアクセスセキュリティ」** フィールドに設定します。

CAS 信用レベルとは、アプリケーションの実行を割り当てるセキュリティゾーンであり、アプリケーションがアクセスできるサーバリソースを定義します。

重要： アセンブリに割り当てられた信用レベルが低すぎると、アセンブリは正しく機能しません。パーミッションレベルの詳細については

http://msdn.microsoft.com/library/jp-jp/dnnetsec/html/THCMCh09.asp?frame=true#09618429_010 を参照してください。

7. クライアントセッションパラメータを**「セッション設定」** フィールドに設定します。

- アプリケーションのデフォルト認証モードをセットアップするには、**「認証モード」** リストで適切なアイテムを選択します。IIS 認証を使用している場合は、**Windows** 認証モードを選択してください。
- セッションが停止せずにアイドル状態でいられる時間をセットアップするには、適切な時間を分単位で**「セッションタイムアウト」** フィールドに入力します。

8. **「OK」** をクリックしてすべての変更を適用します。

注：Parallels Plesk Panel は .NET フレームワークの異なるバージョン（1.1.x および 2.0.x）の設定を別々にサポートしています。

IIS アプリケーションプールを構成する (Windows)

IIS アプリケーションプールは、サーバでホスティングされているウェブサイトとウェブアプリケーションにサービスを提供します。専用の IIS アプリケーションプールを使用することで、顧客はウェブサイト に一定レベルの独立性を持たせることができます。それぞれの専用 アプリケーションプールは独立して動作するため、あるユーザ専用のあるアプリケーションプールでエラーが発生しても、他のユーザ専用の他のアプリケーションプールで機能しているアプリケーションには影響を及ぼしません。

デフォルトで、Parallels Plesk Panel はすべてのユーザに対して共有のアプリケーションプールを提供しますが、専用アプリケーションプールのオプションがホスティングパッケージで提供されていれば、ユーザは専用アプリケーションプールを使用できます。

IIS アプリケーションプールは次の 2 種類のモードで機能します。

- 共有プール：デフォルトで、すべてのユーザとウェブサイトに対して 1 つのプールが使用されます。
- 専用プール：それぞれの顧客に個別のプールを提供します。また、顧客のプール内でパッケージ単位のプールを割り当てて、他の顧客のウェブサイトから特定のパッケージでホスティングされている実行中のウェブサイトを隔離することができます。

➤ IIS アプリケーションプールの動作モードを変更するには：

1. [ツールと設定] > [IISアプリケーションプール] に進みます。
2. [グローバル設定] タブを選択します。
3. 必要なモードを選択し [OK] をクリックします。

➤ IIS アプリケーションプールが使用できる CPU リソースの量を制限するには：

1. [ツールと設定] > [IISアプリケーションプール] に進みます。
2. [CPUモニタリングをスイッチオンする] チェックボックスをオンにして、[最大CPU使用率 (%)] フィールドにCPU使用率の最大値をパーセントで入力します。
3. [OK] をクリックします。

➤ サーバアプリケーションプールで動作するすべてのアプリケーションを停止するには：

1. [ツールと設定] > [IISアプリケーションプール] に進みます。

2. [停止] をクリックします。

➤ **アプリケーションプール内のアプリケーションをすべて起動するには :**

1. [ツールと設定] > [IISアプリケーションプール] に進みます。

2. [起動] をクリックします。

➤ **アプリケーションプールで稼働しているアプリケーションをすべて再起動するには :**

1. [ツールと設定] > [IISアプリケーションプール] に進みます。

2. [リサイクル] をクリックします。この機能は、アプリケーションにメモリリークがある場合や、長時間動作すると不安定になる場合などに便利です。

統計を構成する

Parallels Plesk Panel のインストール後、以下の目的で、統計ユーティリティをセットアップすることができます。

- 送受信トラフィックを計測する。
- ウェブコンテンツ、ログファイル、データベース、メールボックス、ウェブアプリケーション、メーリングリストアーカイブ、バックアップファイルに使用されているディスク容量を計測する。
- Webalizer または AWstats プログラムが収集したウェブ統計とトラフィック統計を、過去 3 ヶ月間分だけ保存する。

➤ **これらの設定を確認または調整するには：**

1. [ツールと設定] > [サーバ統計の設定]（[一般] グループ内）に進みます。
2. [システム設定] グループで、顧客の帯域幅使用率統計を保存する期間を指定します。
3. ディスク容量と帯域幅使用率の計算に加える項目を指定します。
4. [OK] をクリックします。

注：この画面では、統計関連の設定以外に、サーバのホスト名を変更するためのオプションや、ユーザが他のユーザの DNS ゾーン内に新しいサブドメインやドメインエイリアスを作成することを許可/禁止するオプション（[ユーザが他のユーザの DNS スーパーゾーン内に DNS サブゾーンを作成できないようにする] チェックボックス）があります。このチェックボックスはオンにすることを推奨します。オフにすると、あるユーザが他のユーザのドメイン内にサブドメインを作成し、ウェブサイトやメールアカウントを作成して、スパム、フィッシング詐欺、ID の盗用などを行えるようになるためです。


統計の表示について詳細は、「**統計の表示**（175ページ）」の章を参照してください。

メール通知を構成する

ディスク容量や帯域幅が有効範囲を超えると、管理者と顧客に通知がメール送信されます。コントロールパネルは、リソース超過以外に、次のような場合にも通知を送信できます。

- 新規ユーザアカウントが作成された場合
- 新規ドメインが追加された場合
- ホスティングアカウントの期限切れ（有効期限は、ユーザアカウントとウェブサイトに対して別々に定義されています）

➤ **通知システム設定を表示または変更するには：**

1. [ツールと設定] > [通知] （[ログと通知] グループ内）に進みます。
2. [通知] テーブルのチェックボックスを選択し、各イベントに関する通知を受け取るコントロールパネルユーザまたは外部メールユーザを指定します。
3. デフォルトの通知テキストを表示または編集するには、[テキスト] 列で  アイコンをクリックします。
通知にタグを使用できます。タグは、実際の値に置き換えられます（以下の表を参照してください）。
4. ユーザアカウントウェブサイトの期限切れ通知をいつ送信するかを指定します。デフォルトでは、通知は期限切れの10日前に送信されます。[OK] をクリックします。

通知メッセージで利用できるタグ

イベントのタイプ	通知に使用できるタグ	タグが意味するデータ
リセラーまたは顧客アカウントが作成された	<reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<reseller_login> <user_login>	Panel での認証用のユーザ名
	<password>	Panel での認証用のユーザパスワード
	<reseller_company_name> <user_company_name>	会社名
	<reseller_cr_date> <user_cr_date>	ユーザアカウントの作成日
	<reseller_phone> <user_phone>	電話番号
	<reseller_fax> <user_fax>	ファックス番号

	<reseller_country> <user_country>	国
	<reseller_state_province> <user_state_province>	州（都道府県）
	<reseller_city> <user_city>	市区町村
	<reseller_postal_ZIP_code> <user_postal_ZIP_code>	郵便番号
	<reseller_address> <user_address>	住所
	<reseller_id> <user_id>	システムに割り当てられた固有の ID
	<hostname>	Panel へのアクセス用のホスト名
サーバに新しい ウェブサイトが追 加された	<domain_name>	ドメイン名
	<reseller_login> <user_login>	Panel での認証用のユーザ名
	<reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<dom_id>	システムに割り当てられた固有の ID
	<ip>	ウェブサイトがホスティングされてい る IP アドレス
契約の期限切れ 通知	<domain_name>	契約名
	<reseller_login> <user_login>	Panel での認証用のユーザ名
	<reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名

	<dom_id>	システムに割り当てられた固有の ID
	<domain_expiration_date>	契約の有効期限
リソース利用超過の通知	<domain_name>	契約名
	<reseller_login> <user_login>	Panel での認証用のユーザ名
	<reseller_contact_name> <user_contact_name>	ユーザの姓および名
	<disk_usage>	ディスク使用量の情報
	<disk_space_limit>	アカウントに割り当てられるディスク容量に関する情報
	<resource_table>	制限値に達した（または達しそうな）すべてのリソースに関する情報
	<traffic>	帯域幅使用量に関する情報
	<traffic_limit>	アカウントに割り当てられている帯域幅に関する情報

注：旧バージョンから Parallels Plesk Panel にアップグレードすると、以前に使用していたすべてのカスタム通知テンプレートが継承されます。ユーザアカウント階層やリソース利用超過スキームが変更され、あらゆるタイプのリソースの利用超過が可能になりました。従って、利用超過リソースに関する情報をすべて通知テンプレートに表示する場合は、<disk_usage>、<disk_space_limit>、<traffic>、<traffic_limit> などの変数を使用する代わりに、<resource_table> という変数を 1 つ使用することを推奨します。

システム日時を調整する

インターフェースでサーバの日時を手動で設定し、サーバの時間を NTP（ネットワークタイムプロトコル）サーバと同期させることができます。

➤ システム日時の設定を調整するには：

1. [ツールと設定] > [システム時間]（[一般]グループ内）に進みます。
2. 時間と日付の設定を必要に応じて変更して、タイムゾーンを選択します。

タイムゾーンの変更を有効にするためには、Parallels Plesk Panel で管理しているサーバを再起動する必要があります。

Parallels Panel for Windows ユーザに対する注意： Parallels Plesk Panel が夏時間調整を自動的に行わないようにするには、[夏時間の切り替えを自動調整する] チェックボックスをオフにしてください。

3. サーバの時間をNTPサーバと同期させるには、[システム時間を同期する] チェックボックスをオンにして、有効なIPアドレスまたはドメイン名を指定します。利用可能なNTPサーバのリストは、<http://ntp.isc.org/bin/view/Servers/WebSearch?search=open+access&scope=text>を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

注：[システム時間を同期する] 機能を有効にすると、[システム日時] フィールドに手入力した日時がすべて上書きされます。また、同期用に入力するドメイン名や IP アドレスが有効な NTP サーバであることを確認してください。NTP サーバが正しくない場合、この機能は無効になり、サーバが現在の時間設定のまま稼働し続けます。

ウェブサーバのパイプログを有効化し、ウェブサービスの中断リスクを軽減する (Linux ホスティング)

サーバ上で 300 以上のウェブサイトホスティングする場合、Apache ウェブサーバでパイプログのサポートをオンにする必要があります。これを行うには：

1. サーバシェルにログインします。

2. 以下のコマンドを発行します。

```
mysql -uadmin -p`cat /etc/psa/.psa.shadow` -D psa -e "replace into misc (param,val) values ('apache_pipelog', 'true');"
```

3. コマンド `/usr/local/psa/admin/sbin/websrvnmng -a -v`を発行し、Apacheの構成を再構築します。

これにより、約 900 のウェブホストのホスティングが可能になります。900 ウェブサイト以上必要な場合は、オンラインナレッジベース <http://kb.parallels.com/en/260> (英語) の指示に従い、Apache などのシステムパッケージを再コンパイルする必要があります。

モジュールとアドオンを追加する (Linux)

Panel をアップグレードせずに、機能を拡張することができます。これを行うには、Parallels またはサードパーティが開発したアドオンモジュールとして提供されている追加機能コンポーネントをインストールします。

モジュールのインストールと削除は簡単で、直接 Panel から構成できます。

Parallels が開発したアドオンは、オンラインストア
(<http://www.parallels.com/store/plesk/partners/>) で入手できます。

オンラインストアへのリンクは、サーバ管理パネルの次の場所にもあります。

- [ツールと設定] > [Parallels パートナーの製品] 。
- [モジュール] > [Parallels パートナーの製品] 。

➤ アドオンモジュールをインストールするには：

1. [モジュール] > [モジュールの管理] に進みます。
2. [モジュールを追加する] をクリックします。
3. [参照] をクリックして、ローカルコンピュータまたはネットワーク上のアドオンモジュールパッケージファイルを検索し、それを選択して [OK] をクリックします。


アドオンモジュールの使用を開始する前に、モジュールを構成する必要があります。構成手順は、モジュールによって異なります。


➤ アドオンモジュールを構成するには：


1. [モジュール] > [モジュールの管理] に進みます。
2. インストールされたモジュールのリストから、リンクとして表示されているモジュール名をクリックします。

一部のモジュールでは、使用にあたってライセンスキーのインストールが必要です。利用条件は、モジュール開発者のウェブサイトまたは Panel 内で確認することができます（[モジュール] > [モジュールの管理]）。インストール済みの各モジュールには、対応するリストエントリが 1 つあり、ライセンスキーの必要性を示すアイコンが付いています。

3 種類のアイコンがあり、次のような意味があります。

 - モジュールにライセンスキーは不要。

 - モジュールにライセンスキーが必要。キーはインストール済み。

 - モジュールにライセンスキーが必要。キーはまだインストールされていない。

モジュールが Parallels の提供するものであり、追加のライセンスキーが必要な場合は、「Panel アドオンに追加のライセンスキーをインストールする（72ページ）」セクションの指示に従って Parallels から入手できます。それ以外の場合は、モジュールのライセンスキーのインストールに関する情報をモジュール開発者から入手してください。

➤ **アドオンモジュールを削除するには：**

1. [モジュール] > [モジュールの管理] に進みます。
2. 削除するモジュールに対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

単一 IP アドレスで複数の SSL サイトをホスティングする（Linux ホスティング）

Parallels Plesk Panel for Linux は TLS プロトコルの SNI（Server Name Indication）拡張をサポートしているため、共用 IP アドレスでホスティングされているサイトに対して認証済み SSL 証明書を使用できます。

SNI により IPv4 リソースを効率的に使用でき、次のようなメリットがあります。

- プロバイダは、任意の数の SSL サイトを、単一の IPv4 アドレスでサイト別の証明書を使用して運用できます。
- ホスティング顧客は、自社の各サイトに個別の SSL 証明書をインストールできます。このため、新たな契約を購入する必要はありません。各顧客は、サーバ全体で共用 IP アドレスが 1 つだけ存在する場合でも、SSL 証明書をインストールできます。

SNI をサポートするオペレーティングシステムのリストを表示するには、リリースノートを参照してください。

共用 IP アドレスで SNI により SSL をサポートするためには、ユーザのブラウザでも SNI がサポートされている必要があります。OS が Windows XP である場合を除き、IE 7、Firefox 2.0、Opera 8.0、Chrome などほとんどの最新ウェブブラウザは SNI をサポートしています。SNI について、および SNI に対応するクライアントについて詳しくは、http://en.wikipedia.org/wiki/Server_Name_Indication（英語）を参照してください。

SNI がサポートされていない場合、共用 IP アドレスでホスティングされているサイトに SSL 証明書を割り当てると、この IP アドレス上でホスティングされている他のすべてのサイトに対してこの証明書が関連付けられます。

ウェブサイトへの SSL 証明書の割り当て方法については、『コントロールパネルユーザガイド』の「ウェブサイトへの接続を SSL でセキュリティ保護する」のセクションを参照してください。

単一の SSL 証明書によりサイトをセキュリティ保護する（Windows ホスティング）

Windows ベースのインストールでは、SSL によってサイトアクセスのセキュリティを向上でき、サイト所有者が独自の SSL 証明書を購入する必要はありません。このような共有 SSL を利用しているウェブサイトは、実際には、他のドメインと認証を共有して使用しています。自らの SSL 認証を他のドメインと共有しているドメインを「マスター SSL ドメイン」と呼びます。

貴社に属する任意のウェブサイトを選び、ウェブホスティング設定で SSL サポートを有効化し、有効な SSL 認証をこのサイトにインストールして、当該サーバ上でホスティングされている他のすべてのウェブサイトに対するマスター SSL ドメインとして機能させることができます。あるいは、貴社のいずれかのユーザに属するウェブサイトを選び（リセラーまたは顧客アカウント）、ウェブホスティングの設定で SSL サポートを有効化し、有効な SSL 認証をこのサイトにインストールして、このユーザの他のすべてのウェブサイトに対するマスター SSL ドメインとして機能させることができます。

マスター SSL ドメインを割り当てた後で、貴社または貴社の顧客は、セキュアなアクセスが必要な各ドメインに、共有 SSL リンクを追加する必要があります。

➤ **マスター SSL ドメインを設定し、サーバで共有 SSL を有効にするには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [共有SSL] （[リソース] グループ内）に進みます。
2. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスをオンにします。
3. 必要なウェブサイトを [ドメイン名] メニューで選択します。リストには、貴社のサーバでホスティングされており、SSLが有効になっているウェブサイトのみが表示されます。
4. [OK] をクリックします。

ウェブサイトへの共有 SSL リンクの追加についての詳細は、『コントロールパネルユーザガイド』で「他のウェブサイトと共有する SSL 認証を使用する」を参照してください。

➤ **サーバの共有 SSL を無効にするには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [共有SSL] （[リソース] グループ内）に進みます。
2. [共有SSLをスイッチオンする] チェックボックスをオフにします。
3. [OK] をクリックします。

安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションの使用を制限する

ここでは、安全ではない可能性があるホスティングオプションをユーザがスイッチオンしたり、cron(タスクスケジューラ)経由でスクリプトを実行できないように制限する方法を説明します。

スクリプティングオプション

共用ホスティング環境でサイトを隔離するために、サーバ全体に対してセキュリティポリシーを適用することができます。ポリシーは、FastCGIハンドラによってPHPスクリプトを強制実行し、Panelユーザが安全ではないホスティング機能やオプションを有効化できないようにします。

Panelユーザが以下のホスティングオプションを変更することを禁止するポリシーを設定できます。

- PHP サポート
- PHP ハンドラのタイプ (Apache モジュール、ISAPI、FastCGI、CGI)
- PHP セーフモード
- Python サポート
- Perl サポート
- FastCGI サポート
- Miva サポート
- SSI サポート
- SSL サポート
- SSH またはリモートデスクトップ経由でのサーバーコンソールへのアクセス
- ASP 対応
- ASP.NET サポート (Windows ベースのサーバのみ)
- ColdFusion サポート
- 追加の書き込み/変更パーミッション (Windows ベースのサーバのみ)
- 専用 IIS アプリケーションプール (Windows ベースのサーバのみ)

➤ ポリシーをセットアップし、適用するには：

1. `site_isolation_settings.ini` ファイルを変更します。このファイルは、Linux システムの場合は `/usr/local/psa/admin/conf/` ディレクトリ、Windows システムの場合は `%plesk_dir%\admin\conf\` にあります (`%plesk_dir%` は、Windows システムでの Parallels Plesk Panel インストールディレクトリの環境変数です)。

ファイルには、次のようなエントリが事前定義されています。

```
;php = any
;php_handler_type = fastcgi
;python = off
;perl = off
;fastcgi = any
;miva = off
;ssi = any
;ssl = on
;shell = /usr/local/psa/bin/chrootsh
;asp = any
;php_safe_mode = on
;coldfusion = off
```

「On」になっているオプションは有効に、「off」は無効になります。「any」になっているオプションは制限されません。

セミコロン (;) を削除するとコメント行が解除されます。規定の値を使用することも、カスタム設定を使用することもできます。ポリシーの設定は、次のような値になります。

```
php = on | off | any
php_handler_type = (Unix:module | Windows:isapi) | fastcgi | cgi
| any
python = on | off | any
perl = on | off | any
fastcgi = on | off | any
miva = on | off | any
ssi = on | off | any
ssl = on | off | any
shell = (Unix:<string> Windows:on | off) | any
asp = on | off | any
asp_dot_net = on | off | any
php_safe_mode = on | off | any
coldfusion = on | off | any
write_modify = on | off | any
iis_app_pool = on | off | any
```

2. 新たに作成されたアカウントとホスティングサービス契約にポリシー設定を適用するには、サービスプランの作成時に次の設定を定義します。

- リセラープランのプロパティで、[パーミッション] タブをクリックし、[プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ] チェックボックスをオフにします。
- ホスティングプランのプロパティで、[パーミッション] タブをクリックし、[ホスティング設定管理] チェックボックスをオフにします。ユーザに対して、ホスティング設定の管理を許可する場合、[プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ] チェックボックスをオフにします。あるいは、ポリシーを適用し、ホスティング設定管理で以前に許可したパーミッションをオーバーライドすることができます。これを行うには、[ホスティングパラメータ] タブをクリックし、[セキュア設定プリセットを適用する] リンクをクリックします。

【ホスティング設定管理】パーミッションが付与されており、【プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ】パーミッションは付与されていない場合、ユーザが変更できるのは、サーバ全体に適用されるセキュリティポリシーで制限されていないホスティングオプションのみです。これら両方のパーミッションが付与されている場合、ユーザはセキュリティポリシーを問わず、利用可能なすべてのホスティングオプションを変更できます。セキュリティポリシーのオーバーライドが許可されている Panel ユーザが、ポリシーで制限されているオプションをコントロールパネルで変更すると、このことがユーザに対して警告され、操作の実行を確認するメッセージが表示されます。

特定のユーザがポリシーをオーバーライドできるように許可するには、【契約】 > 【契約名】 > 【カスタマイズ】 > 【パーミッション】 タブの順に選択し、【プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ】 オプションをオンにします。

すべてのユーザがサービスプランを契約してポリシーをオーバーライドできるようにするには、【サービスプラン】 > 【プラン名】 > 【パーミッション】 タブまたは【サービスプラン】 > 【リセラープラン】 > 【プラン名】 > 【パーミッション】 タブで【プロバイダのポリシーを上書きする、安全ではない可能性があるウェブスクリプトオプションのセットアップ】 オプションをオンにします。

Cron タスクスケジューラ経由でのスクリプト実行 (Linux ホスティング)

旧バージョンの Plesk では、cron によってタスクをスケジュールするパーミッションが付与されているがサーバシェルへのアクセスは許可されていないユーザでも、cron が稼働しているシェルでスクリプトを実行することができました。この結果、悪用されるとサーバが悪影響を受ける恐れのあるデータにもこれらのユーザがアクセスできました。Parallels Plesk Panel 10.1 以降は、cron タスクの実行は chroot シェル環境に自動的に制限されます。これは、Panel 10.1 のクリーンインストール時や、他のプラットフォームまたは旧バージョンの Plesk からデータをマイグレーションしたときのデフォルト設定です。10.0 を含む旧バージョンから Parallels Plesk Panel 10.1 にアップグレードした場合、顧客が実行している可能性があるスケジュール済みタスクの実行を妨げることがないように、chroot シェルは自動的に選択されません。

顧客を信頼しており、非 chroot 環境でのスクリプトの実行を許可する場合は、コンソールで次のコマンドを発行して必要なシェルを選択することができます。

```
# /usr/local/psa/admin/bin/server_pref -u -crontab-secure-shell
"/bin/sh"
```

この設定を取り消し、システムが使用するデフォルトシェルに設定し直す場合は、コンソールで次のコマンドを発行します。

```
# /usr/local/psa/admin/bin/server_pref -u -crontab-secure-shell ""
```

ヘルプデスクをセットアップする

コントロールパネルで顧客が問題報告を送信できるようにするには、次のようにセットアップします。

1. 貴社のウェブサイトをホスティングする契約をセットアップします。
2. アプリケーションカタログで、アプリケーション osTicket（バージョン 1.6 以上）をサイトにインストールします。利用可能な無料ソリューションの中でも、osTicket は使いやすさと機能の充実度が最も優れていると考えられます。osTicket について詳しくは、公式サイト (<http://osticket.com>) を参照してください。

➤ ウェブサイトのホスティング用に契約をセットアップするには：

1. サーバ管理パネルのナビゲーションペインで、[ホスティングサービス] グループの下にある [契約] リンクをクリックします。
2. [新しい契約を追加する] をクリックします。
3. 会社サイトのドメイン名を入力します（「provider-example.com」など）。
4. IPアドレスを選択します。
5. FTP経由でウェブスペースにアクセスし、ファイルを管理するためのユーザ名とパスワードを入力します。
6. [サービスプラン] メニューで [無制限] を選択し、サイトでのリソース消費量に制限を加えないようにします。
7. [OK] をクリックします。

次にサーバ管理パネルにログインすると、[ヘルプデスクをインストールする] リンクがナビゲーションペインに表示されます。このリンクを使用して、ウェブサイトに osTicket をインストールできます。

➤ ログインし直す必要なく、今すぐインストールを開始するには：

1. サイトのドメイン名の横にある [コントロールパネル] リンクをクリックします。新しいブラウザウィンドウまたはタブにコントロールパネルが開きます。
2. [ホーム] タブの [アプリケーション] グループで [osTicket] リンクをクリックします。
3. [インストール] をクリックします。
4. ライセンス契約の条項を読み、同意を確認し、[次へ] をクリックします。

5. アプリケーション設定を開くには、[すべての設定を表示する] リンクをクリックし、以下を指定します。

- サーバにおけるインストールディレクトリへのパス。
- アプリケーションへの管理アクセス。ヘルプデスクの管理に、サイトの FTP アカウントのユーザ名とパスワードを使用するには、[既存ユーザに管理アクセスを許可する] オプションはオンにしたまま、メニューで [管理] を選択します。
- 管理者のメールアドレス ヘルプデスク管理者のメールアドレスを指定します。
- ウェブサイト名 （例：<会社名> 顧客サービスポータル）。
- デフォルトのシステムメールアドレス。サポートエンジニアへの連絡窓口としてサイトに掲載するメールアドレスを指定します （例： support@example.com）。
- データベース管理者のパスワード。

6. [インストール] をクリックします。

インストールが完了したら、サーバ管理パネルのナビゲーションペインで [ヘルプデスク] リンクを使用できるようになります。ここから、ヘルプデスクを管理したり、顧客やリセラーの顧客が送信したチケットを処理することができます。

顧客はコントロールパネルの [カスタムボタン] グループで [ヘルプデスク] リンクをクリックすることにより、チケットを送信できます。

第 8 章

システムを管理する

アプリケーションを管理する

顧客の多くは、ウェブメール、CRM、e コマースシステム、ブログ、画像ギャラリーなどの各種ウェブアプリケーションを実行するためにウェブホスティングアカウントを購入します。一般にこのようなユーザは、技術不足や経験不足などにより、自力でこれらのアプリケーションをインストールすることができず、サービスプロバイダに作業を依頼します。この結果、プロバイダのスタッフはアプリケーション関連のルーチン作業で手一杯になります。ウェブアプリケーションのインストール（およびメンテナンス）を簡単にし、スタッフの負荷を軽減するために、Parallels は Panel ユーザがコントロールパネルから入手できるさまざまな無償アプリケーションや有償アプリケーションを紹介しています。

それぞれの顧客が利用できるアプリケーションは、各種要因によって決まります。たとえば、Panel ライセンス、サービスプランのプロパティ、契約のプロパティなどによって、リストに含まれるアプリケーションが変わります。アプリケーションリストの内容がどのように決まるのかについては、「顧客に提供されるアプリケーションはどのように決まるのか」のセクションを参照してください。

アプリケーションの種類

Parallels では、次の 2 種類のアプリケーションを提供しています。

- ウェブサイトに直接インストールするアプリケーション（WordPress ブログプラットフォーム、Joomla! コンテンツ管理システムなど）
- ウェブサイトへのインストールが不要なアプリケーション。これらは主に、ウェブ上で提供されている外部アプリケーションであり、サービスへのリンクのみが提供されています（iMind ビデオ会議サービス、OfficeDrive オンラインオフィススイートなど）。

アプリケーションのインストールとメンテナンス

インストール作業に、特別なスキルは不要です。アプリケーション設定（管理者のクレデンシャルなど）を顧客が指定するだけで、Panel がアプリケーションをインストールします。アプリケーションの更新や削除を Panel で行うため、インストール後のアプリケーション管理も簡単です。さらに、顧客はアプリケーションにログインすることなく、コントロールパネルでアプリケーションが提供している一部の機能を実行できます。たとえば、新しい WordPress テーマをアップロードしたり、SugarCRM ユーザアカウントを追加することが可能です。このようなアプリケーション機能は、アプリケーションが顧客に提供する「サービス」です。

アプリケーションのバックアップと復元

アプリケーションは Panel の標準的な方法 (backup ユーティリティ) でバックアップされます。バックアップは契約単位で行われます。したがって、一度にバックアップできるのは、1 つの契約に含まれるすべてのアプリケーションです。バックアップされたアプリケーションは、他の契約データとともに復元されます。

アプリケーションヴォルトとアプリケーションカタログ

アプリケーションの可用性に制限がない場合、コントロールパネルで表示されるアプリケーションリストには、次の 2 つのソースにあるすべてのアプリケーションが含まれます。

1. アプリケーションカタログ - Parallels が管理するリモートリポジトリ。アプリケーションの主要なソースです。
2. アプリケーションヴォルト - Panel 内のローカルリポジトリ。それぞれの Panel には、独自のアプリケーションヴォルトがあり、サーバ管理パネルからアクセス可能です（[サーバ管理] > [ツールとユーティリティ] > [アプリケーションヴォルト]）。

アプリケーションヴォルトの主な目的：

- 独自の APS パッケージをプロバイダがアップロードして、アプリケーションの種類を増やします。
これは、顧客に提供したいアプリケーションがアプリケーションカタログに含まれていない場合が該当します。
- アプリケーションカタログからインストールしたアプリケーションにアップデートを適用する。
- アプリケーションカタログ内のアプリケーションをコントロールできるようにする。
カタログからヴォルトにアプリケーションをダウンロードして、一部のオプションをコントロールすることができます。たとえば、顧客への表示/非表示を切り替えたり、サーバ全体の設定を構成することができます。

アプリケーションヴォルトでのアプリケーションの管理について詳しくは、「**アプリケーションヴォルトでアプリケーションを管理する**（172 ページ）」のセクションを参照してください。

つまり、アプリケーションヴォルトとは、単なるアプリケーションのローカルリポジトリではなく、アプリケーションカタログ内のアプリケーションのバージョン管理、表示管理、サーバ全体の設定を行うためのツールです。アプリケーションヴォルトについて理解を深めるには、「**顧客に提供されるアプリケーションはどのように決まるのか**」のセクションの説明を参照してください。

Panel サーバ間でアプリケーションを共有する

アプリケーションヴォルトに追加した APS パッケージは、貴社の顧客のみが利用可能です。他の Panel サーバのユーザとアプリケーションを共有するためには、このアプリケーションをアプリケーションカタログに追加する必要があります。カタログに追加できるアプリケーションは、アプリケーションを簡単にインストールおよび管理するために規定された APS (Application Packaging Standard) 規格に準拠している必要があります。アプリケーションのパッケージ後に、APS 規格の認証を受けてください。詳しくは、<http://www.apsstandard.org/isv/> を参照してください。

Storefront

Panel 10 以降、Parallels Partner Storefront プログラムにより、有償アプリケーションをレベニューシェアモデルで顧客に販売して収益を得ることが可能になっています。このプログラムでは、販売したいアプリケーションをプロバイダが選択してから、Parallels がコントロールパネルで提供するアプリケーションのリストにこのアプリケーションを追加します。顧客がプログラムに追加する有償アプリケーションを選択すると、プロバイダのブランドのオンラインストアが表示され、ここで注文を完了できます。このプロバイダブランドのオンラインストアを「Storefront」と呼びます。

注文、ライセンスング、課金のあらゆる処理は Storefront が行うので、プロバイダはそれぞれの販売アプリケーションの販売実績をトラッキングし、利益を得ることができ、他の作業は必要ありません。

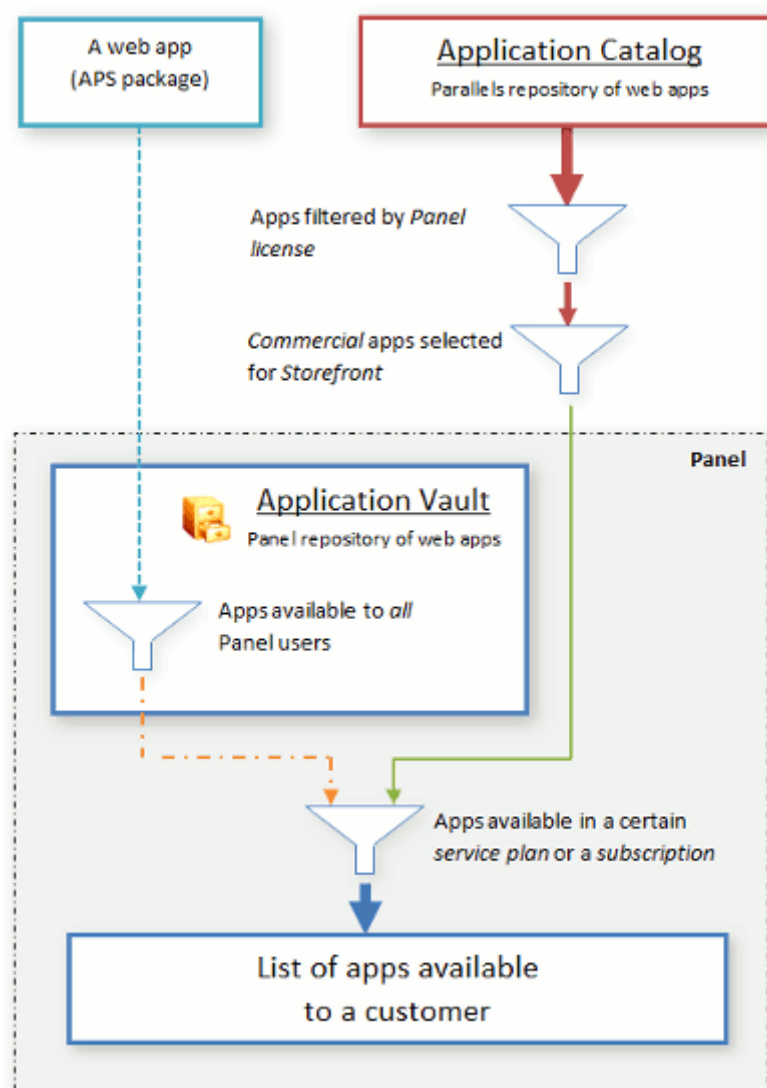
このプログラムに参加するためには、適切な Panel ライセンスを取得する必要があります。Parallels Partner Storefront について詳しくは、<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/storefront/> を参照してください。

次に、アプリケーションヴォルトを使用してアプリケーションを管理する方法と、顧客のコントロールパネルでアプリケーションがどのように提供されるのかを説明します。

顧客に提供されるアプリケーションはどのように決まるのか

顧客が利用できるアプリケーションのリストは、Panel ライセンス、サービスプラン、アプリケーションヴォルトの構成などに応じて決まります。これらのアプリケーションのリストを参照するには、[ホスティングサービス] > [契約] に進み、特定の顧客のコントロールパネルで [アプリケーション] タブから [利用可能な全アプリケーション] を選択します。

以下の図は、利用可能なアプリケーションのリストがどのように確定されるのかを示します。



特定の顧客のアプリケーションリストには、一連のフィルタリングを通過したアプリケーションのみが表示されます。アプリケーションのフィルタリングは次のようなレベルで行われます。

1. *Parallels Plesk Panel* ライセンス

プロバイダの Panel ライセンスにより、アプリケーションカタログ内のどのアプリケーションを顧客が利用できるのかが決まります。このレベルでは、すべてのアプリケーションを提供するか、有償アプリケーションのみ（あるいは無償アプリケーションのみ）提供するか、あるいはすべてのアプリケーションを提供しないことができます。このフィルタはすべての Panel ユーザに対して一度に適用されます。

2. *Storefront*

Storefront プログラムに参加しているプロバイダの場合、顧客に提供する有償アプリケーションを追加で決めることができます。このフィルタはすべての Panel ユーザに対して一度に適用されます。

3. *アプリケーションヴォルト*

Panel で、アプリケーションヴォルトにアップロードした APS パッケージを提供するか否かを決めることができます。これが機能するのは、*プロバイダの自社パッケージのみ*です。カタログからダウンロードしたアプリケーションを提供するか否かを制御することはできません。アプリケーションの管理については、「**アプリケーションヴォルトでアプリケーションを管理する**（172ページ）」のセクションを参照してください。

4. *サービスプラン*

Panel で、特定のサービスプランに含めるアプリケーションを指定することができます。このフィルタは、このサービスプランを使用しているすべての顧客に適用されます。サービスプランにアプリケーションを追加するプロセスについては、「**ホスティングプランと契約**（33ページ）」のセクションでカバーされています。

5. *契約*

特定の顧客に提供するアプリケーションを決めるには、該当する契約でアプリケーションリストを更新してください。

これらのフィルタリングを通過したアプリケーションのリストが顧客に対して提供されます。

アプリケーションヴォルトでアプリケーションを管理する

アプリケーションヴォルトは、ローカルリポジトリとアプリケーション管理ツールの役割を果たします。リポジトリとしては、アプリケーションパッケージの追加、更新、削除が可能です。管理機能を使用すると、Panel にインストールされたアプリケーションの確認やアプリケーションの構成が可能なほか、インストール対象からアプリケーションを外すこともできます。さらに、ヴォルトのキャッシュを消去して、一時インストールファイルを削除することも可能です。次に、アプリケーションに対してこれらの作業を行う方法を詳しく説明します。

アプリケーションヴォルトにアクセスするには、サーバ管理パネルで **【サーバ管理】 > 【ツールとユーティリティ】 > 【アプリケーションヴォルト】** の順に選択します。

Panel にアプリケーションを追加する

アプリケーションカタログに含まれるアプリケーション以外のウェブアプリケーションを顧客に提供するには、これをアプリケーションヴォルトに追加する必要があります。APS フォーマットでパッケージしたアプリケーションのみをアップロード可能です。

アプリケーションをアップロードするには、**【ツールとユーティリティ】 > 【アプリケーションヴォルト】 > 【マイ・アプリ】 > 【アプリケーションを追加】** を使用します。アップロードしたアプリケーションは、すべての顧客のコントロールパネルに表示されるようになります。

アプリケーションのサーバ全体の設定を構成する

アプリケーションカタログのアプリケーションによっては、顧客がインストールするために、サーバ全体の構成を設定しなければならない場合があります。たとえば、アプリケーションのインストールによって Panel サービスに影響がある場合、管理者のパスワードが必要になります。顧客がこのようなアプリケーションのインストールを試みると、プロバイダ（貴社）に構成を依頼するよう指示するメッセージが表示されます。構成の完了後、顧客はこのアプリケーションをウェブサイトインストールできるようになります。

一般に、アプリケーションのサーバ全体の設定は、すべてのアプリケーションインストールに適用され、顧客が変更することはできません。たとえば、顧客が ePages e コマースアプリケーションをインストールするためには、顧客がアプリケーションにアクセスする際のプロトコルを HTTP と HTTPS のどちらにするのかプロバイダが定義する必要があります。

サーバ全体の設定を構成するには、次の 2 つのステップを行います。

1. カタログ内のアプリケーションを追加します（**【ツールとユーティリティ】 > 【アプリケーションヴォルト】 > 【マイ・アプリ】 > 【アプリケーションを追加】**）。
2. **【マイ・アプリ】** タブでリストからアプリケーションを選択し、設定を行います。

顧客へのアプリケーションの提供を管理する

APS パッケージをヴォルトにアップロードしてから、このパッケージを顧客に提供するか否かを管理することができます。これは、すべての顧客からアプリケーションを一時的に非表示にしたい場合に便利な機能です。この場合、[ツールとユーティリティ] > [アプリケーションヴォルト] > [マイ・アプリ] タブでアプリケーションを利用可能にすることができます。アプリケーションはすべての顧客が利用できるアプリケーションのリストに表示されなくなります。アプリケーションをリストに戻すには、[マイ・アプリ] タブでアプリケーションを利用可能にしてください。カタログからダウンロードしたアプリケーションではこれらの操作を実行できません。

アプリケーションパッケージを削除する

削除できるパッケージは、アプリケーションヴォルトに保存されているパッケージのみです。
[ツールとユーティリティ] > [アプリケーションヴォルト] > [マイ・アプリ] タブでアプリケーションを削除すると、ヴォルトからアプリケーションパッケージが削除されます。

この操作はインストールされたアプリケーションには影響を与えません。インストールされたアプリケーションは、特定の顧客（インストールオーナー）がコントロールパネルで削除することだけが可能です。

インストール済みアプリケーションをトラッキングする

一般に、顧客はアプリケーションをローカルリポジトリではなくアプリケーションカタログから直接インストールします（プロバイダがヴォルトに追加したアプリケーションを除く）。ただし、すべてのアプリケーションインストールはヴォルトに登録されます。インストールされたアプリケーションの詳細は、[ツールとユーティリティ] > [アプリケーションヴォルト] > [インストール済みアプリケーション] タブで確認してください。リストに含まれるアプリケーションインストールが「0」の場合、このアプリケーションパッケージはヴォルトに保存されていますが、どの顧客にもインストールされていません。

インストール済みアプリケーションを更新する

アプリケーションヴォルトを使用すると、Panel にインストールされた任意のアプリケーションを、カタログで提供されている最新バージョンに更新することができます。Panel でのアプリケーション更新には、特定のアプリケーションインストールをプロバイダが更新する場合と、その顧客（インストールオーナー）が更新する場合という2つのシナリオがあります。いずれのシナリオでも、あらかじめ、[ツールとユーティリティ] > [アプリケーションヴォルト] > [インストール済みアプリケーション] タブで、利用可能なアップデートをチェックする必要があります。アップデートがあれば、プロバイダまたはその顧客がインストール済みアプリケーションにこのアップデートを適用できます。

アプリケーションヴォルトのキャッシュを消去する

顧客がアプリケーションカタログからアプリケーションをインストールすると、アプリケーションパッケージはサーバの一時ディレクトリ（ヴォルトキャッシュ）に保存されます。キャッシュ内のファイルにより、アプリケーションインストールが高速化しますが、サーバ上のディスク領域を解放するためにこれらのファイルを削除することができます。

アプリケーションヴォルトのキャッシュから一時ファイルを削除するには、[ツールと設定] > [アプリケーションヴォルト] > [インストール済みアプリケーション] タブで [キャッシュを消去する] を選択します。

統計を表示する

➤ サーバリソースの使用量に関する情報を表示する：

1. [ツールと設定] > [サーバ情報] に進みます。

次の情報が表示されます。

- プロセッサ情報
- Parallels Plesk Panel のバージョンとビルド番号
- OS とそのカーネルバージョン
- Parallels Plesk Panel ライセンスキー番号
- サーバアップタイム
- 直近の 1 分、5 分、15 分間のプロセッサの平均負荷
- インストールされた RAM の容量および使用量
- 使用されているスワップスペース容量
- ハードディスクのパーティションおよびディレクトリ別使用量
- 接続（マウント）しているストレージとネットワークストレージデバイス
- ホスティングしているドメインの数：【アクティブ】は、オンライン状態のドメインの数です。
【問題】は、ディスク容量と帯域幅の割当て上限を超えているがまだオンライン状態であるドメインの数です。【パッシブ】は、貴社またはリセラーが一時停止にしたことによりオフライン状態になっているドメインの数です。

2. サーバ統計のデータを最新状態に更新するには、[更新] をクリックします。

➤ リセラー、顧客、ウェブサイトごとのリソース使用量に関するレポートを表示するには：

1. [ツールと設定] > [概要レポート] に進みます。

2. 月別の帯域幅使用量のサマリーを表示するには、[トラフィック履歴の表示] をクリックします。

レポートで実行できる操作：

- 詳細を表示するには、ドロップダウンメニューから【詳細レポート】 オプションを選択します。
- レポートに表示する情報量を調整するには、既存のレポートテンプレートを編集するか、新しいレポートテンプレートを作成します。テンプレートを編集するには、【プロパティ】 をクリックし、レポートテンプレートに変更を加えます。

新しいテンプレートを作成するには、[レポートレイアウト] > [レポートレイアウトの作成] に進み、レポートの各セクションにどの程度の情報を表示するかを指定します。情報が不要な場合は[なし]を、概要が必要な場合は[概要]を、詳細なレポートが必要な場合は[詳細]を選択してください。[デフォルトレポートとして使用する]チェックボックスをオンにして、[OK]をクリックします。

カスタムレポートレイアウトを削除するには、レポートレイアウト名に対応するチェックボックスをオンにし、[削除]をクリックします。

- レポートを印刷するには、[印刷]をクリックします。別のブラウザウィンドウにレポートが表示されます。ブラウザのメニューから[ファイル] > [印刷] オプションを選択して、レポートを印刷します。
- メールでレポートを送信するには、[レポート] グループの右側にある入力ボックスに受信者のメールアドレスを入力して、[メールで送信]をクリックします。自分宛てに送信する場合、メールアドレスを指定する必要はありません。システムは、デフォルトで、使用中のユーザをレポート受信者と推定し、使用中のユーザのコントロールパネルアカウントに登録されているメールアドレスを送信先として指定します。
- レポートを毎日、毎週、または毎月、自動生成し、メールで配信するには、[配信スケジュール]をクリックし、「レポート生成およびメール配信を自動化する」(177ページ)のセクションの指示に従ってください。

➤ ユーザおよびサイトごとにトラフィック使用量のレポートを表示するには：

1. [ツールと設定]をクリックします。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - リセラーのトラフィック使用量に関するレポートを表示するには、[リセラーごとのトラフィック使用量]（[リソース]グループ内）をクリックします。
 - すべてのリセラーと顧客のトラフィック使用量に関するレポートを表示するには、[顧客ごとのトラフィック使用量]（[リソース]グループ内）をクリックします。
 - ドメイン（ウェブサイト）のトラフィック使用量に関するレポートを表示するには、[ドメインごとのトラフィック使用量]（[リソース]グループ内）をクリックします。

レポート生成とメール配信を自動化する

➤ **定期的なレポート配信をスケジュールするには：**

1. [ツールと設定] > [概要レポート] > [配信スケジュール] に進みます。
2. [レポート配信スケジュールの追加] をクリックします。
3. システムに登録した自分のメールアドレスにレポートを送信するには、[送信先] メニューで [サーバ管理者] を選択します。別のメールアドレスへレポートを送信するには、[送信先のメールアドレスを指定] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。
4. [配信頻度] メニューで、レポートを送信する頻度を選択します。日次、週次、月次から選択できます。
5. [OK] をクリックします。

ウイルスおよびスパム防御の統計を表示する (Windows)

➤ **Kaspersky アンチウイルスで検出され、削除されたウイルスの情報を表示するには：**

1. [ツールと設定] > [メールサーバ設定] ([メール] グループ内) > [統計] タブに進み、[ウイルス統計] をクリックします。
2. ウイルス統計を表示する対象期間を選択します。

ウイルスの詳細やメール送信者/受信者を参照するには、該当するタブをクリックします。

➤ **Spamassassin で検出され、フィルタリングされたウイルスの情報を表示するには：**

1. [ツールと設定] > [メールサーバ設定] ([メール] グループ内) > [統計] タブに進み、[スパム統計] をクリックします。
2. スパム統計を表示する対象期間を選択します。

スパムメッセージ受信者の詳細を表示するには、[受信者] タブをクリックします。

ヘルスマニタでサーバヘルスをトラッキングする

一般に、時間の経過とともに Panel サーバのリソース使用量は増加します。さらに、Panel のユーザ数は増え、顧客はさまざまなシステムサービスを利用して新しいサイトを次々に作成します。つまり、ある時点で、RAM、CPU パフォーマンス、ディスク領域などのシステムリソースが足りなくなります。サーバリソースの使用量についてユーザに注意を喚起するために、「ヘルスマニタ」というコンポーネントが用意されています。ヘルスマニタの統計情報に基づいて、システムリソースの使用量を低減するためにどのサービスを調整すればよいか、あるいはどのハードウェアコンポーネントをアップグレードする必要があるのかなどを速やかに判断できます。

Panel の追加コンポーネントであるヘルスマニタを使用すると、各サービスでのメモリや CPU の使用量、ハードディスク使用量、実行中のプロセス数といった主要なサーバヘルスパラメータをすべてトラッキングすることができます。さらに、特定のヘルスパラメータがしきい値を超えたときに視覚的に（またはメールで）通知するように構成することもできます。

ここでは、ヘルスマニタをインストールおよび構成する方法と、リソースの使用量に関する統計情報を取得する方法を説明します。

ヘルスマニタをインストールする

ヘルスマニタは、Panel にデフォルトで搭載されている追加コンポーネントです。Panel のカスタムインストール中にインストールしたり、[サーバ管理] > [ツールと設定] > [アップデート] で後日追加することができます。

サーバヘルスをトラッキングする

ヘルスマニタでは、サーバのリソース使用状況に関する情報が 2 つの方法で表示されます。

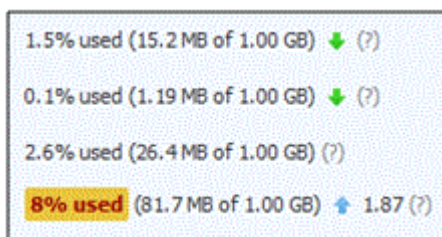
- 主要ヘルスパラメータすべてに関する概要レポート
- 各ヘルスパラメータの変化を示すグラフ付きの詳細レポート

概要レポート

概要レポートには、すべての主要サーバヘルスパラメータがわかりやすくグループ分けされて含まれています。このレポートは、各グループのステータス、瞬間的なパラメータ値、およびその傾向を示します。ヘルスマニタの概要レポートを参照するには、サーバ管理パネルで [ホーム] > [サーバヘルス] の順に選択します。

概要レポートには、瞬間的な（つまり、[ホーム] ページが更新された瞬間の）パラメータ値が示されます。

以下に、概要レポートの例を示します（値はサンプル）。



黄色と赤のアラーム

パラメータの 1 つがしきい値を超えており、ヘルスマニタが黄色のハイライトによってアラームを発しています。それぞれのパラメータには 2 種類のアラームがあります。

- 黄色のアラーム - パラメータがしきい値に近づいています。

赤のアラーム - パラメータがしきい値を超えました。これらのアラームのしきい値は、構成ファイルを使用して設定できます。

傾向

ヘルスマニタは、いずれかのパラメータの値が急上昇した場合にも警告が可能です。これは、傾向という手法で行います。傾向は、パラメータ値が時間の経過とともにどのように変化したのかを示します。この例では、アラームの発生しているパラメータは、この 1 時間で 1.87 倍に上昇（↑）しています（デフォルトの傾向測定間隔は 1 時間です）。パラメータ値が統計的に有意ではない場合、傾向は表示されません。

詳細レポート

詳細レポートにより、リソースの使用量が最大（最小）になる時間帯を特定することができます。レポートを表示するには、[サーバ管理] > [ヘルスマニタリング] の順に選択します。時間の経過とともにサーバヘルスパラメータがどのように変化したのかを確認するには、該当するチェックボックスをオンにします。グラフを生成する期間を、過去 3 時間～1 週間から選択できます。

グラフに利用されるパラメータ値も瞬間的な値であり、ページが更新された瞬間の値です。

ヘルスマニタの値の精度

ヘルスマニタが示すのは、*瞬間的な*パラメータ値です。これらの値は、ウェブページが更新された瞬間の値に過ぎません。つまり、サーバが最大負荷に達している場合は、ヘルスマニタの値とシステムリソース使用量モニタ（Linux の **top**、Windows の **タスク マネージャ** など）の値に不一致が生じます。

アラーム、傾向、メール通知を構成する

ヘルスマニタをインストールすると、デフォルトですべてのパラメータが表示されます。アラームのしきい値やメール通知などのオプションを調整したい場合は、コンポーネントの構成で行います。このような構成は、XML ファイルを使用して設定します。

➤ ヘルスマニタを構成するには：

1. 現在の構成ファイルをダウンロードするには、[サーバ管理] > [ヘルスマニタリング] で [構成ファイルをダウンロードする] ボタンをクリックします。
2. 構成ファイルを任意のテキストエディタで変更します。このファイルを使用して、以下を定義することができます。
 - 各パラメータのアラームしきい値。
 - 各パラメータのアラームの種類：絶対値、相対値、傾向値の超過。
 - 傾向計算用パラメータ
 - メール通知用パラメータ

各ファイルパラメータの詳細なファイル構造と説明は、構成ファイルの上部に記述されています。

1. Panel への変更をファイルでアップロードするには、[サーバ管理] > [ヘルスマニタリング] で [構成ファイルをアップロードする] ボタンをクリックします。





ハードウェアの交換後にヘルスパラメータを更新する

Panel サーバのハードウェア構成がヘルスマニタに指定されるのは、コンポーネントインストール時の一度だけです。その後、ハードウェアパラメータに変更があっても、ヘルスマニタにこの情報は伝わりません。たとえば、RAM を 1 GB から 2 GB に増量しても、ヘルスマニタに表示される RAM の合計量は 1 GB のままです。サーバ構成でヘルスマニタのデータを更新するには、[サーバ管理] > [ヘルスマニタリング] > [ハードウェアの変更を検出] を選択します。


システム時間とサービス

(Windows ベースのサーバ上の) Panel から、各種サービスを監視、起動、停止、再起動、無効化することや、スタートアップタイプを変更することができます。


➤ システムサービスのステータスを確認するには：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. サービスグループのすべてのサービスを表示するには [すべてを表示] をクリックします。すべてのサービスを非表示にするには [すべてを非表示] をクリックします。サービスまたはサービスグループの現在のステータスは以下のアイコンで示されます。
 -  は、そのサービスまたはグループ内のすべてのサービスが稼働していることを示します。
 -  は、そのサービスまたはグループ内のすべてのサービスが停止していることを示します。
 -  は、グループ内の一部のサービスは稼働しており、一部は停止していることを示します。
 -  は、サービスがインストールされていないか、ライセンスキーで管理機能がサポートされていないことを示します。
 - [スタートアップタイプ] フィールドは、サービスが自動的に起動するのか、手動で起動する必要があるのかを示します。


➤ サービスを起動するには：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. 起動するサービスに対応する  アイコンをクリックします。



➤ サービスを再起動するには：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. 再起動するサービスに対応する  アイコンをクリックします。


➤ サービスを停止するには：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. 停止するサービスに対応する  アイコンをクリックします。







➤ サービスのスタートアップタイプを設定するには (Windows ベースのサーバ上)：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. リストで、必要なサービスに対応するチェックボックスをオンにします。
3. 必要なスタートアップタイプを選択します。
 - Panel 起動時に手動でサービスを起動するには、 [手動] をクリックします。
 - Panel 起動時に自動的にサービスを起動するには、 [自動] をクリックします。

➤ サービスを無効化するには：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. リストで、必要なサービスに対応するチェックボックスをオンにします。
3.  [無効] をクリックします。

➤ サービスグループを変更するには：

1. [ツールと設定] > [サービス管理] に進みます。
2. リストで、必要なサービスに対応するチェックボックスをオンにします。
3. 選択したサービスに対して実行するアクションのボタンをクリックします。
 - 選択したサービスを起動するには、 [起動] をクリックします。
 - 選択したサービスを停止するには、 [停止] をクリックします。
 - 再起動したサービスを再起動するには、 [再起動] をクリックします。
 - 選択したサービスを無効化するには  [無効] をクリックします。
 - Panel 起動時に手動でサービスを起動するには、 [手動] をクリックします。
 - Panel 起動時に自動的にサービスを起動するには、 [自動] をクリックします。

メールサーバメッセージキューおよびトラブルシューティングメール輻輳をモニタリングする（Linux ホスティング）

メールサーバ経由でメールを送信できないと顧客から苦情が来た場合、メールサーバが過負荷で受信メッセージに対応できていないことを意味します。これは、何者かがメールサーバからスパムを送ったり、メール送信の qmail 送信デーモンがダウンしているときに起こる可能性があります。

メールサーバを通常の状態に戻すには、メールサーバのメッセージキューから不要なメッセージを削除します。

メッセージキューのメッセージを表示し、削除するには：

1. **【設定】 > 【メールサーバ設定】**（**【メール】** グループ内）> **【メールキュー】** タブの順に進みます。

次の情報が表示されます。

- 送信されなかったメッセージの総数。メッセージはメールサーバに到着すると、まずメインキューに追加されます。次に、メールサーバの事前プロセスが、メッセージを同じサーバ上のローカルメールアカウントに送信するか、リモート受信用のメールアドレスに送信するのかを判断します。事前プロセス後、ローカルメール受信者宛てのメッセージはローカルキューに入り、リモート受信者宛てメッセージはリモートキューに入ります。送信されたメッセージはキューから削除されます。
 - メッセージプロパティ：件名、送信元、宛先、キュータイプ（ローカル、リモート、事前プロセスが未処理）、メッセージがユーザのコンピュータから送信された日、メッセージがキューに置かれてからの時間、メッセージサイズ。
2. 特定の件名のメッセージを見つけるには、**【キュー】** ドロップダウンボックスでキューを選択し、検索対象のシンボルの組み合わせを**【件名】** ボックスに入力し、**【検索】** をクリックします。検索条件と一致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには**【すべて表示】** をクリックします。
 3. 特定の送信元からのメッセージを見つけるには**【高度な表示】** リンクをクリックしてメールアドレスを**【送信元】** ボックスに入力して**【検索】** をクリックします。検索基準と合致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには**【すべて表示】** をクリックします。
 4. 特定の宛先へのメッセージを検索するには、**【高度な表示】** リンクをクリックしてメールアドレスを**【宛先】** ボックスに入力して**【検索】** をクリックします。検索条件と一致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには**【すべて表示】** をクリックします。

5. メッセージを日や経過時間やサイズで見つけるには[高度な表示]リンクから必要な値をそれぞれ[日]、[経過時間]、または[サイズ]ボックスに入力して[検索]をクリックします。検索条件と一致するメッセージが画面の下にリストされます。フィルターをリセットするには[すべて表示]をクリックします。
6. キューからメッセージを削除するには、キューに対応するチェックボックスをオンにして[削除]をクリックします。すべてのメッセージをキューから削除するには、メッセージリストの右上隅のチェックボックスをオンにして[削除]をクリックします。

タスクをスケジューリングする

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラ機能をサーバで実行します。

Linux ベースのサーバ上でタスクをスケジューリングする

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプト `wo` が実行されるタスクスケジューラ機能をサーバで実行します。

重要：コントロールパネルユーザが「root」ユーザの代理としてタスクをスケジューリングすることを禁止するには、サーバのファイルシステムの

`/parallels_plesk_panel_installation_directory/var/` に `root.crontab.lock` という名前の空のファイルを作成します。

Parallels Plesk Panel のインストール時に、次のタスクが自動的に作成されます。

- `autoreport.php` - クライアントおよびドメインにレポートを毎日、毎週、毎月送信します（3つの個別タスク）
- `backupmng` - 30分ごとにスケジュールされたドメインバックアップを開始します
- `statistics` - トラフィックやディスク容量など、ドメインの制限に関する統計を生成します
- `mysqldump.sh` - `psadump`、MySQL、Horde データベースという3つの MySQL データベースのバックアップコピーを作成します

これらすべてのタスクは、ドメイン統計、データベース、レポートに関連しているため、変更や削除を行わないことをお勧めします。

➤ タスクをスケジューリングするには：

1. [ツールと設定] > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
3. [新しいタスクをスケジュールする] をクリックします。
4. コマンドを実行する時間を指定します。

- 分：0～59 の値を指定します。
- 時：0～23 の値を指定します。
- 日：1～31 の値を指定
- 月：1～12 の値を指定するか、ドロップダウンボックスから月を選択します。
- 曜日：0～6（日曜日が0）を指定するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択します

UNIX `crontab` エントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、以下が可能です。

- 複数の値をコンマ区切りで入力する。2つの数字をハイフンでつなげると、包含範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。

- アスタリスクを挿入すると、そのフィールドで許可されるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「*」と入力します。

N ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」の組み合わせを入力します。N はそのフィールドに該当する値です（分、時、日、月）。例えば、[分] フィールドに「*/15」と入力すると、15 分ごとに起動するタスクがスケジュールされます。

月と曜日は省略名で入力できます（Aug、Jul、Mon、Sat などの最初の 3 文字）。ただし、省略名をコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することはできません。

5. 実行するコマンドを指定します。[コマンド] 入力ボックスにコマンドを入力します。

例えば、バックアップ作成タスクを指定の時間に実行し、バックアップファイルを自分のメールアドレスに送信するには、次のコマンドを [コマンド] 入力ボックスに指定します。

```
/usr/local/psa/admin/sbin/backupmng
```

6. [OK] をクリックします。

➤ スケジューリングされたタスクの実行を一時停止するには：

1. [ツールと設定] > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. タスクを実行したシステムユーザアカウントを選択します。
3. 中断するタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ スケジューリングされたタスクの実行を再開するには：

1. [ツールと設定] > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. タスクを実行したシステムユーザアカウントを選択します。
3. 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
4. [スイッチオン] チェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

➤ タスクをキャンセルするには：

1. [ツールと設定] > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. タスクを実行したシステムユーザアカウントを選択します。
3. キャンセルするタスクの左にあるチェックボックスをオンにします。
4. [削除] をクリックします。
5. 削除を確認して [OK] をクリックします。

Windows ベースのサーバでタスクをスケジューリングする

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、サーバのタスクスケジューラ機能を有効化して、システムでスクリプトを自動実行することができます。

Parallels Plesk Panel のインストール時に、次のタスクが自動的に作成されます。

- Update Parallels Premium Antivirus database: アンチウイルスデータベースを更新します。
- Statistics calculation: トラフィックやディスク容量といったリソース使用量の統計を生成します。

これらのタスクは、システムサービスの操作に関連するため、変更や削除を行わないことをお勧めします。

➤ タスクをスケジューリングするには：

1. [ツールと設定] > [スケジューリング済みタスク] に進みます。
2. [新しいタスクをスケジュールする] をクリックします。
3. スケジュールタスクを作成後すぐに有効にしたい場合は [スイッチオン] チェックボックスをオンにしておきます。
4. [説明] フィールドにタスクの名前を入力します。
5. [スケジューラからの通知] で、スケジューラによるタスク実行時に通知するかどうかを指定します。使用可能なオプションは次のとおりです。
 - スイッチオフ：通知しません。
 - デフォルトメールに送信：デフォルトメールアドレスに通知を送信します。
 - 指定するメールアドレスに送信：該当フィールドで指定したメールアドレスに通知を送信します。このオプションを選択したら、右側のフィールドにメールアドレスを入力する必要があります。

[設定] をクリックしてスケジューラ通知設定を保存します。

6. 実行するコマンドを指定します。[実行可能ファイルのパス] 入力ボックスに入力します。オプションを指定してコマンドを実行する必要がある場合は、オプションを [引数] フィールドに入力します。
 - 例えば、ディスク容量を計算する統計計算タスクを実行し、example.com および example.net ドメインの詳細を表示するには、[実行可能ファイルのパス] 入力ボックスに次のパスを指定します。

```
C:\Program Files\Parallels\Parallels Panel\admin\bin\statistics.exe
```

次に、以下のオプションを [引数] フィールドに入力します。

```
--disk-usage --process-domains=example.com, example.net -verbose
```

- 独自の php スクリプトをタスクスケジューラを使用して実行するには、次のパスを**【実行可能ファイルのパス】** 入力ボックスに指定します。

```
C:\Program Files (x86)\Parallels\Parallels  
Panel\Additional\PleskPHP5\php.exe
```

次に、以下のスクリプトの場所を**【引数】** フィールドに入力します。

```
C:\Inetpub\vhosts\mydomain.tld\httpdocs\myscript.php
```

7. **【タスクの優先度】**フィールドで、適切な優先度を選択します。タスクの優先度は**【低】**、**【中】**、**【高】** から選択できます。
8. **【時】**、**【日】**、**【月】**、**【曜日】** フィールドで適切なチェックボックスをオンにして、コマンドをいつ実行するかを指定します。
9. **【OK】** をクリックしてタスクをスケジューリングするか、**【今すぐ実行する】** をクリックしてスケジュールしたタスクを今すぐ実行します。

➤ **スケジューリングされたタスクの実行を一時停止するには：**

1. **【ツールと設定】** > **【スケジューリング済みタスク】** に進みます。
2. 中断するタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
3. **【スイッチオン】** チェックボックスをオフにします。

➤ **スケジューリングされたタスクを再開するには：**

1. **【ツールと設定】** > **【スケジューリング済みタスク】** に進みます。
2. 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
3. **【スイッチオン】** チェックボックスをオンにします。

➤ **タスクをキャンセルするには：**

1. **【ツールと設定】** > **【スケジューリング済みタスク】** に進みます。
2. キャンセルするタスクの左にあるチェックボックスをオンにします。
3. **【削除】** をクリックします。
4. 削除を確認して **【OK】** をクリックします。

追加管理者アカウント（Windows）

テクニカルサポートエンジニアが多種多様な無制限の管理タスクを仮想的に実行できるように、追加の管理者レベルアカウントを作成することができます。追加の Parallels Plesk Panel 管理者アカウントが実行したすべてのアクションはロギングされます。実際の Parallels Plesk Panel 管理者はこれを参照して、追加の管理者アカウントによるアクティビティを高いレベルでコントロールすることが可能です。追加の管理者レベルアカウントには、実際のサーバ管理者の権限のうち、下記を除く大部分の権限が割り当てられます。

- 他のユーザに属する追加の管理者アカウントを表示および管理する。
- 管理者アカウント設定を表示および管理する。
- アクションログを消去する。

追加の管理者アカウントを作成する

➤ **追加の管理者アカウントを作成するには：**

1. [ツールと設定] > [追加管理者アカウント] に進みます。
2. [アカウントの作成] をクリックします。
3. 管理者アカウントプロパティを指定します。
 - 該当するフィールドに、アカウントログイン名、パスワード、メールアドレスを指定します。
 - [連絡先] フィールドに、追加管理者アカウントユーザの名前を指定します。
 - この追加管理者アカウントおよびそのユーザについてコメントがあれば、[コメント] フィールドに入力します。これはアカウントの識別に便利です。例えば、クライアントアカウントを管理するテクニカルサポートエンジニア用に 1 つのアカウントを作成し、もう 1 つのアカウントをメール関連全般を担当するテクニカルサポートエンジニア用に作成することができます。[コメント] フィールドに適切なコメントを入力しておけば、誰が何をしているのかが一目で分かり、混乱を避けることができます。
4. [OK] をクリックして追加管理者アカウントの作成を終了します。

これで、アカウントのログイン名とパスワードを所有者に通知できるようになります。

追加の管理者アカウントを変更する

➤ **追加の管理者アカウントを変更するには：**

1. [ツールと設定] > [追加管理者アカウント] に進みます。
2. リストから追加の管理者アカウントログインをクリックします。
3. 新しい管理者アカウントプロパティを指定します。
 - 該当フィールドに新しいアカウントログイン名、パスワード、メールアドレスを指定します。
 - [連絡先] フィールドに、新しい追加管理者アカウントユーザの名前を指定します。
 - この追加管理者アカウントおよびそのユーザについてコメントがあれば、[コメント] フィールドに入力します。これはアカウントの識別に便利です。例えば、顧客アカウントを管理するテクニカルサポートエンジニア用に 1 つのアカウントを作成し、もう 1 つのアカウントをメール関連全般を担当するテクニカルサポートエンジニア用に作成することができます。[コメント] フィールドに適切なコメントを入力しておけば、誰が何をしているのかが一目で分かり、混乱を避けることができます。
4. [OK] をクリックして追加管理者アカウント情報を更新します。

追加管理者アカウントを一時停止/有効化する

➤ **追加の管理者アカウントを一時停止するには：**

1. [ツールと設定] > [追加管理者アカウント] に進みます。
2. リストから追加の管理者アカウントログインをクリックします。
3. [Panelへのアクセスを許可する] チェックボックスをオフにして、[OK] をクリックします。

➤ **追加管理者アカウントを有効化するには：**

1. [ツールと設定] > [追加管理者アカウント] に進みます。
2. リストから追加の管理者アカウントログインをクリックします。
3. [Panelへのアクセスを許可する] チェックボックスをオンにして [OK] をクリックします。

追加管理者アカウントを削除する

➤ **追加管理者アカウントを削除するには：**

1. [ツールと設定] > [追加管理者アカウント] に進みます。
2. 削除するアカウントのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

バックアップと復元

Parallels Plesk Panel のデータベースバックアップ機能と復元機能を使用して、次の操作を実行できます。

- サーバ全体のバックアップ。バックアップアーカイブには、Panel ライセンスキー、システムサービスの設定と構成、アカウント、サイト、メールボックスが含まれます。
- 個別ユーザアカウントのバックアップ（ウェブサイトを含む）。バックアップアーカイブには、ユーザアカウントとユーザのサイトに関連するすべての設定とデータが含まれます。
- 個別ウェブサイトのバックアップ。バックアップアーカイブには、ウェブサイトに関連するすべてのデータと設定が含まれます。
- バックアップをスケジュールする。
- バックアップアーカイブからデータを復元する。

バックアップおよび復元機能の使用権限が付与されている顧客は、コントロールパネルから独自のアカウント設定およびウェブサイトをバックアップし、復元することができます。顧客、リセラー、リセラーの顧客のコントロールパネルに、バックアップリポジトリへのショートカットが追加されます（**【ウェブサイトとドメイン】** タブの **【バックアップマネージャ】**）。

バックアップおよび復元機能は、オプションの Panel コンポーネントに搭載されており、標準インストールには含まれません。これらのコンポーネントをインストールするには、ウェブベースのインストールおよびアップデートウィザードを使用します。サーバ管理パネルで、**【ツールと設定】** > **【アップデート】** > **【コンポーネントの追加】** に進み、**【Server backup solutions】** グループで **【Plesk Backup Manager】** を選択します。

Panel ユーザは、バックアップタスクのリストで、バックアップを作成したユーザの役割（管理者、顧客、またはリセラー）を確認できます（**【ツールと設定】** > **【バックアップマネージャ】**）。これにより、顧客は自分自身で作成したバックアップと、契約のテクニカルバックアップを見分けることができます。テクニカルバックアップは、管理者またはリセラーがより大規模なバックアップの一環として顧客の契約をバックアップすると発生します。たとえば、Panel 管理者がサーバレベルのバックアップを作成すると、顧客の契約もすべてバックアップされ、管理者が作成した契約バックアップとして顧客に表示されます。

特定のバックアップが失敗すると、バックアップタスクの専用フィールドにエラーの詳細が表示されます。

グローバルバックアップを構成する

多数のウェブサイト 서비스에提供している場合、サーバリソースをあまり消費しないようにバックアッププロセスを構成することができます。

➤ **サーバ負荷を軽減してディスク容量の使用量ポリシーを設定するには：**

1. [ツールと設定] > [バックアップ設定]（[一般]グループ内）に進みます。
2. [同時に実行するバックアッププロセスの最大値]に、同時に実行するバックアッププロセスの最大値を指定します。デフォルト値は10です。これよりも小さい値を入力してください。
3. [低い優先度で、スケジュールバックアッププロセスを実行する] チェックボックスをオンにします。
4. [バックアップファイルを圧縮しない] チェックボックスをオフにします。
5. [OK] をクリックします。
6. バックアップ処理に、サーバ上の使用可能なディスク容量がすべて消費されないようにするには、以下のいずれかを選択します。
 - バックアップファイルを保存するのに十分なディスク領域がサーバにある場合に限り、バックアップを開始するように Panel を設定する。このオプションを使用すると、Panel が将来のバックアップのサイズも計算する必要があるため、バックアップ時間が大幅に増加します。

注： Panel for Windowsは、オブジェクトサイズを直接計算せず、データベースから取得します。Panelデータベースではオブジェクトサイズが1日一度だけ更新されるため、算出されるバックアップサイズの合計が実際の値と異なる場合があります。

 - 指定した空きディスク領域がサーバにある場合に限り、バックアップを開始するように Panel を設定する。このオプションは、将来的なバックアップのサイズをほぼ認識しており、サイズの計算に Panel の作業時間とリソースをとられたくない場合に便利です。

FTP リポジトリを使用するように Panel を構成する

- **バックアップファイルの保存に FTP サーバを使用する場合、Panel を適切にセットアップする必要があります。**
1. [ツールと設定] > [バックアップマネージャ] > [個人FTPリポジトリ設定] に進みます。
 2. 以下の設定を指定します。
 - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名
 - バックアップファイルの保存先サーバのディレクトリ
 - FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード
 3. [OK] をクリックします。

サーバ全体をバックアップする

➤ **サーバ構成の設定およびホスティングマシン上の全ユーザデータをバックアップするには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. [バックアップ] をクリックします。
3. 以下を指定します。
 - バックアップファイル名の接頭語および説明。任意のファイル名を指定することはできませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を（グリニッジ標準時間で）自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
 - バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、対応するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。
 - バックアップファイルを保存する場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - バックアップ完了時のメール通知。バックアップ完了の通知を受け取りたい場合は、メールアドレスを入力します。
 - バックアップするデータ。サーバ設定だけ、またはサーバ設定と全ユーザデータをバックアップできます。
4. [バックアップ] をクリックします。バックアップ処理が開始され、進捗状況が[現在のバックアップタスク] タブに表示されます。[更新] ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。
5. バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

個別アカウントとサイトをバックアップする

➤ **サイトあり（またはなし）でユーザアカウントをバックアップするには：**

1. **【顧客】** をクリックします。
2. アカウントをバックアップする顧客を探し、対応する **【コントロールパネル】** リンクをクリックします。
3. **【アカウント】** タブをクリックします。
4. 以下のいずれかを実行します。
 - サイトありでユーザアカウントをバックアップするには、**【マイアカウントとウェブサイトのバックアップ】** をクリックします。
 - コンテンツのあるウェブサイトのみをバックアップするには、**【ウェブサイトのバックアップ】** をクリックします。
5. **【バックアップ】** をクリックします。
6. 以下を指定します。
 - バックアップファイル名の接頭語および説明。任意のファイル名は指定できませんが、バックアップファイル名に接頭語を追加するようにコントロールパネルを設定できます。コントロールパネルが、バックアップファイル作成の日時を（グリニッジ標準時間で）自動的にバックアップファイル名に追加することにご注意ください。
 - バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、対応するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。
 - バックアップファイルを保存する場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - バックアップ完了時のメール通知。バックアップ完了時にメール通知を送信したい場合は、メールアドレスを入力します。
 - バックアップするデータ。設定のみをバックアップすることも、設定と全データをバックアップすることもできます。
7. **【バックアップ】** をクリックします。バックアップ処理が開始され、進捗状況が **【現在のバックアップタスク】** タブに表示されます。**【更新】** ボタンを使用して、画面上の情報を更新できます。

バックアップが終了すると、選択したリポジトリにバックアップファイルが保存されます。

バックアップをスケジューリングする

➤ **データのバックアップをスケジューリングするには：**

1. **【ツールと設定】 > 【バックアップマネージャ】** に進みます。

2. [スケジュールバックアップ設定] をクリックします。
3. [このバックアップタスクを有効化する] チェックボックスをオンにして、以下を指定します。
 - バックアップを実行する時間と頻度。
 - バックアップファイル名。
 - バックアップファイルの分割。マルチボリュームバックアップを作成するには、対応するチェックボックスをオンにしてボリュームサイズをメガバイト単位で指定します。ボリュームサイズを4095 メガバイト以上にすることはできません。
 - バックアップファイルの保存場所。バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - リポジトリに保存されるバックアップファイルの最大数。バックアップファイルをリサイクルする場合は、数字を入力します。この上限に達すると、最も古いバックアップファイルが削除されます。
 - バックアップでエラーが発生したときのメール通知。バックアップでエラーが発生した場合にメール通知を送信するには、メールアドレスを入力します。
 - バックアップするデータの種類。設定だけ、あるいは設定とユーザデータをバックアップできます。
4. [OK] をクリックします。

バックアップアーカイブからデータを復元する

サーバ上の Panel リポジトリに保存されているバックアップファイル、カスタム FTP リポジトリ（193 ページ）からデータを復元することや、ZIP アーカイブ（Windows システムの場合）または tar アーカイブ（Linux システムの場合）としてバックアップファイルをアップロードして（198 ページ）、ここからデータを復元することができます。

➤ バックアップファイルからデータを復元するには：

1. [ツールと設定] > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. バックアップファイル名をクリックします。
3. 以下の設定を指定します。
 - **復元するデータのタイプ。**
 - **復元タスクが完了するまで、ウェブサイトを一時停止します。**これを選択することにより、サイトのコンテンツや設定の復元中にユーザがコンテンツや設定を変更すると発生する可能性がある競合を回避することができます。
 - **復元タスクが完了したときにメール通知を送信する。**復元タスクが完了したときにコントロールパネルから通知が欲しい場合は、メールアドレスを入力します。
 - **競合解決ポリシー：** 復元中に競合が発生した場合に実行する処理を指定します。
4. [復元] をクリックします。


データの復元中にエラーまたは競合が発生した場合は、適切な解決策を選択するためのウィザードが起動します。画面の指示に従ってウィザードを完了してください。

注：データの復元で上書きモードを選択すると、すべてのオブジェクトはシステム内に現在あるかどうかを問わずバックアップファイルから復元されます。上書きモードは以下のように動作します。

- バックアップファイル内のオブジェクトや設定が Parallels Plesk Panel に存在しない場合、これらは Parallels Plesk Panel に作成または設定されます。
- バックアップファイル内のオブジェクトや設定が Parallels Plesk Panel に存在する場合、Parallels Plesk Panel 内のオブジェクトや設定がバックアップファイル内のオブジェクトや設定に置き換えられます。
- オブジェクトや設定が Parallels Plesk Panel に存在し、バックアップファイルには存在しない場合、現在 Parallels Plesk Panel にあるオブジェクトや設定は変更されません。

サーバからのバックアップファイルのダウンロード

➤ *Panel* でバックアップファイルをバックアップリポジトリからダウンロードするには :

1. [ツールと設定] > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
3. バックアップファイルの保存場所を選択し、[保存] をクリックします。
バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

バックアップファイルをサーバにアップロードする

➤ バックアップファイルを *Panel* 内のバックアップリポジトリにアップロードするには :

1. [ツールと設定] > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. [サーバリポジトリにファイルをアップロードする] をクリックします。
3. [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。

注: 適切なバックアップファイル形式を選択してください。これは、Parallels Plesk Panel のインストールされたオペレーティングシステムに応じて異なります。Linux/Unix システムの場合、tar 形式または zipped tar 形式のアーカイブをアップロードし、Windows システムの場合、ZIP 形式のアーカイブをアップロードする必要があります。

4. [OK] をクリックします。
バックアップファイルが、バックアップリポジトリにアップロードされます。

サーバからバックアップファイルを削除する

➤ *Panel* のバックアップリポジトリからバックアップファイルを削除するには：

1. [ツールと設定] > [バックアップマネージャ] に進みます。
2. 削除するバックアップファイルに対応するチェックボックスをオンにします。
3. [削除] をクリックします。
4. 削除を確認して [OK] をクリックします。

バックアップログ

Panel がバックアップの実行を開始すると、進捗状況がログに記録されます。バックアップログには、構文エラー（コマンドが指定されていない、正しくないコマンドが指定されている、無効の入力パラメータ）、ランタイムエラー、未処理の例外、バックアップ用ディスク容量不足などが記録されます。

バックアップログの保管場所は、Unix/Linux システムの場合は

`/usr/local/psa/admin/PMM/sessions`、Windows システムの場合

は`%plesk_dir%\admin\PM\sessions`です（`%plesk_dir%` は、Windows システムでの *Panel* インストールディレクトリを示す環境変数です）。各バックアップログは個別のフォルダに格納され、フォルダ名にはバックアップ日時が含まれています。

ログに記録する情報の詳細度は変更することができます。この機能を使用できるのは、スケジュールされた定期バックアップとコマンドラインによるバックアップのみです。詳細度の変更方法について詳しくは、『**Backup and Restore Utilities Administrator's Guide**』の「**Setting Up Backup Verbosity**」のセクションを参照してください。

リモートアクセス（Windows）

リモートデスクトップ（RDP）アクセス機能によって Parallels Plesk Panel にリモートログインして、標準 Microsoft Windows デスクトップインターフェース経由で操作を実行できます。

➤ **リモートデスクトップインターフェース経由でサーバにアクセスするには：**

1. [ツールと設定] > [リモートデスクトップ] に進みます。
2. [ターミナルセッションの画面解像度] メニューでセッションの画面解像度を設定します。

注：解像度が高いとインタラクションの速度が低下し、使用する帯域幅が増加します。

3. ブラウザに応じて接続方法を選択します。
 - **Microsoft RDP ActiveX** - 他のブラウザでは動作しないため、Internet Explorer ブラウザの使用が推奨されています。初めてこの方法を使用すると、Internet Explorer のセキュリティ設定で許可されていれば、必要な ActiveX コンポーネントがブラウザによって自動インストールされます。ブラウザにセキュリティアラートが表示された場合は、ブラウザオプションでセキュリティレベルを一時的に低くしてください。
 - **properoJavaRDP** - Internet Explorer では動作しないため、Netscape、Mozilla、Firefox ブラウザの使用が推奨されています。Opera の 8.0 以上のバージョンのみをサポートします。このコンポーネントでは JRE（Java Runtime Environment）がシステムにインストールされている必要があります。JRE は <http://java.sun.com/j2se/1.5.0/download.jsp> からインストールできます（バージョン 1.4 以上）。

注：RDPが正しく機能するようにJDK（Java Development Kit）をインストールする必要はありません。

Internet Explorer または Mozilla を使用する場合は Microsoft Windows のターミナルサービスの構成コンソールを開き（[スタート] > [管理タスク]）、[サーバー設定] 画面で [ライセンス] オプションを [ユーザーごと] に設定する必要があります。

4. [OK] をクリックします。新規ウィンドウが開きます。
5. システムにログインします。デフォルトで、Panelは契約のFTP/Microsoft FrontPageユーザ名を使用します。有効な任意のユーザ名とパスワードを使用できます。
6. システムにログインした後は、通常のWindowsデスクトップのように作業を開始できます。

➤ **リモートデスクトップセッションを終了するには：**

- リモートデスクトップセッションのブラウザウィンドウを終了します。この方法では、セッションはデスクトップから切り離されますが、サーバ上で動作し続けるため、次回ログインしたときにリモートデスクトップは前の状態を維持しています。




または

- セッションを完全に終了するには、**【スタート】 > 【ログオフ】** を選択します

Panel および FTP サービスへの接続をモニタリングする

Panel への接続をモニタリングする

➤ 現在 Panel にログインしている顧客の名前を確認するには：





1. [ツールと設定] > [アクティブセッション] に進みます。自分自身を含め、すべてのセッションが表示され、以下の詳細が表示されます。
 - **タイプ**：セッションを開始した Panel ユーザのタイプ。
 - ：サーバ管理者向け
 - ：リセラーまたは顧客
 - ：メールボックス所有者
 - **ログイン**：ユーザがログインしたときのログイン名
 - **IP アドレス**：Panel へのアクセス元である IP アドレス
 - **ログオン時間**：ユーザが Panel にログインした日時
 - **アイドル時間**：Panel にログイン中のユーザが何も作業を行っていない時間
2. ユーザセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
3. ユーザセッションを終了するには、対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックし、削除を確認して [OK] をクリックします。

FTP サービスへの接続をモニタリングする

Parallels Plesk Panel では、次のいずれかの FTP サーバプログラムがホスティングサーバにインストールされている場合に限り、アクティブな FTP セッションを表示できます。

- Microsoft FTP 7.0 (Windows ホスティング)
- Gene6 FTP サーバ (Windows ホスティング)
- Serv-U FTP サーバ (Windows ホスティング)
- ProFTPD (Linux/UNIX ホスティング)

➤ **FTP を使用してサーバに接続しているユーザ名、そのユーザが作業しているディレクトリ名、およびサーバ間でアップロードまたはダウンロードを行っているファイル名を確認するには：**

1. [ツールと設定] > [アクティブセッション] に進みます。
2. [FTPセッション] タブをクリックします。自分自身を含め、すべてのセッションが表示され、以下の詳細が表示されます。
 - **タイプ：** セッションを確立したユーザのタイプ
 -  : Panel に未登録のユーザ
 -  : 匿名 FTP ユーザ
 -  : ウェブサイト管理者
 -  : ウェブユーザ (個別のドメイン名を持たない個人ウェブページの所有者)
 - **ステータス：** FTP 接続の現在のステータス
 - **FTP ユーザログイン：** FTP アカウントへのアクセスに使用したログイン名
 - **ドメイン名：** FTP ユーザが現在接続しているドメイン
 - **現在のロケーション：** FTP ユーザの現在のディレクトリ
 - **ファイル名：** 操作中のファイルの名前
 - **速度：** 転送速度 (キロバイト)
 - **進捗 (%)：** パーセンテージで示されるファイル転送の進捗
 - **IP アドレス：** FTP アカウントにアクセスしている IP アドレス
 - **ログオン時間：** 現在のユーザがログインしてからの経過時間
 - **アイドル時間：** FTP を使用してサーバに接続している間に、ユーザが何も作業を行っていない時間
3. FTPセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
4. セッションを終了するには、セッションのチェックボックスをオンにして [削除] をクリックします。

サーバへのターミナルセッション接続をモニタリングする (Windows)

➤ 現在ターミナルサーバセッション経由でサーバにログインしている顧客を確認するには：

1. [ツールと設定] > [アクティブセッション] に進みます。
2. [TSセッション] タブをクリックします。自分自身を含め、すべてのセッションが表示され、以下の詳細が表示されます。
 - S。ターミナルセッションのステータスです。
 - 🟡：サーバ管理者
 - ✅：クライアントが有効なログイン名とパスワードで接続およびログイン中
 - ▶️：クライアントが接続中、ただしログインはしていない
 - ❌：クライアントは未接続
 - 名前：ターミナルセッションの名前
 - ユーザ：ターミナルセッションユーザの名前リストのセッション名をクリックすると、セッションの詳細が表示されます。
3. ターミナルセッションのリストを更新するには、[更新] をクリックします。
4. ターミナルセッションの接続を解除するには、該当チェックボックスを選択し、🚫 [接続解除] をクリックし、接続解除を確認してから [OK] をクリックします。
5. ターミナルセッションを終了するには、各チェックボックスをオンにし、🔒 [ログアウト] をクリックし、ログアウトを確認してから [OK] をクリックします。

ファイルおよびフォルダの共有

ウェブスペース内で Panel を使用して独自のウェブサイトを実行している場合、ファイルおよびフォルダの共有をセットアップできます。共有により、以下の目的を達成できます。

- 組織内のユーザが同じドキュメントその他のファイルで共同作業ができるようにする。
- 権限のある顧客やパートナーが、システムでの認証後に製品ロードマップ、割引価格リスト、マーケティングプレゼンテーションなどにアクセスできるようにする。

ファイル共有の設定

ファイル共有設定には、サービスプロバイダビュー（[サーバ管理] > [設定] > [ファイル共有設定]）とパワーユーザビュー（[設定] タブ > [ファイル共有設定]）の両方からアクセス可能です。

➤ 情報システムでファイル共有をセットアップするには：

1. ファイル共有設定ページを開きます。
2. **【ウェブフォルダのルートURL】** は、ファイル共有サービスが使用するルートウェブのフォルダにアクセスするURLを定義します。ファイル共有に使用するウェブフォルダのルートの場所を変更する場合は、ホスト名、ドメイン名またはIPアドレスを選択して、フォルダ名を指定します。

その他のファイル共有ウェブフォルダはすべて、上記で指定したフォルダ名に作成されます。その結果の URL を使用して、ファイル共有で使用するルートウェブフォルダをマウントします。
3. Panelでセキュアリンクを生成して、SSL暗号化でファイル転送を保護するには、**【ファイルおよびフォルダへのセキュアリンクを生成します】** チェックボックスを選択します。
4. アップロードしたファイルを公開して、すべてのウェブサイト訪問者がこれらのファイルにアクセスできるようにする機能をPanelユーザに与えるには、**【パブリックファイルの有効化】** チェックボックスを選択します。
 - パブリックファイルを保管するフォルダを変更するには、新しいフォルダ名を **【パブリックファイルを保管するフォルダ】** フィールドに指定します。
 - 読み取り専用の訪問者がアクセスする URL を変更するには、新しいフォルダ名を **【訪問者がパブリックファイルへアクセスするための URL】** フィールドに指定します。
5. 権限のあるパートナーや顧客のみがアクセス可能なパスワード保護されたフォルダにファイルをアップロードできるようにするには、**【パブリックファイルのパスワード保護の有効化】** を選択して、フォルダにアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力します。
 - パスワード保護されたファイルを保管するフォルダを変更するには、新しいフォルダ名を **【パスワード保護されたファイルを保管するフォルダ】** フィールドに指定します。
6. **【OK】** をクリックします。

ファイル共有によるファイルの共有およびファイルへのアクセス

サーバでファイルおよびフォルダの共有が設定されている場合は、以下のタスクを実行できます。

- 共同作業を行う目的で、組織内の他のユーザとファイルを共有。
- 特権のある顧客およびパートナーとのファイルの共有。ファイルをパスワード保護されたディレクトリ内に置いて、組織外の認証ユーザがそれらにアクセスできるように設定することが可能です。
- ファイルをバックアップ目的で、またはインターネットを介してアクセス可能にするために、サーバ上のセキュアなプライベートディレクトリに配置。
- メールで送信するには大きすぎるファイルの転送。ファイルをサーバにアップロードして、シークレットリンクを生成し、リンクをファイル受領者に送信して、サーバからダウンロードできるようにします。
- 共有ファイルへのアクセスおよびそれらを使用した作業。
 - ウェブブラウザを介して、情報システム内に構築されたファイルマネージャを使用して、または、
 - サーバ上のフォルダをウェブフォルダとしてコンピュータの OS に接続して、ファイルがコンピュータにあるかのように作業します。

以下で説明するすべての操作は、*パワーユーザビューのみ*でアクセスできます。

組織内の他のユーザとファイルを共有する

➤ **ファイルを組織内の他のユーザと共有するには、パワーユーザビューで以下を実行します。**

1. [ファイル共有] タブに移動して、共有するファイルを選択します。

新しいファイルを Panel にアップロードする場には：

- a. 左ナビゲーションエリアの [共有ファイル] に移動して、[ファイルのアップロード] をクリックします。
- b. [ブラウズ] をクリックしてファイルを選択します。
- c. ファイルをアップロードする場所を [共有ファイル] フォルダから選択します。
[個人ファイル] フォルダのファイルを共有するには、以下を実行します。
- d. [ファイル] タブで左ナビゲーションエリアの [個人ファイル] に移動して、ファイルがあるディレクトリを検索します。
- e. 必要なファイルを選択して [共有] をクリックします。
- f. ファイルをアップロードする場所を [共有ファイル] フォルダから選択します。

2. 共有ファイルへのリンクが記載されたメールを送るには、**「完了時にアップロードしたファイルへのリンクが記載されたメールを送信します」** チェックボックスを選択して**「次へ」** をクリックします。そうでない場合は、このチェックボックスを選択せずに**「アップロード」** をクリックします。

メールを送信することにした場合は、次の画面で以下を実行します。

- a. ファイルへのアクセスにPanelでの認証が必要か、およびファイルへのリンクを知るユーザに変更を許可するかを選択します。
- b. 誰でもリンクしたファイルへアクセスできるようにした場合は、リンクの有効期限を選択します。この期間が過ぎると、リンクは無効になります。
- c. 通知を受けるPanelユーザアカウントを選択して、他の通知受信者のメールアドレスを入力します。
- d. メールの件名と本文を入力します。ファイルへのリンクは、自動的に <-[LINKS WILL BE INSERTED HERE - DO NOT REMOVE] -> の部分に挿入されます。

3. **「OK」** をクリックします。

これで、ファイルは `shared` というディレクトリにアップロードされ、情報システムに登録されたすべてのユーザが表示、変更、削除できるようになります。

パートナー用にファイルを公開する

保護された（パスワード保護された）ディレクトリへの公開は、サーバポリシーによって許可されます。これにより、情報システムの認証ユーザがこのディレクトリへファイルをアップロードできるようになります。その後、パートナーまたは特権のある顧客は、送信されたパスワードを入力すればこのディレクトリからファイルをダウンロードできるようになります。

➤ パートナーと権限のある顧客にファイルを公開するには、パワーユーザビユーで以下を実行してください。

1. [ファイル共有] タブに移動して、公開するファイルを選択します。

新しいファイルを Panel にアップロードする場合には：

- a. 左ナビゲーションエリアの **[パブリックファイル]** で、**[パスワード保護されたファイル]** に移動します。
- b. 現在、パスワード保護されたファイルへアクセスする際に使用されている証明書を表示するには、画面右下隅の **[アクセス情報の表示]** をクリックします。パートナーが保護されたディレクトリ内のファイルへアクセスできるようにするには、これらの証明書を送信する必要があります。
- c. **[ファイルのアップロード]** をクリックして、**[パスワード保護されたファイル]** フォルダ内でファイルをアップロードする場所を選択します。
- d. **[ブラウズ]** をクリックしてファイルを選択します。

[個人ファイル] または **[共有ファイル]** フォルダのファイルを公開するには、以下を実行してください。

- e. 現在、パスワード保護されたファイルへアクセスする際に使用されている証明書を表示するには、**[パスワード保護されたファイル]** に移動して、画面右下隅の **[アクセス情報の表示]** をクリックします。パートナーが保護されたディレクトリ内のファイルへアクセスできるようにするには、これらの証明書を送信する必要があります。
 - f. 必要なファイルがあるディレクトリを検索して、ファイルを選択し、**[公開]** をクリックします。
 - g. **[ファイルへのアクセスをパスワードで保護します]** チェックボックスを選択します。
 - h. ファイルを公開する場所を **[パスワード保護されたファイル]** フォルダから選択します。
- #### 2. 公開したファイルへのリンクが記載されたメールを送るには、[完了時に公開したファイルへのリンクが記載されたメールを送信します] チェックボックスを選択して [次へ] をクリックします。そうでない場合は、このチェックボックスを選択せずに [アップロード] をクリックします。

メールを送信することにした場合は、次の画面で以下を実行します。

- a. ファイルへのアクセスにPanelでの認証が必要か、およびファイルへのリンクを知るユーザに変更を許可するかを選択します。
- b. 誰でもリンクしたファイルへアクセスできるようにした場合は、リンクの有効期限を選択します。この期間が過ぎると、リンクは無効になります。
- c. 通知を受けるPanelユーザアカウントを選択して、他の通知受信者のメールアドレスを入力します。
- d. メールの件名と本文を入力します。ファイルへのリンクは、自動的に <-[LINKS WILL BE INSERTED HERE - DO NOT REMOVE] -> の部分に挿入されます。

3. [OK] をクリックします。

これでファイルは `protected` ディレクトリに公開され、パスワードを知っている認証ユーザのみがファイルをダウンロードして見ることができます。

顧客にファイルを公開する

public ディレクトリへの公開がサーバポリシーで許可されている場合、情報システムの認証ユーザはこのディレクトリにファイルをアップロードして、ウェブサイトを訪れた顧客や、これらのファイルがどこにあるかを知っているインターネットユーザに対してアクセス可能にできます。

➤ ウェブ上で顧客にファイルを公開するには、パワーユーザビューで以下を実行します。

1. [ファイル共有] タブに移動して、公開するファイルを選択します。

新しいファイルを Panel にアップロードする場合には：

- a. 左ナビゲーションエリアの [パブリックファイル] に移動します。
- b. [ファイルのアップロード] をクリックして、[パブリックファイル] フォルダ内でファイルをアップロードする場所を選択します。
- c. [ブラウズ] をクリックしてファイルを選択します。

[個人ファイル] または [共有ファイル] フォルダのファイルを公開するには、以下を実行してください。

- d. 必要なファイルがあるディレクトリを検索して、ファイルを選択し、[公開] をクリックします。
 - e. [ファイルへのアクセスをパスワードで保護します] チェックボックスは選択しないでください。
 - f. ファイルを公開する場所を [パブリックファイル] フォルダから選択します。
2. 公開ファイルへのリンクが記載されたメールを送るには、[完了時にアップロードしたファイルへのリンクが記載されたメールを送信します] チェックボックスを選択して [次へ] をクリックします。そうでない場合は、このチェックボックスを選択せずに [アップロード] をクリックします。

メールを送信することにした場合は、次の画面で以下を実行します。

- a. ファイルへのアクセスに Panel での認証が必要か、およびファイルへのリンクを知るユーザに変更を許可するかを選択します。
 - b. 誰でもリンクしたファイルへアクセスできるようにした場合は、リンクの有効期限を選択します。この期間が過ぎると、リンクは無効になります。
 - c. 通知を受ける Panel ユーザアカウントを選択して、他の通知受信者のメールアドレスを入力します。
 - d. メールの件名と本文を入力します。ファイルへのリンクは、自動的に <- [LINKS WILL BE INSERTED HERE - DO NOT REMOVE] -> の部分に挿入されます。
3. [OK] をクリックします。

これで、ファイルは `public` というディレクトリにアップロードされ、顧客や、ファイルがどこにあるか知っているインターネットユーザは、それらのファイルをダウンロードして表示することができます。

ファイルをサーバのプライベートディレクトリにアップロードする

情報システムの認証ユーザはすべて、サーバのプライベートフォルダを使用して以下を実行できます。

- ファイルのバックアップコピーの保管。
- インターネットを介してプライベートディレクトリ内のファイルにアクセス。

➤ **ファイルマネージャ経由でプライベートディレクトリからファイルをアップロードするには、パワーユーザビューで以下を実行してください。**

1. **【ファイル共有】** タブに移動して、左ナビゲーションエリアの **【個人ファイル】** をクリックします。
2. **【ファイルのアップロード】** をクリックします。
3. **【ブラウズ】** をクリックしてファイルを選択します。
4. ファイルをアップロードするフォルダを選択します。
5. アップロードしたファイルへのリンクが記載されたメールを送るには、**【完了時にアップロードしたファイルへのリンクが記載されたメールを送信します】** チェックボックスを選択して **【次へ】** をクリックします。送らない場合は、このチェックボックスをオフにして **【アップロード】** をクリックします。

メールを送信することにした場合は、次の画面で以下を実行します。

- a. リンクの有効期間を選択します。この期間が過ぎると、リンクは無効になります。そのリンクを永久に有効にするには、オプションを選択しないでください。
 - b. 通知を受けるPanelユーザアカウントを選択して、他の通知受信者のメールアドレスを入力します。
 - c. メールの件名と本文を入力します。ファイルへのリンクは、自動的に `<-[LINKS WILL BE INSERTED HERE - DO NOT REMOVE]->` の部分に挿入されます。
6. **【OK】** をクリックします。

これでファイルは `private/username` というディレクトリにアップロードされ、このディレクトリの所有者のみが、これらのファイルの表示、ダウンロード、変更、および削除を実行できます。

メールで送信するには大き過ぎるファイルを転送する

➤ **メールで送信するには大き過ぎるファイルを送信するには、パワーユーザビューで以下を実行してください。**

1. ファイルをサーバにアップロードするか、すでにサーバにアップロードされている場合はファイルを選択します。

新しいファイルを Panel にアップロードする場には：

- a. [ホーム] タブをクリックして、[ファイルのアップロード] リンク（[ファイル共有] グループ内）をクリックします。
- b. ファイルをアップロードするフォルダを選択します（例：[個人ファイル]>admin）。
- c. [ブラウズ] をクリックしてファイルを選択します。
- d. [完了時に公開ファイルへのリンクを記載したメールを送信します] チェックボックスを選択して [次へ] をクリックします。

ファイルが Panel にアップロード済みの場合は、以下を実行してください。

- e. [ファイル] タブに移動して、必要なファイルがあるディレクトリを検索します。
 - f. 必要なファイルを選択して [メールリンク] をクリックします。
2. ユーザのプライベートディレクトリ（Personal Folder）以外の場所からファイルを送信する場合は、ファイルにアクセスするために Panel 認証が必要かどうかと、ファイルへのリンクを持つユーザがファイルを変更可能かどうか、選択する必要があります。
 3. リンクの有効期間を選択します。この期間が過ぎると、リンクは無効になります。
 4. 通知を受ける Panel ユーザアカウントを選択して、他の通知受信者のメールアドレスを入力します。
 5. メールの件名と本文を入力します。ファイルへのリンクは、自動的に <- [LINKS WILL BE INSERTED HERE - DO NOT REMOVE] -> の部分に挿入されます。
 6. [OK] をクリックします。

ファイルへのリンクが指定した受信者に送信され、これらのユーザがファイルをダウンロードできるようになります。

ファイルへのアクセスおよび作業

共用ファイルで作業するには、2つの方法があります。

- そのファイルで頻繁に作業を行う場合は、サーバ上のウェブフォルダをコンピュータに接続します。
- ファイルに時々アクセスする必要がある場合は、Panel のインターフェース（**【ファイル】** タブ）を使用します。

他のホスティングプラットフォームからデータを移行する

データ（ユーザアカウント、設定、ウェブサイト、メール）を、Plesk やその他のウェブホスティングソフトウェアで管理しているホスティングサーバから Parallels Plesk Panel インストールに転送することができます。移行が失敗した場合に、移行タスクのログフィールドで失敗の理由を簡単に確認できるようになりました。

データ転送がサポートされているウェブホスティングプラットフォームの完全なリストは、<http://www.parallels.com/products/plesk/resources/> で『**Migration Guide**』を参照してください。

重要： Windows ベースのサーバからデータを転送する前に、Parallels Panel 移行マネージャエージェントインストーラを [ツールと設定] > [移行マネージャ] から入手する必要があります。

➤ ユーザアカウントとウェブサイトを他のホスティングサーバのアプリケーションで転送するには：

1. [ツールと設定] > [移行マネージャ] に進みます。
2. [新しい移行を開始する] をクリックします。
3. [別のサーバからデータを転送する] オプションはオンのままにして、次に挙げるオプションを指定します。
 - 転送元サーバのアドレスとポート番号（Linux/Unix システム）。転送したいデータが保存されているサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。転送元ホストが IPv6 アドレス上にある場合、IP アドレスの代わりにサーバのホスト名を指定する必要があります。
 - 転送元サーバへのログインに使用する管理者のユーザ名とパスワード。

注： [移行エージェントが処理済みであり、ローカルホストにあるデータを転送する] オプションを使用することにより、「ファイルからデータをインポートする」（216 ページ）セクションの説明に従ってファイルからデータをインポートできます。これはもう 1 つのデータ転送方法です。転送元サーバがオフライン状態であり、過去にこのサーバからデータを収集したことがある場合に使用できます。

4. Parallels Plesk Panel for Linux を使用している場合、移行エージェントのアップロード先として、転送元サーバ上のディレクトリを指定することもできます。
5. 一時ファイルを保管するディレクトリへのパスを指定します。

6. 転送元サーバから、ユーザアカウントおよびドメインに関連するすべてのデータを転送するか、または特定のアイテムのみ転送するかを指定します。
7. 転送元サーバの一部のオブジェクト（ユーザアカウント、ドメインなど）が転送先サーバ上にすでに存在する場合、**「既存オブジェクトを置換」** チェックボックスをオンにして置換することができます。
8. 転送元サーバと転送先サーバがLinuxベースである場合、**「rsyncトランスポートを使用する」** オプションをオンにすると、移行中に転送元サーバと転送先サーバで使用されるディスク容量を節約することができます。

いずれかのサーバのディスク要領に制約がある場合は、これは非常に重要です。

9. **「次へ」** >> をクリックします。移行マネージャは、指定されたサーバへ接続し、転送元ホスティングプラットフォームのビジネスオブジェクトに関する情報を収集します。
10. Parallels Plesk Panel 以外のホスティングプラットフォームからデータを転送する場合は、使用する移行エージェントのバージョンを選択して **「次へ >>」** をクリックします。Parallels Plesk Panel によって適切なエージェントバージョンが自動的に選択されますが、データ転送が失敗した場合は、他のバージョンの移行エージェントを選択することもできます。
11. 個別アイテムのみ転送することを選択した場合は、転送したいユーザアカウントとウェブサイトに対応するチェックボックスをオンにしてください。移行元サーバと移行先サーバの両方に存在するオブジェクトが Panel に表示されます。また、転送するデータのタイプを指定します。
 - すべての設定とコンテンツ。
 - メール以外のすべての設定とコンテンツ。
 - メールメッセージのあるメールアカウントのみ。

サーバ全体を移行する場合、移行元の Panel ライセンスも移行するか否かを指定することができます。

12. **「次へ >>」** をクリックします。

13. 転送元サーバからデータを取得したら、使用する新しいIPアドレスを指定します。IPアドレスが大量にある場合は、この段階で、現行のIPマッピングファイルをダウンロードし、それをテキストエディタまたは独自の検索および置換スクリプトで修正して、サーバに再びアップロードします。

IP マッピングファイルの構文を以下の例に示します。

```
10.10.10.10 192.168.1.2
```

ここで、10.10.10.10 は転送元サーバの IP アドレス、192.168.1.2 は転送先サーバで使用する新しい IP アドレスです。2つの IP アドレスの間に、スペースを1つ挿入します。アドレスリストを作成する際は、マッピングエントリを1行に1つだけ記入します。

14. **「次へ >>」** をクリックします。データ転送プロセスがただちに開始されます。

ファイルからデータをインポートする

データを別のサーバからオンラインで転送する場合、Parallels Plesk Panel のマイグレーションマネージャ機能の使用に加えて、マイグレーションマネージャ ユーティリティを使用して転送元サーバから転送するデータを収集し、アーカイブファイルとして保管して、これらのデータを宛先サーバにインポートすることができます。

- Windows ベースのホスティングサーバにあるデータを収集するには、migration-agent.msi プログラムをインストールして使用する必要があります。マイグレーションエージェントプログラムのインストールについては、<http://www.parallels.com/jp/products/plesk/resources/> にある『Migration Guide』を参照してください。転送元サーバにマイグレーションエージェントをインストールしたら、「Windows ベースのサーバからデータをインポートする」（218ページ）のセクションで説明しているデータのインポートに進むことができます。
- Linux/Unix ベースのサーバ上のデータを収集するには、PleskX.pl コマンドラインユーティリティを使用する必要があります。このユーティリティは通常、Linux/Unix ベースのサーバでは
`<parallels_panel_installation_directory>/PMM/Agents/PleskX/` に、Windows ベースのサーバでは
`<parallels_panel_installation_directory>%PMM%Migration%Platforms%UnixShared%PleskX%` にあります。この手順は、「Linux/Unix ベースのサーバからデータをインポートする」（217ページ）のセクションを参照してください。

Linux/Unix ベースのサーバからデータをインポートする

➤ データインポート機能を使用してデータを転送するには：

1. Parallels Plesk Panelサーバで以下のフォルダを探し、フォルダ内のすべてのファイルを、サーバ上の単一のディレクトリにコピーします。このディレクトリからデータが転送されます。
 - Windows プラットフォームの場合は、次のフォルダにあるファイルをすべてコピーします。
`C:\Program Files\Parallels\Plesk\PM\Migration\Platforms\UnixShared\PleskX` および `C:\Program Files\Parallels\Plesk\PM\Migration\Platforms\UnixShared\shared`
 - Linux/Unix プラットフォームの場合は、次のフォルダにあるファイルをすべてコピーします。
`<parallels_panel_installation_directory>/PM/Agents/PleskX/`
 および
`<parallels_panel_installation_directory>/PM/Agents/shared。`
2. 転送元サーバで、`PleskX.pl`ユーティリティを適切なコマンドラインオプションで実行します。
 - 全データのコピーを作成するには、次のコマンドを実行します

```
# PleskX.pl -dump-all -
```
 - 特定のドメインのコピーを作成するには、次のコマンドを実行します

```
# PleskX.pl -dump-domains=<ドメイン名のコンマ区切りリスト>
```
 - 特定のユーザアカウントのコピーを作成するには、次のコマンドを実行します

```
# PleskX.pl -dump-resellers=<転送元の Parallels Panel システムによって割り当てられたリセラー ID のコンマ区切りリスト>
```

または

```
# PleskX.pl -dump-clients=<転送元の Parallels Panel システムによって割り当てられたクライアント ID のコンマ区切りリスト>
```
 - PleskX ユーティリティがサポートしている追加コマンドラインオプションを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# PleskX.pl --help
```
3. 必要なファイルがすべて作成されたら、ファイル`content-list.xml`を開いて、どのファイルが作成されたか確認します。`dump.xml`を含むこれらのファイルをすべて、宛先サーバに移動します。
4. ウェブブラウザでサーバ管理パネルに管理者としてログインし、[ツールと設定] > [移行マネージャ]に進み、[移行を開始する]をクリックします。

5. [移行エージェントが処理済みであり、ローカルホストにあるデータを転送する] オプションをオンにします。
6. [移行データファイルの場所] ボックスに、ステップ3でデータを保存したディレクトリへのパスを入力します。
7. [次へ >>] をクリックします。

指定したディレクトリに、転送元ホストのビジネスオブジェクトに関する情報が記載された XML ファイルがある場合、データのインポートが開始されます。

Windows ベースのサーバからデータをインポートする

Windows ベースのサーバからオンラインでデータを転送しようとして、データ転送が失敗した場合、これらのデータのインポートを試行することができます。データの収集に成功すると、送信先サーバの一時フォルダ（前回の試行時に Parallels Plesk Panel に指定したフォルダ）にこれらのデータが格納されています。

➤ データインポート機能を使用してデータを転送するには：

1. サーバ管理パネルに管理者としてログインし、[ツールと設定] > [移行マネージャ] に進み、[移行を開始する] をクリックします。
2. [移行エージェントが処理済みであり、ローカルホストにあるデータを転送する] オプションをオンにします。
3. [移行データファイルの場所] ボックスに、前回試行したときにデータを保存した一時ディレクトリへのパスを入力します。

例：C:\temp

4. [次へ >>] をクリックします。

指定したディレクトリに、転送元ホストのビジネスオブジェクトに関する情報が記載された XML ファイルがある場合、データのインポートが開始されます。

Panel のアップデートおよびアップグレード

Panel は毎晩アップデートを確認し、使用可能なアップデートがあれば、それらを自動的にダウンロードしてインストールします。デフォルト設定は以下の通りです。[設定] > [サーバ設定] で、[アップデートを自動的にダウンロードしてインストールする] チェックボックスはオンになっています。

Panel の新しいバージョンがある場合は、[ホーム] ページの画面上部に [今すぐアップグレード] リンクが表示されます。

Panel がアップデートを自動的にダウンロードしてインストールしないようにするには、[設定] > [サーバ設定] に進み、[アップデートを自動的にダウンロードしてインストールする] チェックボックスをオフにします。これにより、使用可能なアップデートがある場合、[ホーム] ページの画面上部にアラートが表示され、以下のリンクが表示されます。

- **アップデートの詳細を表示**：アップデートをインストールする前に情報を確認する場合は、ここをクリックします。
- **今すぐアップデートまたは今すぐアップグレード**：[今すぐアップデート] リンクは、使用している製品バージョンにアップデートがあるときに表示されます。新しいバージョンへのアップグレードが可能であれば、[今すぐアップグレード] リンクが表示されます。実行する操作のリンクをクリックします。

アップデートのインストールを選択すると、必要なソフトウェアアップデートとパッケージがすべてインストールされます。

新しいバージョンへアップグレードする場合は、インストールする製品バージョンとコンポーネンを選択するように指示されます。

失敗した場合は、トラブルシューティングに必要な情報を含んだログファイルへのリンクがパネルに表示されます。ソフトウェアのアップデートまたはアップグレードで問題が発生した場合は、Parallels サポート担当へ連絡してこのログファイルを送信してください。

- **後でアップデート**：今はアップデートを何もインストールしない場合は、このリンクをクリックします。次に新しいアップデートが使用可能になるまで、Parallels Panel にはアラートテキストとリンクが表示されません。

これらのリンクを使用する以外に、以下のステップを使用して Panel をアップデートまたはアップグレードできます。

1. Panel で、[ツールとユーティリティ] > [アップデート]（[Panel] グループ内）に進みます。新しいブラウザウィンドウまたはタブが開きます。
2. インストールするアップデート（または新しいバージョンの Panel）のチェックボックスをオンにして、[続行する] をクリックします。
3. アップデートが終了したら、[OK] をクリックします。

アップデート処理についての注意事項：

- コントロールパネルのバージョンを新しいバージョンにアップグレードする場合、アップグレード処理の開始と終了がメールで通知されます。アップグレードが成功すると、通知メッセージにはイベントログとインストールされたパッケージのリストが含まれます。ただし、メールサーバに不具合が生じてエラーメッセージは送信されません。この場合、サーバのハードドライブ上の /tmp ディレクトリにある autoinstaller.log ファイルでエラー内容を確認できます。
- コントロールパネルの主な機能に影響を与える「基本」パッケージをインストールしている間は、コントロールパネルのすべての操作が一時停止されます。
- バージョン 10.3 以降、代替コンポーネントバージョン（PHP 5.3、MySQL 5.5 など）を【アップデート】ページからインストールできる機能が Panel に追加されました。
- アップグレード後に、新しいライセンスキーをインストールする必要がある場合、「ライセンスキーをアップグレードする（ページ 73）」のセクションを参照してください。ライセンスキーのインストールで問題が発生した場合、Parallels テクニカルサポート (<http://www.parallels.com/contact/>) に連絡してください。

アップデータ設定を変更する

デフォルトで、Parallels Plesk Panel および OS へのアップデートはオフィシャルアップデートサーバ (<http://autoinstall.plesk.com>) からダウンロードします。

➤ ネットワーク内の他の場所から Parallels Plesk Panel アップデートを受信するには :

1. [ツールと設定] > [アップデート] に進みます。新しいブラウザウィンドウまたはタブで、アップデータが開きます。
2. 現時点では設定のみを変更したい場合、アップデータによりアップデートのダウンロードが自動的に開始されたら、[キャンセル] をクリックします。
3. [ソースおよびインストール設定のアップデート] をクリックして、アップデートパッケージのソースを指定します。
 - デフォルトでは「**オフィシャル Parallels アップデートサーバ**」が選択されています。インストールファイルの格納場所を指定します。初期設定では、インストールファイルはすべて `/root/parallels` ディレクトリに格納されます。
 - ミラーサーバを選択した場合は、[.inf3 ファイルのあるディレクトリへの URL] に .inf3 ファイルの場所を指定します。インストールファイルの格納場所を指定します。初期設定では、インストールファイルはすべて `/root/parallels` ディレクトリに格納されます。
 - ローカルメディアを選択した場合は、[.inf3 ファイルへの絶対パス] フィールドに .inf3 ファイルの場所を指定します。
4. プロキシサーバを使用している場合は、[プロキシを使用して接続] チェックボックスをオンにして以下の設定を指定します。
 - [プロキシアドレスおよびポート] フィールドに、プロキシホスト名およびポート番号を指定します。
 - このプロキシサーバで認証が必要な場合、[認証が必要] チェックボックスをオンにして、ユーザ名とパスワードを指定します。
5. [保存] をクリックして設定を保存します。

インストールとアップグレードでの問題を報告する

Panel のインストールやアップグレード中に、Parallels インストーラは発生したすべての問題を収集し、これを Parallels に送信します。これらのレポートには、個人情報や機密情報は一切含まれていません。Parallels の技術エキスパートがこれらの問題を解析および解決し、将来的なインストールとアップグレードの信頼性向上に務めます。

Parallels インストーラで Parallels に問題を送信するか否かは、お客様が選択できます。インストーラは、初回インストール時またはアップグレード時にお客様の意思を質問し、それ以降 Panel の使用中はこの設定を記憶しておきます。Parallels へのレポート送信を停止するには、次のオプションを指定してインストーラを実行してください。

```
<Parallels インストーラのフルパス> --disable-feedback
```

また、レポートの送信を開始するには、以下のオプションを使用します。

```
<Parallels インストーラのフルパス> --enable-feedback
```

Customer & Business Manager を使用する

Customer & Business Manager (以降「Business Manager」) は、お使いの Parallels Plesk Panel パッケージにバンドルされた課金ソリューションです。Parallels Plesk Panel のインストール前または後に、追加コンポーネントとしてインストールできます。

Business Manager により、次のようにして新しい顧客の登録、プロビジョニング、課金のプロセスがシンプルになります。

1. Business Manager で、提供するサービスに応じたサービスプランをセットアップし、このプランをオンラインストアに追加して、ウェブサイトストアを統合します。
2. サイトの訪問者は、任意のホスティングプランを選択し、サービスを契約します。
3. Business Manager によって注文が処理されます。支払いの入金後、Parallels Plesk Panel にユーザアカウントと契約がセットアップされ、新しい顧客にメールで通知されます。
4. 顧客は Panel にログインし、契約で提供されるウェブホスティング、メール、その他のサービスの使用を開始します。
5. 請求期間満了日の数日前に、アカウントの残高と支払い期日を通知する請求書が Business Manager から顧客に送信されます。期日になると、Business Manager が顧客のクレジットカードまたは銀行口座に対して（あるいは、設定に応じてその他の集金方法で）請求を行います。

自動プロビジョニングや課金に加え、Business Manager には次のような利点があります。

- 支払いシステム、ドメイン名レジストラ、SSL 証明書を発行する認証局との統合をサポート。
- オンラインストアをカスタマイズ可能。
- 欧州連合が域内で営業するストアに課す要件に準拠。

Business Manager の構成を始める場合、『Parallels Plesk Panel 10.3 Quick Start Guide to Customer and Business Manager』を参照してください。

Business Manager のより詳しい使用方法は、『Parallels Customer and Business Manager Administrator's Guide』を参照してください。

Business Manager をインストールすると、Panel のナビゲーションペインに一連のコントロール機能が追加されます。これらのコントロールとその説明については、「**Panel 内の Business Manager ナビゲーションメニュー**」(225ページ)のセクションを参照してください。いずれのコントロールでも、Business Manager の特定のページが同じウィンドウで開きます。Panel に戻るには、Business Manager ナビゲーションペインの上部にある「**Parallels Panel に戻る**」ボタンをクリックしてください。

顧客に対する課金をセットアップするには、Panel のプラン、顧客、契約を Business Manager に追加します。この方法については、「**Panel のプラン、顧客アカウント、契約を Business Manager に追加する**」(229ページ)のセクションを参照してください。追加が完了すると、追加されたオブジェクトのページに、Business Manager のコントロール機能が表示されるようになります。これらのコントロール機能については、「**リンクされたオブジェクト用の Business Manager コントロール**」(227ページ)のセクションで説明します。

Panel 内の Business Manager ナビゲーションメニュー

Business Manager をインストールすると、Business Manager の管理画面へのリンクが Panel のナビゲーションペインに追加されます。以下の表は、これらのリンクとヘルプ参照先を示します。

名前	説明	ヘルプリンク
[ビジネスオペレーション]メニュー	顧客アカウントとサービス契約の管理用のリンクが含まれます。	
顧客	顧客アカウントを追加、一時停止、削除する。顧客の課金情報およびお問い合わせ情報を変更する。請求書の準備。支払いの集金。	顧客を管理する
契約	サービス契約のプロパティの表示および変更。アップグレードまたはダウングレードにより、他のサービスプランに契約を移動。	契約を管理する
請求書	顧客アカウントに対する請求書の表示。	請求書と支払いを管理する
To-do アイテム	注意や対応が必要なアイテムの表示。	
[ビジネスのモニタリング]メニュー	アカウントレポートの表示や、請求書と支払の処理を行うためのリンクが含まれます。	
会計	会計レポートの表示。	会計レポートを生成する
支払い	支払いオペレーションのモニタリングと完了。	トランザクションリストを表示する
イベント	実行予定のシステムタスクの表示および管理。	イベントを理解する
レポート	注文、契約、支払い、取引、請求に関するレポートの表示。	
メールアドレス	自動送信されたメールのリストを表示、必要に応じた再送信。	自動メールをセットアップする

【ビジネスセットアップ】メニュー	顧客にサービスを提供できるようにビジネスマネージャをセットアップするためのリンクが含まれます。	
プラン	顧客にサービスをプロビジョニングするために、サービスプランをセットアップおよび管理する。	プランとアドオン
オンラインストア	顧客がプランを契約する場所となるオンラインストアの作成および管理。	オンラインストアを管理する
ディスカウントとプロモーション	プランのプロモーション用の割引とプロモーションのセットアップ。	クーポンと割引でプランのプロモーションを行う
すべての設定	ビジネスマネージャのセットアップ全般と、顧客へのサービス提供の準備。	Business Manager を使い始める

リンクされたオブジェクト用の Business Manager コントロール

（ナビゲーションペインの【ホスティングサービス】グループで【顧客】リンクをクリックすると開く）顧客アカウントのリストには、それぞれの顧客レコードに対応する【ビジネスマネージャ】リンクが用意されています。顧客アカウントの管理、課金情報およびお問い合わせ情報の変更、請求または集金の準備などを行うには、これらのリンクをクリックしてください。詳しくは、Parallels Customer and Business Manager 管理者ガイドで「顧客を管理する（Administering Customers）」のセクションを参照してください。

（ナビゲーションペインの【ホスティングサービス】グループで【顧客】リンクをクリックし、顧客名をクリックすると開く）顧客アカウント管理ページには、次のリンクが用意されています。

名前	説明	ヘルプリンク
課金の詳細	顧客の支払い、請求書、購入したサービスに関する概要情報を表示する。顧客アカウントを一時停止またはキャンセルする。	顧客を管理する
請求書	顧客のアカウントに対する請求を表示する。	請求書を管理する
支払履歴	顧客の支払い履歴を表示する。	アカウントの合計を表示する
未払いの請求書を作成する（【その他のビジネスオペレーション】メニュー）。	未払いの請求書をオンデマンドで作成する。	請求書を手動で生成する
請求書の作成（【その他のビジネスオペレーション】メニュー）	一度限りの請求用にカスタム請求書を作成する。	カスタムの一度限りの請求書を追加する
貸方（【その他のビジネスオペレーション】メニュー）	顧客アカウントに資金をデポジットする（貸方を追加する）。	顧客アカウントに貸方を追加する
課金アカウント（【その他のビジネスオペレーション】メニュー）	顧客へのサービスの請求に使用する課金アカウントを表示、追加、削除する。	課金アカウントおよび詳細を管理する

契約のリスト（ナビゲーションペインの【ホスティングサービス】グループで【契約】リンクをクリックすると開く）には、それぞれの契約に対応する【ビジネスマネージャ】リンクが用意されています。サービス契約のプロパティを表示および変更するか、アップグレードまたはダウングレードにより他のサービスプランを契約に割り当てるには、これらのリンクをクリックしてください。詳しくは、Parallels Customer and Business Manager 管理者ガイドで「契約を管理する」のセクションを参照してください。

契約管理ページ（ナビゲーションペインの【ホスティングサービス】グループで【契約】リンクをクリックし、契約に関連するドメイン名をクリックすると開く）には、次のリンクが用意されています。

名前	説明	ヘルプリンク
課金の詳細	契約プロパティを表示および変更する。契約をアップグレードまたはダウングレードする。アドオンを管理する。契約を他の顧客に移管する。一時停止または削除する。	契約の詳細
アップグレード	契約を他のサービスプランにアップグレードすることにより、契約に追加のリソースを割り当てる。	契約をアップグレードまたはダウングレードする
ダウングレード	契約を他のサービスプランにダウングレードすることにより、割り当てられたリソースを減らす。	
アドオン	契約に関連付けられたプランアドオンを変更する。	アドオンをプロパティ付きで表示する

ホスティングプランのリスト（ナビゲーションペインの【ホスティングサービス】グループで【サービスプラン】リンクをクリックすると開く）には、それぞれのプランに対応する【ビジネスマネージャ】リンクが用意されています。ホスティングプランの設定を表示および変更するには、これらのリンクをクリックします。詳しくは、Parallels Customer and Business Manager 管理者ガイドの「プラン設定を管理する」の章を参照してください。

重要： Parallels Plesk Panel で Business Manager を使用する場合、ホスティングプランの作成と管理は必ず Business Manager で行ってください。Business Manager 以外で行うと、顧客に課金されなくなります。

Business Manager で新しいホスティングプランをセットアップする方法について詳しくは、Parallels Customer and Business Manager 管理者ガイドの「プランを作成する」の章を参照してください。リセラープランとリセラーアカウントの処理は、現時点では Business Manager ではサポートされていません。

契約、プラン、顧客アカウントをビジネスマネージャに追加する

まず Panel をインストールしてから、後日 Business Manager をインストールしてビジネスオペレーションを自動化するためには、まず既存の契約を Business Manager に追加してください。この作業は、ビジネスマネージャ以外の課金ソリューションを Panel で使用しており、Business Manager に切り替えることを決めた場合にも必要です。これらの場合には、Business Manager で管理する契約がすでに存在します。

契約の追加方法は、契約とサービスプランおよび顧客アカウントとの関係に応じて難しくなります。システムが適切に機能するようにするためには、関連するオブジェクトをシステムに追加する必要があります。まず、プランを追加してから、アカウントを追加し、最後に契約を追加します。この手順には柔軟性があり、オブジェクトを個別に追加することもできますが、プラン、顧客アカウント、契約という順番は守らなければなりません。

Panel のオブジェクトを Business Manager に追加すると、これらのオブジェクトはリンクされます。リンクを行うと、Business Manager のオブジェクトのプロパティに加えたすべての変更が、対応する Panel のオブジェクトにも適用されるようになります。オブジェクトを追加する前に、Business Manager は、このオブジェクトが Business Manager に存在しないか照合します。一致するオブジェクトが見つかった場合は、これら2つのオブジェクトがリンクされます。一致するオブジェクトが見つからなかった場合は、Business Manager がオブジェクトを新規作成してリンクします。

照合は、次のようなアルゴリズムで行われます。

- プランは、名前が同じであれば「一致」とみなされます。
- 顧客アカウントは、連絡先名とメールアドレスが同じであれば「一致」とみなされます。
- 契約は、サービスプランと契約者アカウントが同じであれば「一致」とみなされます。

Panel のオブジェクトをビジネスマネージャに追加するには、追加するオブジェクトのリストがあるページで **【ビジネスマネージャに追加】** ボタンを押してください（**【ホスティングサービス】** グループの **【サービスプラン】**、**【顧客】**、または **【契約】** アイテム）。

Business Manager にオブジェクトを追加する前に、以下を確認してください。

- ビジネスマネージャに追加する顧客アカウントで、**電話番号**と**住所**のフィールドに値が入力されている必要があります。Panel アカウントを Business Manager に追加するためには、これらのフィールドへの入力が必要です。
- 追加するアカウントに、**会計担当者**の役割を持つ代替ユーザアカウントがある場合、Panel はこれらの代替ユーザも追加します。これらのユーザに該当するアカウントがビジネスマネージャに存在しない場合は、新たに作成され、そのパスワードはランダムに作成されてメールで送信されます。

- 顧客アカウントをリンクすると、Business Manager のアカウントのパスワードが Panel のアカウントにも割り当てられます。

第 11 章

メール一括通知

スケジュールされているサーバメンテナンスを顧客に通知したり、新たに追加されたサービスを紹介するには、一括メール機能（[ツールと設定] > [一括メールメッセージ]）を使用してすべての顧客にメールを一括送信できます。

必要に応じてメッセージのテンプレートを作成して使用したり、テンプレートを使用しないでメッセージを送信することもできます。

この章では以下について説明します。

- 将来的に使用する一括テンプレートを作成する
- 複数の顧客にメールを送信する

メッセージテンプレートを作成、編集、および削除する

➤ 新しいメッセージテンプレートを作成するには：

1. [ツールと設定] > [一括メールメッセージ]（[ツール] グループ内）に進み、[一括メールテンプレートを追加する] をクリックします。
2. [テンプレート名] フィールドにテンプレート名を指定します。
3. [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定します。

名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、「名前 <your@e-mail.address>」というフォーマットを使用してください。例えば、John Doe <admin@server.com>」のように入力します。

4. メールメッセージの受信者を選択します。
 - リセラーにメッセージを送信する場合、[リセラー] チェックボックスをオンにして、必要な受信者を選択します。[すべて] の場合はすべてのリセラーに、[選択のみ] の場合は手動で選択したクライアントのみに、[選択以外すべて] の場合は手動で選択したリセラー以外のすべてのリセラーに、メッセージが送信されます。
 - 複数のリセラーを選択するには [リセラー] チェックボックスの右側の [アドレスを選択する] をクリックし（このボタンは [すべて] 選択時には無効）、[選択可能なリセラー] フィールドでリセラーを選択して [追加 >>] をクリックします。選択したリセラーのリストからリセラーを削除するには、対象となるリセラーを [選択されたリセラー] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
 - 顧客にメッセージを送信する場合、[顧客] チェックボックスをオンにして、必要な受信者を選択します。[すべて] の場合はすべての顧客に、[選択のみ] の場合は手動で選択した顧客のみに、[選択以外すべて] の場合は手動で選択した顧客以外のすべての顧客に、メッセージが送信されます。
 - 複数の顧客を選択するには [顧客] チェックボックスの右側の [アドレスを選択する] をクリックし（このボタンは [すべて] 選択時には無効）、[選択可能な顧客] フィールドでリセラーを選択して [追加 >>] をクリックします。選択した顧客のリストから顧客を削除するには、対象となる顧客を [選択された顧客] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
 - 受信者の選択状況は、[選択内容を表示/非表示] ボタンをクリックしていつでも確認できます。
 - メッセージのコピーを自分のメールボックスに送信するには、[Parallels Panel 管理者] チェックボックスをオンにします。
5. [件名] フィールドにメッセージの件名を指定します。

6. [メッセージテキスト] フィールドにメッセージを平文フォーマットで入力します。
受信者名をメッセージに自動挿入するには、<name>変数を使用してください。
[連絡先] フィールドで指定した情報から、名前が取得されます。
7. [OK] をクリックしてテンプレートを保存します。

➤ **メッセージテンプレートを編集するには：**

1. [ツールとユーティリティ] > [一括メールメッセージ]（[ツール] グループ内）に進み、リストで必要なテンプレートをクリックします。
2. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。

➤ **メッセージテンプレートを削除するには：**

1. [ツールと設定] > [一括メールメッセージ]（[ツール] グループ内）に進みます。
2. 削除するメッセージテンプレートに対応するチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
3. 削除を確認して [OK] をクリックします。

メール通知を送信する

➤ 複数の顧客にメールメッセージを一括送信するには：

1. [ツールと設定] > [一括メールメッセージ]（[ツール] グループ内）に進みます。
2. 既に作成したメッセージテンプレート（「メッセージテンプレートを作成、編集、削除する」『ページ232』）を使用するには、[送信] 列で対応するアイコンをクリックしてください。カスタムメッセージを送信するには、[一括メールを送信する] をクリックします。
3. テンプレートからテキストを挿入するには、必要なテンプレートを選択して [挿入] をクリックします。
4. [送信元] フィールドに送信者の名前とメールアドレスを指定します。
名前またはメールアドレス、もしくは両方を指定できます。名前とメールアドレスの両方を指定するには、「名前 <your@e-mail.address>」というフォーマットを使用してください。例えば、John Doe <admin@server.com> のように入力します。
5. メールメッセージの受信者を選択します。
 - リセラーにメッセージを送信する場合、[リセラー] チェックボックスをオンにして、必要な受信者を選択します。[すべて] の場合はすべてのリセラーに、[選択のみ] の場合は手動で選択したクライアントのみに、[選択以外すべて] の場合は手動で選択したリセラー以外のすべてのリセラーに、メッセージが送信されます。
 - 複数のリセラーを選択するには [リセラー] チェックボックスの右側の [アドレスを選択する] をクリックし（このボタンは [すべて] 選択時には無効）、[選択可能なリセラー] フィールドでリセラーを選択して [追加 >>] をクリックします。選択したリセラーのリストからリセラーを削除するには、対象となるリセラーを [選択されたリセラー] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
 - 顧客にメッセージを送信する場合、[顧客] チェックボックスをオンにして、必要な受信者を選択します。[すべて] の場合はすべての顧客に、[選択のみ] の場合は手動で選択した顧客のみに、[選択以外すべて] の場合は手動で選択した顧客以外のすべての顧客に、メッセージが送信されます。
 - 複数の顧客を選択するには [顧客] チェックボックスの右側の [アドレスを選択する] をクリックし（このボタンは [すべて] 選択時には無効）、[選択可能な顧客] フィールドでリセラーを選択して [追加 >>] をクリックします。選択した顧客のリストから顧客を削除するには、対象となる顧客を [選択された顧客] フィールドで選択し [<< 削除] をクリックします。
 - 受信者の選択状況は、[選択内容を表示/非表示] ボタンをクリックしていつでも確認できます。

- メッセージのコピーを自分のメールボックスに送信するには、**[Parallels Panel 管理者]** チェックボックスをオンにします。
6. **【件名】** フィールドにメッセージの件名を指定します。
 7. **【メッセージテキスト】** フィールドにメッセージを平文フォーマットで入力します。Parallels Plesk Panelによって自動的に受信者名をメッセージに含めるには、`<name>` 変数を使用してください。**【連絡先】** フィールドで指定した情報から、名前が取得されます。
 8. 今後使用するテンプレートとしてこのメッセージのテキスト本文と受信者情報の両方を保存するには、**【テキストを新しい新しいテンプレート名で保存する】** フィールドの左側のチェックボックスをオンにして、フィールドにテンプレート名を指定してください。
 9. **【OK】** をクリックしてメッセージを送信します。メッセージの内容をテンプレートとして保存することを選択した場合、テンプレートが作成され、選択可能なテンプレートのリストに追加されます。

イベントトラッキングメカニズムを使用する

イベントマネージャを使用して、Parallels Plesk Panel と外部システムの間でのデータの受送信を管理できます。イベントマネージャは、次のように機能します。

1. 特定のコントロールパネルイベントの発生時に実行するスクリプトを作成します。Linux の場合は Shell スクリプト、Windows の場合はバッチファイルです。
2. イベント処理をトリガするイベントハンドラを作成します。複数のハンドラで単一のイベントを処理することができます。
3. スクリプトをイベントハンドラに割り当てます。

Linux ホスティングユーザに対する注意事項： サーバ管理者は root ユーザに代わってサーバ上で実行可能なイベントハンドラを作成できます。root アカウントの使用を制限するには、`root.event_handler.lock` という空ファイルを `/parallels_plesk_panel_installation_directory/var/` に作成します。

イベントハンドラを追加する (Linux)

例えば、「顧客アカウントの作成」イベントのイベントハンドラを作成してみます。ハンドラは、環境変数から Panel 内の顧客名とユーザ名を取得します。説明を簡単にするために、以下のような `test-handler.sh` と呼ばれるシェルスクリプトを使用します。

```
#!/bin/bash

echo "-----" >> /tmp/event_handler.log

/bin/date >> /tmp/event_handler.log # イベント日時の情報

/usr/bin/id >> /tmp/event_handler.log # 実行されたスクリプト
に関するユーザ情報 (制御のため)

echo "customer created" >> /tmp/event_handler.log # 作成された顧客ア
ccountに関する情報

echo "name:${NEW_CONTACT_NAME}" >> /tmp/event_handler.log # 顧
客の名前

echo "login:${NEW_LOGIN_NAME}" >> /tmp/event_handler.log #
Panel における顧客のユーザ名

echo "-----" >> /tmp/event_handler.log
```

このスクリプトはファイルにある情報をプリントし、その実行を制御します（スクリプトはバックグラウンドモードで実行されるため、`stdout/stderr` には情報を出力できません）。

注： shell スクリプトファイルを使用してイベントを処理することを推奨します。直接システムコマンドを割り当てることもできますが、このようなコマンドは機能しません。つまり、出力リダイレクト演算子 `<` または `>` のあるコマンドは機能しません。

例えば、使用するスクリプトがディレクトリ

`/parallels_panel_installation_directory/bin` にあると仮定します。コントロールパネル経由でイベントハンドラを作成し、このスクリプトを登録します。

1. [ツールと設定] > [イベントマネージャ] に進みます。
2. [新しいイベントハンドラの追加] をクリックします。
3. [イベント] メニューで、ハンドラを割り当てるイベントを選択します。
4. ハンドラの実行の優先順位を選択するか、カスタム値を指定します。これを行うには、[優先度] メニューで [カスタム] を選択して値を入力します。
複数のハンドラを 1 つのイベントに割り当てる場合、優先度を変更して（値を高くすると優先度も高くなる）ハンドラの実行シーケンスを指定できます。

5. ハンドラを実行するシステムユーザを選択します（例えば、「root」ユーザ）。
6. [コマンド] 入力フィールドに、選択したイベントで実行するコマンドラインを指定します。この例では `/usr/local/psa/bin/test-handler.sh` です。
7. [OK] をクリックします。

注：スクリプトでは、変数 `$NEW_CONTACT_NAME` および `$NEW_LOGIN_NAME` を指定しました。ハンドラの実行中、これらの変数はそれぞれ、作成されたユーザアカウントの名前とユーザ名に置き換えられます。利用可能なすべての変数のリストは、「イベントハンドラに指定するイベントパラメータ（240ページ）」のセクションを参照してください。

Parallels Plesk Panel にログインし、新規顧客アカウントを作成するときに、[連絡先] フィールドに「Some Client」、[ログイン] フィールドに「some_client」という値を指定してハンドラを呼び出すと、以下のレコードが `/tmp/event_handler.log` に追加されます。

```
Fri Mar 16 15:57:25 NOVT 2007

uid=0(root) gid=0(root) groups=0(root)

customer created

name:Some Customer

login:some_customer
```

1つ以上のハンドラを指定する場合は、他のハンドラについても上記のアクションを繰り返してください。

イベントハンドラを追加する（Windows）

➤ イベントハンドラを追加するには：

例えば、「顧客アカウントの作成」イベントのイベントハンドラを作成してみます。ハンドラは、最初のパラメータで顧客名を受け取り、2番目のパラメータで顧客のユーザ名を受け取ります。説明を簡単にするために、以下のような `test-handler.bat` というバッチファイルを使用します。

```
echo "-----" >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem 情報（イベント日時）
date /T >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem information on the created customer account
echo "customer created" >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem customer's name
echo "name:%1" >> c:\windows\temp\event_handler.log
rem customer's username in the Panel
echo "login:%2" >> c:\windows\temp\event_handler.log
echo "-----" >> c:\windows\temp\event_handler.log
```

ファイルの実行を制御するために、このスクリプトはファイルに一部の情報をプリントします。

スクリプトがディレクトリ `c:\program files\parallels\plesk\scripts\` にあるとします。コントロールパネル経由でイベントハンドラを作成し、このスクリプトを登録します。

1. [ツールと設定] > [イベントマネージャ] に進みます。
2. [新しいイベントハンドラの追加] をクリックします。
3. [イベント] ドロップダウンボックスでハンドラを割り当てるイベントを選択します。
4. ハンドラの実行の優先順位を選択するか、カスタム値を指定します。これを行うには、[優先度] ドロップダウンリストで [カスタム] を選択して値を入力します。
複数のハンドラを1つのイベントに割り当てる場合、優先度を変更して（値を高くすると優先度も高くなる）ハンドラの実行シーケンスを指定できます。
5. ハンドラを実行するシステムユーザを選択します。
6. [コマンド] 入力フィールドに、選択したイベントで実行するコマンドラインを指定します。この例では `c:\program files\parallels\parallels panel\scripts\test-handler.bat " <new_contact_name> <new_login_name>` となります。
ディレクトリ名やファイル名にスペースが含まれている場合は、パスを引用符で囲む必要があります。
7. [OK] をクリックします。

注：コマンドでは、パラメータを角括弧付きの `<new_contact_name>` と `<new_login_name>` で指定しています。ハンドラを実行する前に、これらの変数は作成された顧客の名前とユーザ名に置き換えられます。利用可能なすべてのパラメータのリストは、「イベントハンドラに指定するイベントパラメータ（240ページ）」のセクションを参照してください。

Parallels Plesk Panel にログインし、新規顧客アカウントを作成するときに、[連絡先] フィールドに「Some Client」、[ログイン] フィールドに「some_client」という値を指定してハンドラを呼び出すと、以下のレコードが `c:\windows\temp\event_handler.log` に追加されます。

```
Mon March 15 21:46:34 NOVT 2010
customer created
name:Some Customer
username:some_customer
```

1つ以上のハンドラを指定する場合は、他のハンドラについても上記のアクションを繰り返してください。

イベントハンドラに指定するイベントパラメータ

このセクションでは、特定の Panel イベントに対してセットアップするハンドラで使用するパラメータについて説明します。

重要： パラメータの受け渡しに使用するすべての変数は、Linux システムの場合は大文字で（例：NEW_USERNAME）、Windows システムの場合は小文字で記入します（例：new_username）。

管理者情報の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
会社名	OLD_COMPANY_NAME	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	OLD_PHONE	NEW_PHONE	
ファックス	OLD_FAX	NEW_FAX	
メールアドレス	OLD_EMAIL	NEW_EMAIL	
住所	OLD_ADDRESS	NEW_ADDRESS	
市区町村	OLD_CITY	NEW_CITY	
州/県	OLD_STATE_PROVINCE	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	OLD_POSTAL_ZIP_CODE	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	OLD_COUNTRY	NEW_COUNTRY	

サービス停止

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
サービス名	OLD_SERVICE	NEW_SERVICE	必須

サービス起動

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
サービス名	OLD_SERVICE	NEW_SERVICE	必須

サービス再起動

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
サービス名	OLD_SERVICE	NEW_SERVICE	必須

IP アドレスの作成

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	必須
IP マスク	OLD_IP_MASK	NEW_IP_MASK	
インターフェース	OLD_INTERFACE	NEW_INTERFACE	
IP タイプ（共有または専用）	OLD_IP_TYPE	NEW_IP_TYPE	

IP アドレスの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	必須
IP マスク	OLD_IP_MASK	NEW_IP_MASK	
インターフェース	OLD_INTERFACE	NEW_INTERFACE	
IP タイプ（共有または専用）	OLD_IP_TYPE	NEW_IP_TYPE	

IP アドレスの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	必須

セッション設定の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
すべての Parallels Plesk Panel ユーザーに許可される非活動時間	OLD_SESSION_IDLE_TIME	NEW_SESSION_IDLE_TIME	

顧客アカウントの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ログイン名	NEW_LOGIN_NAME	必須
パスワード	NEW_PASSWORD	
連絡先	NEW_CONTACT_NAME	必須

会社名	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	NEW_PHONE	
ファックス	NEW_FAX	
メールアドレス	NEW_EMAIL	
住所	NEW_ADDRESS	
市区町村	NEW_CITY	
州/県	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	NEW_COUNTRY	

顧客アカウントの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
パスワード	OLD_PASSWORD	NEW_PASSWORD	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
会社名	OLD_COMPANY_NAME	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	OLD_PHONE	NEW_PHONE	
ファックス	OLD_FAX	NEW_FAX	
メールアドレス	OLD_EMAIL	NEW_EMAIL	
住所	OLD_ADDRESS	NEW_ADDRESS	
市区町村	OLD_CITY	NEW_CITY	
州/県	OLD_STATE_PROVINCE	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	OLD_POSTAL_ZIP_CODE	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	OLD_COUNTRY	NEW_COUNTRY	

顧客アカウントの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	必須

顧客アカウントのステータス更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
ステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	

顧客のインターフェース設定の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
ページのサイズ	OLD_LINES_PER_PAGE	NEW_LINES_PER_PAGE	
インターフェーススキン	OLD_INTERFACE_SKIN	NEW_INTERFACE_SKIN	

顧客 GUID の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
顧客タイプ	OLD_CLIENT_TYPE	NEW_CLIENT_TYPE	

ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
GUID	OLD_GUID	NEW_GUID	

リセラーアカウントの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ログイン名	NEW_LOGIN_NAME	必須
連絡先	NEW_CONTACT_NAME	必須
パスワード	NEW_PASSWORD	
会社名	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	NEW_PHONE	
ファックス	NEW_FAX	
メールアドレス	NEW_EMAIL	
住所	NEW_ADDRESS	
市区町村	NEW_CITY	
州/県	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	NEW_COUNTRY	

リセラーアカウントの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	
パスワード	OLD_PASSWORD	NEW_PASSWORD	
会社名	OLD_COMPANY_NAME	NEW_COMPANY_NAME	
電話番号	OLD_PHONE	NEW_PHONE	
ファックス	OLD_FAX	NEW_FAX	
メールアドレス	OLD_EMAIL	NEW_EMAIL	
住所	OLD_ADDRESS	NEW_ADDRESS	

市区町村	OLD_CITY	NEW_CITY	
州/県	OLD_STATE_PROVINCE	NEW_STATE_PROVINCE	
郵便番号	OLD_POSTAL_ZIP_CODE	NEW_POSTAL_ZIP_CODE	
国	OLD_COUNTRY	NEW_COUNTRY	

リセラーアカウントの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	必須

リセラーアカウントのステータス更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
ステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	

リセラーのインターフェースプリフェレンスの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	必須
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
複数のコンピュータ（またはブラウザ）からアカウントへの同時ログインが可能か	OLD_ALLOW_MULTIPLE_SESSIONS	NEW_ALLOW_MULTIPLE_SESSIONS	

インターフェース言語	OLD_INTERFACE_LANGUAGE	NEW_INTERFACE_LANGUAGE	
インターフェーススキン	OLD_INTERFACE_SKIN	NEW_INTERFACE_SKIN	

リセラーの IP プールの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
IP アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	必須
ステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	

リセラーアカウントのディスク容量上限に到達

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	必須
ディスク容量制限	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	

リセラーアカウントのトラフィック上限に到達

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	必須
トラフィック使用量の上限	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	

契約のディスク容量上限に到達

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
契約のドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須

ディスク容量制限	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	
----------	------------------------	--

契約のトラフィック上限に到達

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
契約のドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須
トラフィック使用量の上限	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	

ウェブサイトの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME	必須

ウェブサイトの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須

ウェブサイトの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME	必須

契約所有者の変更

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
契約のドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	
所有者のログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	

ウェブサイトのステータス更新

このイベントは、契約のメインサイトに対してはトラッキングできません。追加ウェブサイトのトラッキングのみ可能です。

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ウェブサイトのドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
ウェブサイトのステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	

ドメイン DNS ゾーンの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須

ウェブサイト GUID の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
グローバル意識別子 (GUID)	OLD_GUID	NEW_GUID	必須

サブドメインの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
サブドメイン名	OLD_SUBDOMAIN_NAME	NEW_SUBDOMAIN_NAME	必須
親ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
FTP アカウントログイン	OLD_SYSTEM_USER_TYPE	NEW_SYSTEM_USER_TYPE	
サブドメイン所有者のログイン名	OLD_SYSTEM_USER	NEW_SYSTEM_USER	
ハードディスククォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	
SSI サポート	OLD_SSI_SUPPORT	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP サポート	OLD_PHP_SUPPORT	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI サポート	OLD_CGI_SUPPORT	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl サポート	OLD_MOD_PERL_SUPPORT	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Python サポート	OLD_MOD_PYTHON_SUPPORT	NEW_MOD_PYTHON_SUPPORT	
ColdFusion サポート	OLD_COLDFUSION_SUPPORT	NEW_COLDFUSION_SUPPORT	
Apache ASP サポート	OLD_APACHE ASP_SUPPORT	NEW_APACHE ASP_SUPPORT	Linux プラットフォームのみ

ASP サポート	OLD_ASP_SUPPORT	NEW_ASP_SUPPORT	Windows プラットフォームのみ
ディスクスペース上のハードクォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	
Miva スクリプトサポート	OLD_MIVA_SUPPORT	NEW_MIVA_SUPPORT	
FastCGI サポート	OLD_MOD_FASTCGI_SUPPORT	NEW_MOD_FASTCGI_SUPPORT	
SSL サポート	OLD_SSL_SUPPORT	NEW_SSL_SUPPORT	

サブドメインの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
親ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須
サブドメイン名	OLD_SUBDOMAIN_NAME	必須

ドメインエイリアスの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメインエイリアス名	NEW_DOMAIN_ALIAS_NAME	必須
プライマリドメインとのDNS ゾーンの同期化	NEW_DNS	
ドメインエイリアスの有効化または無効化	NEW_STATUS	
ドメインエイリアスの Web サービスの有効化または無効化	NEW_DOMAIN_ALIAS_WEB	
ドメインエイリアスのメールサービスの有効化または無効化	NEW_DOMAIN_ALIAS_MAIL	
ドメインエイリアスビジターが Java の Web アプリケーションへアクセス(オンまたはオフ)	NEW_DOMAIN_ALIAS_TOMCAT	

ドメインエイリアスの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメインエイリアス名	OLD_DOMAIN_ALIAS_NAME	NEW_DOMAIN_ALIAS_NAME	必須
プライマリドメインとの DNS ゾーンの同期化	OLD_DNS	NEW_DNS	
ドメインエイリアスの有効化または無効化	OLD_STATUS	NEW_STATUS	
ドメインエイリアスの Web サービスの有効化または無効化	OLD_DOMAIN_ALIAS_WEB	NEW_DOMAIN_ALIAS_WEB	
ドメインエイリアスのメールサービスの有効化または無効化	OLD_DOMAIN_ALIAS_MAIL	NEW_DOMAIN_ALIAS_MAIL	
ドメインエイリアスビジターが Java の Web アプリケーションへアクセス(オンまたはオフ)	OLD_DOMAIN_ALIAS_TOMCAT	NEW_DOMAIN_ALIAS_TOMCAT	

ドメインエイリアスの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメインエイリアス名	OLD_DOMAIN_ALIAS_NAME	必須
ドメイン ID 番号	OLD_DOMAIN_ID	

ドメインエイリアスの DNS ゾーンの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメインエイリアス名	OLD_DOMAIN_ALIAS_NAME	NEW_DOMAIN_ALIAS_NAME	必須

リセラーアカウント制限の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	
ログイン名	OLD_LOGIN_NAME	NEW_LOGIN_NAME	必須
最大ドメイン数	OLD_MAXIMUM_DOMAINS	NEW_MAXIMUM_DOMAINS	
ディスク容量最大値	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	NEW_MAXIMUM_DISK_SPACE	
トラフィックの上限量	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	NEW_MAXIMUM_TRAFFIC	
最大 Web ユーザ数	OLD_MAXIMUM_WEBUSERS	NEW_MAXIMUM_WEBUSERS	
最大データベース数	OLD_MAXIMUM_DATABASES	NEW_MAXIMUM_DATABASES	
最大メールボックス数	OLD_MAXIMUM_MAILBOXES	NEW_MAXIMUM_MAILBOXES	
メールボックスクォータ	OLD_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	NEW_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	
最大メーリングリスト数	OLD_MAXIMUM_MAIL_LISTS	NEW_MAXIMUM_MAIL_LISTS	
最大 Java アプリケーション数	OLD_MAXIMUM_TOMCAT_WEB_APPLICATIONS	NEW_MAXIMUM_TOMCAT_WEB_APPLICATIONS	
アカウントの有効期限	OLD_EXPIRATION_DATE	NEW_EXPIRATION_DATE	

契約制限の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
ディスク容量最大値	OLD_MAXIMUM_DISK_SPACE	NEW_MAXIMUM_DISK_SPACE	
トラフィックの上限量	OLD_MAXIMUM_TRAFFIC	NEW_MAXIMUM_TRAFFIC	
Web ユーザの上限数	OLD_MAXIMUM_WEBUSERS	NEW_MAXIMUM_WEBUSERS	
最大データベース数	OLD_MAXIMUM_DATABASES	NEW_MAXIMUM_DATABASES	
最大メールボックス数	OLD_MAXIMUM_MAILBOXES	NEW_MAXIMUM_MAILBOXES	
メールボックスクォータ	OLD_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	NEW_MAXIMUM_MAILBOX_QUOTA	
最大メーリングリスト数	OLD_MAXIMUM_MAILLISTS	NEW_MAXIMUM_MAILLISTS	
Java アプリケーションの上限数	OLD_MAXIMUM_TOMCAT_WEB_APPLICATIONS	NEW_MAXIMUM_TOMCAT_WEB_APPLICATIONS	
有効期限	OLD_EXPIRATION_DATE	NEW_EXPIRATION_DATE	

Panel ユーザのログイン

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	

Panel ユーザのログアウト

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
連絡先	OLD_CONTACT_NAME	NEW_CONTACT_NAME	

メールアドレスの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
メールアドレス	NEW_MAILNAME	必須（書式： address@example.com）

メールアドレスの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
メールアドレス	OLD_MAILNAME	NEW_MAILNAME	必須（書式： address@example.com）
メールボックス	OLD_MAILBOX	NEW_MAILBOX	
パスワード	OLD_PASSWORD	NEW_PASSWORD	
メールボックスクォータ	OLD_MAILBOX_QUOTA	NEW_MAILBOX_QUOTA	
自動応答	OLD_AUTORESPONDERS	NEW_AUTORESPONDERS	

メールアドレスの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
メールアドレス	OLD_MAILNAME	必須（書式： address@example.com）

メーリングリストの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME	必須
メーリングリストのメールアドレス	NEW_MAIL_LIST_NAME	必須
メーリングリストをオンに切り替え	NEW_MAIL_LIST_ENABLED	

メーリングリストの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須
メーリングリストのメールアドレス	OLD_MAIL_LIST_NAME	必須
メーリングリストをオンに切り替え	OLD_MAIL_LIST_ENABLED	

ホスティング設定の作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME	必須
IPv4 アドレス	NEW_IP_ADDRESS	
IPv6 アドレス	NEW_IPV6_ADDRESS	
IP タイプ	NEW_IP_TYPE	

システムユーザのログイン名	NEW_SYSTEM_USER	
システムユーザのパスワード	NEW_SYSTEM_USER_PASSWORD	
SSH (Linux システム) またはリモートデスクトップ (Windows システム) 経由のサーバアクセス	NEW_SYSTEM_SHELL	
MS FrontPage サポート	NEW_FP_SUPPORT	
MS FrontPage over SSL サポート	NEW_FPSSL_SUPPORT	
MS FrontPageオーサリング	NEW_FP_AUTHORING	
MS FrontPage 管理者 ログイン	NEW_FP_ADMIN_LOGIN	
MS FrontPage 管理者 パスワード	NEW_FP_ADMIN_PASSWORD	
SSI サポート	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP サポート	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI サポート	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl サポート	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Apache ASP サポート	NEW_APACHE_ASP_SUPPORT	Linux シ ステムの み
ASP サポート	NEW_ASP_SUPPORT	Window s システ ムのみ
SSL サポート	NEW_SSL_SUPPORT	
ウェブ統計プログラム	NEW_WEB_STATISTICS	
カスタムエラードキュメント	NEW_CUSTOM_ERROR_DOCUMENTS	
ディスクスペース上のハ ードクォータ	NEW_HARD_DISK_QUOTA	

ホスティング設定の更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	以前使用した値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
IPv4 アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	
IPv6 アドレス	OLD_IPV6_ADDRESSES	NEW_IPV6_ADDRESS	
IP タイプ	OLD_IP_TYPE	NEW_IP_TYPE	
システムユーザ	OLD_SYSTEM_USER	NEW_SYSTEM_USER	
システムユーザのパスワード	OLD_SYSTEM_USER_PASSWORD	NEW_SYSTEM_USER_PASSWORD	
SSH (Linux システム) またはリモートデスクトップ (Windows システム) 経由のサーバアクセス	OLD_SYSTEM_SHELL	NEW_SYSTEM_SHELL	
FP 対応	OLD_FP_SUPPORT	NEW_FP_SUPPORT	
FP-SSL 対応	OLD_FPSSL_SUPPORT	NEW_FPSSL_SUPPORT	
FP オーサリング	OLD_FP_AUTHORIZING	NEW_FP_AUTHORIZING	
FP 管理者ログイン	OLD_FP_ADMIN_LOGIN	NEW_FP_ADMIN_LOGIN	
FP 管理者パスワード	OLD_FP_ADMIN_PASSWORD	NEW_FP_ADMIN_PASSWORD	
SSI サポート	OLD_SSI_SUPPORT	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP サポート	OLD_PHP_SUPPORT	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI サポート	OLD_CGI_SUPPORT	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl サポート	OLD_MOD_PERL_SUPPORT	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Apache ASP サポート	OLD_APACHE_ASPI_SUPPORT	NEW_APACHE_ASPI_SUPPORT	Linux システムのみ
ASP サポート	OLD_ASP_SUPPORT	NEW_ASP_SUPPORT	Windows システムのみ
SSL サポート	OLD_SSL_SUPPORT	NEW_SSL_SUPPORT	

ウェブ統計	OLD_WEB_STATISTICS	NEW_WEB_STATISTICS	
カスタムエラードキュメント	OLD_CUSTOM_ERROR_DOCUMENTS	NEW_CUSTOM_ERROR_DOCUMENTS	
ハードディスククォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	

ホスティング設定の削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須

標準またはフレーム転送ホスティングの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME	必須
IPv4 アドレス	NEW_IP_ADDRESS	
IPv6 アドレス	NEW_IPV6_ADDRESS	
転送タイプ	NEW_FORWARDING_TYPE	
URL	NEW_URL	

標準またはフレーム転送ホスティングの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	以前使用した値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
IPv4 アドレス	OLD_IP_ADDRESS	NEW_IP_ADDRESS	
IPv6 アドレス	OLD_IPV6_ADDRESS	NEW_IPV6_ADDRESS	
転送タイプ	OLD_FORWARDING_TYPE	NEW_FORWARDING_TYPE	
URL	OLD_URL	NEW_URL	

標準またはフレーム転送ホスティングの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須
転送タイプ	OLD_FORWARDING_TYPE	

ウェブユーザアカウントの作成

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME		必須
Web ユーザ名	NEW_WEBUSER_NAME		必須
SSI サポート	NEW_SSI_SUPPORT		
PHP サポート	NEW_PHP_SUPPORT		
CGI サポート	NEW_CGI_SUPPORT		
Perl サポート	NEW_MOD_PERL_SUPPORT		
Python サポート	NEW_MOD_PYTHON_SUPPORT		
Apache ASP サポート	NEW_APACHE_ASP_SUPPORT		Linux システムのみ
ASP サポート	NEW_ASP_SUPPORT		Windows システムのみ
ハードディスククォータ	NEW_HARD_DISK_QUOTA		

ウェブユーザアカウントの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
Web ユーザ名	OLD_WEBUSER_NAME	NEW_WEBUSER_NAME	必須

SSI サポート	OLD_SSI_SUPPORT	NEW_SSI_SUPPORT	
PHP サポート	OLD_PHP_SUPPORT	NEW_PHP_SUPPORT	
CGI サポート	OLD_CGI_SUPPORT	NEW_CGI_SUPPORT	
Perl サポート	OLD_MOD_PERL_SUPPORT	NEW_MOD_PERL_SUPPORT	
Python サポート	OLD_MOD_PYTHON_SUPPORT	NEW_MOD_PYTHON_SUPPORT	
Apache ASP サポート	OLD_APACHE ASP_SUPPORT	NEW_APACHE ASP_SUPPORT	Linux システムのみ
ASP サポート	OLD_ASP_SUPPORT	NEW_ASP_SUPPORT	Windows システムのみ
ハードディスククォータ	OLD_HARD_DISK_QUOTA	NEW_HARD_DISK_QUOTA	

ウェブユーザアカウントの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須
Web ユーザ名	OLD_WEBUSER_NAME	必須

ウェブアプリケーションのインストール

パラメータ名と説明	環境変数	備考
ヘルスモニタパラメータ (新旧で同じ値)	NEW_SITEAPP_NAME	必須
ドメインまたはサブドメイン	NEW_SITEAPP_DOMAIN_TYPE	必須
ドメイン/サブドメインに対して相対的な URL。ウェブ上でアプリケーションにアクセスする際に使用します。	NEW_SITEAPP_INSTALL_PREFIX	必須

ウェブアプリケーションの再構成

パラメータ名と説明	環境変数		備考
	以前使用した値	新しい値	
ヘルスモニタパラメータ (新旧で同じ値)	OLD_SITEAPP_NAME	NEW_SITEAPP_NAME	必須
ドメインまたはサブドメイン	OLD_SITEAPP_DOMAIN_TYPE	NEW_SITEAPP_DOMAIN_TYPE	必須
ドメイン/サブドメインに対して相対的な URL。ウェブ上でアプリケーションにアクセスする際に使用します。	OLD_SITEAPP_INSTALL_PREFIX	NEW_SITEAPP_INSTALL_PREFIX	必須

ウェブアプリケーションのアンインストール

パラメータ名と説明	環境変数		備考
	以前使用した値	新しい値	
ヘルスモニタパラメータ (新旧で同じ値)	OLD_SITEAPP_NAME		必須
ドメインまたはサブドメイン	OLD_SITEAPP_DOMAIN_TYPE		必須
ドメイン/サブドメインに対して相対的な URL。ウェブ上でアプリケーションにアクセスする際に使用します。	OLD_SITEAPP_INSTALL_PREFIX		必須

ウェブアプリケーションのアップグレード

パラメータ名と説明	環境変数		備考
	以前使用した値	新しい値	
ヘルスモニタパラメータ (新旧で同じ値)	OLD_SITEAPP_NAME	NEW_SITEAPP_NAME	必須
ドメインまたはサブドメイン	OLD_SITEAPP_DOMAIN_TYPE	NEW_SITEAPP_DOMAIN_TYPE	必須
ドメイン/サブドメインに対して相対的な URL。ウェブ上でアプリケーションにアクセスする際に使用します。	OLD_SITEAPP_INSTALL_PREFIX	NEW_SITEAPP_INSTALL_PREFIX	必須

ライセンスキーの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ライセンスキー番号	OLD_LICENSE	NEW_LICENSE	必須
ライセンスキーのタイプ (Parallels Plesk Panel、追加)	OLD_LICENSE_TYPE	NEW_LICENSE_TYPE	
ライセンスキーの名前 (追加キー用)	OLD_LICENSE_NAME	NEW_LICENSE_NAME	

ライセンスキーの期限切れ

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ライセンスキー番号	OLD_LICENSE	必須

データベースサーバの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
データベースサーバの IP アドレス	NEW_DATABASE_SERVER	必須

データベースサーバの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
データベースサーバの IP アドレス	OLD_DATABASE_SERVER	NEW_DATABASE_SERVER	必須

データベースサーバの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
データベースサーバの IP アドレス	OLD_DATABASE_SERVER	必須

データベースの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
データベースサーバの IP アドレス	NEW_DATABASE_SERVER	必須
データベース名	NEW_DATABASE_NAME	必須

データベースの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
データベースサーバの IP アドレス	OLD_DATABASE_SERVER	必須
データベース名	OLD_DATABASE_NAME	必須

データベースユーザアカウントの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
データベースサーバの IP アドレス	NEW_DATABASE_SERVER	必須
データベースの識別番号	NEW_DATABASE_ID	必須
データベースユーザ名	NEW_DATABASE_USER_NAME	必須
データベースのユーザパスワード	NEW_DATABASE_USER_PASSWORD	

データベースユーザアカウントの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
データベースサーバの IP アドレス	OLD_DATABASE_SERVER	NEW_DATABASE_SERVER	必須
データベースの識別番号	OLD_DATABASE_ID	NEW_DATABASE_ID	必須
データベースユーザ名	OLD_DATABASE_USER_NAME	NEW_DATABASE_USER_NAME	必須
データベースのユーザパスワード	OLD_DATABASE_USER_PASSWORD	NEW_DATABASE_USER_PASSWORD	

データベースユーザアカウントの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
データベースサーバの IP アドレス	OLD_DATABASE_SERVER	必須
データベースの識別番号	OLD_DATABASE_ID	必須
データベースユーザ名	OLD_DATABASE_USER_NAME	必須
データベースのユーザパスワード	OLD_DATABASE_USER_PASSWORD	

Parallels Plesk Panel コンポーネントの更新/追加

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
Parallels Plesk Panel コンポーネント名	OLD_PLESK_COMPONENT_NAME	NEW_PLESK_COMPONENT_NAME	必須

リセラープランの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
リセラープラン ID	NEW_TEMPLATE_ID	必須

リセラープランの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
リセラープラン ID	OLD_TEMPLATE_ID	NEW_TEMPLATE_ID	必須

リセラープランの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
リセラープラン ID	OLD_TEMPLATE_ID	必須

リセラーのサービスプランの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
プラン ID	NEW_DOMAIN_TEMPLATE	必須

リセラーのサービスプランの更新

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
プラン ID	OLD_DOMAIN_TEMPLATE	必須

リセラーのサービスプランの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
プラン ID	OLD_DOMAIN_TEMPLATE	必須

管理者のサービスプランの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
プラン ID	NEW_ADMIN_TEMPLATE	必須

管理者のサービスプランの更新

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
プラン ID	OLD_ADMIN_TEMPLATE	必須

管理者のサービスプランの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
プラン ID	OLD_ADMIN_TEMPLATE	必須

FTP アカウントの作成

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	NEW_DOMAIN_NAME	必須
ホームディレクトリ	NEW_HOME_DIRECTORY	必須
システムユーザ名	NEW_SYSTEM_USER	
システムユーザパスワード	NEW_SYSTEM_USER_PASSWORD	

FTP アカウントの更新

パラメータ名と説明	環境変数名		備考
	これまで使用していた値	新しい値	
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	NEW_DOMAIN_NAME	必須
ホームディレクトリ	OLD_HOME_DIRECTORY	NEW_HOME_DIRECTORY	必須
システムユーザ名	OLD_SYSTEM_USER	NEW_SYSTEM_USER	必須
システムユーザパスワード	OLD_SYSTEM_USER_PASSWORD	NEW_SYSTEM_USER_PASSWORD	

FTP アカウントの削除

パラメータ名と説明	環境変数名	備考
ドメイン名	OLD_DOMAIN_NAME	必須
ホームディレクトリ	OLD_HOME_DIRECTORY	必須
システムユーザ名	OLD_SYSTEM_USER	
システムユーザパスワード	OLD_SYSTEM_USER_PASSWORD	

サーバヘルスステータスの変更

パラメータ名と説明	環境変数		備考
	以前使用した値	新しい値	
ヘルスモニタパラメータ (新旧で同じ値)	OLD_HEALTH_PARAMETER	NEW_HEALTH_PARAMETER	必須
パラメータのステータス	OLD_STATUS	NEW_STATUS	必須

イベントハンドラを削除する

➤ イベントハンドラを削除するには：

1. [ツールと設定] > [イベントマネージャ] に進みます。
2. ハンドラのリストでチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。

第 13 章

用語集

アドオンプラン

ユーザが契約するサービスプランを補足するために追加するプラン。ユーザに割り当てて、ディスク容量や帯域幅割り当てを増加することなどができます。1 人のユーザが契約できるのは、1 つのサービスプランと複数のアドオンプランです。

リセラープラン

ホスティングサービスのリセラーに提供されるリソースとサービスのセット。リセラーは、このリソースを使用して独自のウェブサイトをホスティングしたり、ホスティング顧客にサービスを提供することができます。

ホスティングプラン

ホスティングサービスの顧客に提供されるリソースとサービスのセット。通常、リソースにはサーバーのディスクスペース（ウェブスペース）とウェブサイトのホスティング用の帯域幅が含まれます。ユーザに割り当て可能で、ディスク容量や帯域幅割り当てを増加することができるアドオンプランもあります。

契約

どのユーザアカウントがどのサービスプランを契約しているのかという情報を保持する Panel 内のレコード。

カスタム契約

サービスプランと関連付けられていない契約。

ウェブスペース

サービスプランに従ってユーザに割り当てられている、サーバ上の物理ディレクトリ。